

令和6年度

東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2024



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

令和 6 年度

東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2024



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

目次

はじめに……………	3
概 要……………	5
各事業報告……………	13
1 展覧会事業……………	15
2 公募展事業……………	25
3 アート・コミュニケーション事業……………	43
4 アメニティ事業……………	65
5 広報事業・諸活動……………	75
実績データ……………	89
1 2024(令和6)年度の実績……………	90
2 これまでの実績……………	96
資料1……………	105
資料2……………	119

はじめに

東京都美術館は、すべての人に開かれた「アートへの入口」となり、「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場として、人々の心のゆたかさの拠り所となることを使命としています。

2024(令和6)年度は、指定管理期間4年目にあたり、2年後に控えた東京都美術館開館100周年に向けてさらに事業の質を高めていくために、事業の着実な実施と事業間の連携や相乗効果を一層図り、魅力的な事業展開を推進しました。

安全第一に美術館運営を行う中、特別展では土日祝日を基本とする日時指定制を引き続き実施し、講演会等での手話通訳をはじめ日本語字幕の標準化や作品の触図を制作するなどアクセシビリティの向上や鑑賞サポートに努めました。

「公募展事業」も着実に運営しました。アートや文化資源を介して人々のつながりや新たなコミュニケーションを育む「アート・コミュニケーション事業」は、今年度もオンラインとリアルを組み合わせた各種プログラムを実施し、高齢者向け新規事業を軌道にのせるなど、活発に事業を展開しました。

この年報は、社会と東京都美術館をつなぎ、よりよい美術館運営を行うための大切なツールと位置づけています。編集にあたっては、各事業の内容や成果、実績を分かりやすく紹介することを心がけました。この年報を通して、東京都美術館の活動に一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。

令和7年10月
東京都美術館

概 要

東京都美術館の使命と事業

「都民のための美術の振興を図る」という東京都美術館の設置目的を果たし、東京都が定めた基本的な使命を達成するために、2012(平成24)年のリニューアルを機に指定管理者として管理運営の基本方針を以下のように定めました。

指定管理期間2021(令和3)年度から2026(令和8)年度まで(6年間)において、この基本方針に沿って事業のさらなる充実を図っていきます。

東京都美術館の使命(ミッション)

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある方が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。

新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

東京都美術館の4つの役割

- 1. 世界と日本の名品に出会える美術館
- 2. 伝統を重視し、新しい息吹との融合を促す美術館
- 3. 人々の交流の場となり、新しい価値観を生み出す美術館
- 4. 芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める美術館

4つの役割を具現化する4つの柱

- ・特別展や企画展など、見る喜び、知る楽しさを提供する「展覧会事業」
- ・公募団体やグループと連携し、つくる喜びを共有する「公募展事業」
- ・アート・コミュニティ形成による新たな可能性を探求する「アート・コミュニケーション事業」
- ・アートラウンジや美術情報室、ミュージアムショップ、レストラン等、訪れる楽しさを充実させる「アメニティ事業」



「アートへの入口」を目指す10の取組

1 特別展

報道機関との共催により、「世界と日本の名品」に出会う大型の展覧会を開催

2 企画展

アートとライフ(生き方、生命、生活)の深い関係に迫る「アーツ&ライフ展」、日本の現存中堅作家の活動に注目した「現代作家展」、アートとケア(新しい価値観との出会い、学び)をコンセプトに多彩な作り手を紹介する「アーツ&ケア展」の3つのテーマを基本に、毎年1つのテーマを取り上げる独自の企画による展覧会を実施

3 コレクション展

東京都美術館がコレクションとして所蔵する「書」作品を展示するほか、都立の美術館、博物館が所蔵する「東京都コレクション」を紹介する展覧会を実施

4 公募団体展

絵画、彫刻、工芸、書などの作品を公募する団体が主催する展覧会で、年間40会期、約250団体により展覧会を開催

5 学校教育展

教育委員会や高校・大学などの教育支援として行うもので、美術館が児童・生徒・学生の作品発表の場となる展覧会を開催

6 公募展活性化事業

- (1) 上野アーティストプロジェクト
公募展で活躍する優れた現代作家を毎年テーマを決めて選定し紹介する企画展を実施
- (2) 都美セクション グループ展
新しい発想によるアートの作り手の支援を目的として、企画を公募し、審査により選抜されたグループとともに、ギャラリー空間を生かした展覧会を実施

7 アート・コミュニケーション事業

東京藝術大学との連携事業「とびらプロジェクト」や展覧会に合わせたプログラム(コミュニケーション・プログラム)、障害のある方のためのプログラム(アクセス・プログラム)などを通して「アートへの入口」を継続的に創出。同時に東京都と東京藝術大学と共に行う主催事業「Museum Start あいうえの」では上野公園の文化施設と連携をとりながら、より豊かな体験を提供できるよう事業を展開

- (1) とびらプロジェクト
東京藝術大学と連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を実現していくことを目的に活動。公募によるアート・コミュニケータ(愛称：とびラー)が美術館や文化財を介した新しいコミュニティの回路を作る役割を持ち、学びと実践を繰り返しながらプロジェクトを推進

(2) Museum Start あいうえの

上野公園の9つの文化施設が連携し、上野地域の文化財や文化活動の価値をより認知しやすい環境を作り、子供たちのミュージアム・デビューを応援することを目的とする。「学校プログラム」「ファミリー・プログラム」の2つのプログラムに加えて、ミュージアムを利用しづらい子供たちを招待する「ダイバーシティ・プログラム」も実施

(3) Creative Ageing ずっとび

歳を重ねても「ずっと」通いたくなる美術館を目指し、シニア世代を対象に、作品や人とクリエイティブに出会える、参加型のプログラムを企画

(4) 教育普及プログラム

- ①障害のある方のための特別鑑賞会
障害のある方が安心して鑑賞できるよう、事前申込制で特別展ごとに開催。アート・コミュニケータがサポート
- ②学校連携
学校の授業や活動として来館する団体への日常的な対応や、教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受入など
- ③展覧会関連プログラム
東京都美術館で開催される各展覧会をより深く体験するためのプログラムを開催。講演会やワークショップ、ギャラリートークなど実施
- ④建築ツアー
東京都美術館の建築をアート・コミュニケータと共に歩き観察することにより、美術館に親しみその活用のしかたへの理解が深まるツアーを開催
- ⑤その他の様々な試み
キッズデーの実施やジュニアガイドの作成。各種フォーラムの開催やアート・コミュニケーション事業に関する事業のアーカイブ化など調査研究活動も実施

8 佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

東京都美術館創設に寄与した佐藤慶太郎氏の名前を冠したラウンジを運営。東京都内の美術館を中心にした展覧会などの情報にアクセスできるインフォメーション・サービスを提供。毎年テーマを決めて当館の歴史を紹介するアーカイブズ資料展示も実施

9 美術情報室、アーカイブズ資料

図書、雑誌及び展覧会図録など約5万冊のほか、東京都美術館に関連したアーカイブズ資料約6,000件を収蔵管理し、閲覧室として運営

10 ミュージアムショップ、レストラン・カフェ

日々の暮らしをもっと豊かにする楽しいグッズを取り揃えたミュージアムショップを展開。館内で過ごすひとときを楽しむためのメインダイニング、グランドレストラン、カフェを運営

東京都美術館のロゴマーク



2012(平成24)年4月のリニューアルに合わせて、東京都美術館のシンボルとなるロゴマークが誕生した。このロゴマークは、世界的に活躍するデザイナー・吉岡徳仁氏によるもので、「誰にでもわかる明快さ・親しみやすさ」「シンボリックなイメージ」「歴史と未来の融合」「日本をイメージ」といったキーワードをもとに制作された。

2種類のロゴマークには、100年近い当館の歴史や重厚感と同時に、未来へ向けた可能性を感じさせる軽やかさが表現されている。美術館そのものを表すときは色のついた立方体のもの、各事業を表すときは線で描かれた透明性のあるもの、と使い分けている。長く愛され、世界に通用する「100年先の東京都美術館」を見据えた、シンプルで色褪せない魅力にあふれたデザインとなっている。

注)
東京都美術館のロゴマークは公益財団法人東京都歴史文化財団の登録商標である。[参考：商標登録第5520726号、第5520727号]

沿革

1921(大正10)年	3月	北九州の実業家・佐藤慶太郎氏から100万円の寄付
1926(大正15)年	5月	東京府美術館開館(設計：岡田信一郎／開館記念日5月1日)
1943(昭和18)年		都制施行により東京都美術館と名称変更
1965(昭和40)年		建物老朽度調査を実施(～1967(昭和42)年まで)
1968(昭和43)年		美術館建設準備委員会を設置
1972(昭和47)年		新館建設工事着工(設計：前川國男建築設計事務所)
1975(昭和50)年	3月	工事完了
	9月	新館開館。貸館中心だった事業を自主事業として企画展の開催、美術文化事業、美術図書室の運営等を実施。作品収集にも力を注ぐ
1977(昭和52)年	3月	旧館取り壊し工事及び旧館跡地造園工事完了
1994(平成6)年	4月	全収蔵作品及び美術図書資料を東京都現代美術館に移管。以降、報道機関との共催展と、美術団体等による公募展を活動の柱とする
1995(平成7)年	3月	東京都現代美術館開館
1996(平成8)年	4月	東京都教育委員会から(財)東京都教育文化財団(後に東京都生涯学習文化財団へ名称変更)へ管理運営が委託
1998(平成10)年	9月	ミュージアムショップがオープン
2002(平成14)年	4月	(財)東京都生涯学習文化財団から(財)東京都歴史文化財団へ管理運営委託先を変更
2006(平成18)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として3年間管理運営を受託
	5月	開館80周年記念祭を実施
2009(平成21)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が指定管理者として8年間管理運営を受託
2010(平成22)年	4月	(財)東京都歴史文化財団が公益財団法人へ移行施設設備の老朽化のため大規模改修工事(設計：前川國男建築設計事務所)を実施。約2年間休館
	5月	リニューアル準備室を旧坂本小学校内(台東区下谷)に開設
2011(平成23)年	7月	東京都現代美術館から彫刻作品12点、書作品36点を再移管
	11月	ロゴ・シンボルマークを制定(デザイン：吉岡徳仁デザイン事務所)
2012(平成24)年	3月	博物館法による博物館相当施設に指定
	4月	リニューアルオープン(企画棟除く)。ユニバーサルデザインを採り入れ、展示室の環境改善を行い、レストランやショップを充実。新たな管理運営方針のもと、多様な自主企画の展覧会やアート・コミュニケーション事業等を展開
	6月	リニューアル記念特別展「マウリッツハイス美術館展」オープン(企画棟含め全面オープン)
2016(平成28)年		開館90周年。記念フォーラム、記念展、アーカイブズ資料展示を実施
2017(平成29)年	4月	(公財)東京都歴史文化財団が指定管理者として4年間管理運営を受託
2021(令和3)年	4月	(公財)東京都歴史文化財団が指定管理者として6年間管理運営を受託

東京都(府)美術館 歴代館長一覧

氏名	就任年月日
平塚 広義	1926(大正15)年5月1日
中川 建蔵	1929(昭和4)年7月5日
牛塚 虎太郎	1929(昭和4)年10月9日
長谷川 久一	1931(昭和6)年12月18日
藤沼 庄平	1932(昭和7)年1月12日
香坂 昌康	1932(昭和7)年5月27日
横山 助成	1935(昭和10)年1月15日
館 哲二	1937(昭和12)年2月10日
岡田 周造	1938(昭和13)年6月24日
川西 実三	1941(昭和16)年1月17日
松村 光磨	1942(昭和17)年1月9日
生悦住 求馬	1943(昭和18)年7月1日
清水 虎雄	1945(昭和20)年6月21日
館林 三喜男	1945(昭和20)年10月24日
宇佐美 毅	1946(昭和21)年1月25日
田中 豊蔵	1947(昭和22)年10月24日
宇佐美 毅	1948(昭和23)年5月1日
尾川 藤十郎	1950(昭和25)年4月1日
加藤 清一	1950(昭和25)年4月25日
杉山 司七	1950(昭和25)年8月1日
早川 治平	1955(昭和30)年6月1日
堀口 鋼鉄	1959(昭和34)年12月1日
沼沢 武彦	1960(昭和35)年12月1日
阿部 敏武	1963(昭和38)年7月15日
今井 治夫	1967(昭和42)年5月22日
植野 一男	1971(昭和46)年12月1日
小杉山 清	1974(昭和49)年7月6日 (館長事務取扱 社会教育部長)
新島 武	1974(昭和49)年12月1日
工藤 昭和	1977(昭和52)年7月11日
村上 七郎	1979(昭和54)年8月1日
富永 次雄	1982(昭和57)年8月1日
本江 哲郎	1984(昭和59)年12月1日
長尾 正平	1987(昭和62)年6月1日
佐藤 好雄	1988(昭和63)年8月1日
信川 成正	1989(平成元)年8月1日
青山 康行	1990(平成2)年8月1日
村林 宗昭	1993(平成5)年7月16日
真室 佳武	1995(平成7)年4月1日
高橋 明也	2021(令和3)年10月1日

4月	7日	特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」開幕
	27日	特別展「デ・キリコ展」開幕(～8月29日まで)
6月	10日	「障害のある方のための特別鑑賞会」を「デ・キリコ展」にて開催 公募で選ばれた3グループによる展覧会「都美セレクトション グループ展 2024」開幕(～6月30日まで)
7月	20日	企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」開幕(～10月9日まで)
	30日	「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 ずっとアートと生きていくー上田薫と上田葉子の生き方に学ぶ、クリエイティブ・エイジング」開幕(～8月11日まで)
9月	19日	特別展「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」開幕(～12月1日まで)
10月	1日	「都民の日」により、企画展入場無料(入場者数4,618人)
11月	6日	アーカイブズ資料展示「東京都美術館と佐藤慶太郎」開催(～12月1日まで)
	11日	「障害のある方のための特別鑑賞会」を「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」にて開催
	16日	上野アーティストプロジェクト2024「ノスタルジアー記憶のなかの景色」開幕(～1月8日まで) コレクション展「懐かしさの系譜ー大正から現代まで 東京都コレクションより」開幕(～1月8日まで)
	17日	とびらプロジェクトオープンレクチャー Vol.15「ろう者・難聴者・聴者がいっしょに「」を開催
	20日	入場者数20万人セレモニーを「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」にて開催
1月	26日	とびらプロジェクトフォーラム「交差するミュージアム 関わりからクリエイティビティがうまれる」を開催
3月	1日	特別展「ミロ展」開幕(～7月6日まで)

2024(令和6)年度 実績と評価

2024(令和6)年度は、昨年度に引き続き、良好な鑑賞環境保持のために、特別展の土日祝日及び会期末は日時指定制を堅持して、安全第一に美術館の運営を行った。「展覧会事業」に加え「公募展事業」「アート・コミュニケーション事業」「アメニティ事業」を事業計画書に提案したとおり着実に実施し、約172万人の来館者を迎えることができた。

実績

展覧会事業

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、その世界的受容と展開を日本の外光派等も含めて分かりやすく紹介。「デ・キリコ展」では良質な作品を軸とした回顧展を実現し、内容の満足度は過去最高となった。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」は画業を総覧する大回顧展となり、近代日本画家の個展としては、異例の動員を達成した。「ミロ展」は複数の代表作を集め、国内での決定版的な内容となった。年間観覧者数は、基準値に届かなかったが、これは特別展の開催日数が基準値の算定根拠となる250日より50日少なかったことによるものであり、開催一日当たりの観覧者数に換算すると、むしろ基準値を大きく上回った。企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」では、自然を主題としつつ、さまざまな連想へ誘う展示構成とし、コレクション展「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」は懐かしさをテーマに選んだ作品を紹介、いずれの展覧会も目標を超える観覧者数を達成した。

公募展事業

公募展事業の2026(令和8)年度の単年度使用割当は94.8%の割当となった。2024(令和6)年度開催の学校教育展・公募団体展は各主催団体に協力を要請しながら安全に実施した。

「都美セレクション グループ展 2024」では、現代美術の動向を反映する3つの企画を実施した。

「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア―記憶のなかの景色」は、公募団体展にゆかりのある幅広い世代の8作家による、懐かしい風景、ノスタルジアをテーマとしたもので、広報物のイメージに惹かれ訪れたという来場者も多くあった。ギャラリーAの中央に8畳大の畳敷きの空間を設けたり、作品脇に作家本人によるノスタルジアについてのコメントを掲出するなど、ゆったりと作品を鑑賞できる工夫がたいへん好評を得た。

アート・コミュニケーション事業

「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」「Creative Ageing ずっとび」で、今年度も事業を推進した。特別展や企画展と連動させ、ワークショップやレクチャーなど、多様なプログラムを実施した。

「Creative Ageing ずっとび」では、認知症の高齢者とその家族とアート・コミュニケータとが東京藝術大学大学美術館で鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関そして大学美術館と連携し、対話型鑑賞のプログラムを実施した。

アメニティ事業

アメニティ事業では、ミュージアムショップ、美術情報室、レストラン・カフェ等で日々さらなるホスピタリティの向上に努めた。展覧会担当者と広報担当者がレストランやショップの特別展メニューやグッズ開発に協力したこともあり、いずれも売上げが好調で収入面でも寄与した。

自己評価

特別展においては、引き続き、土日祝日を基本とする日時指定制を実施。また、講演会での手話通訳や日本語字幕の実施を標準化し、特別展出品作品の触図や収蔵品レリーフの触察模型等を制作するなど、アクセシビリティの向上や鑑賞サポートに努め、ショップ、美術情報室、レストラン等において、丁寧な来館者対応を日々心掛けるよう努めた。

「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では、印象派の世界的受容と展開を日本の外光派などの紹介も加えて分かりやすく紹介。「デ・キリコ展」では、20世紀を代表する画家の一人でありながら、日本ではなかなか全体像を見る機会のない画家の極めて良質な回顧展とし、過去最高の満足度を達成した。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」では、未だ十全に美術史への位置づけのなされていない画家の真髄に迫る、決定版的な大回顧展を実現し、近代日本画家の個展としては異例の動員を達成した。

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」では、自然をテーマにし、自身もそこに密接に関わるなか、多様な表現を生み出す5人の現代作家たちにより構成。「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」では、「懐かしさ」をテーマに、絵画、写真、資料などでたどる展示とした。いずれも、目標以上の入場者数と満足度を達成した。

公募展事業では、年間を通じての公募展運営とともに、2026(令和8)年度の単年度使用割当を円滑に決定するとと

もに、次期の新たな使用割当に向けての見直しを行った。「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア―記憶のなかの景色」では、ノスタルジアを強く感じさせる風景、人のいる情景、幻想絵画などを描いてきた個性的な8名の作家たちを紹介、関連事業ではダンス・ウェルの実施の他、トークイベントにて文字通訳を配備しアクセシビリティへの工夫も行った。「都美セレクション グループ展 2024」では、絵画、写真、映像など現代美術の動向を反映する3つの企画を実施した。

アート・コミュニケーション事業では、本年度も「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」「Creative Ageing ずっとび」で、引き続き活発な活動を続けた。また、「オールジャパン戦略事業」では、本年度から事業の実装を開始した愛媛県や川崎市も含めて、アートを介してコミュニティを育む事業を行っている全国の拠点をつなぎ、勉強会を進めた。「Creative Ageing ずっとび」では、アクティブシニアを対象に身体を動かし人生をふりかえるワークショップや、初期認知症の高齢者とその家族を対象にアート・コミュニケータと作品と一緒に鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関と連携して実施した。公募展示室では「クリエイティブ・エイジング」をキーワードに、これまでのアート・コミュニケーション事業を一般に分かりやすく紹介する「アート・コミュニケーション事業を体験する2024」を実施した。

上野公園の文化施設の連携を継続しながら、広報においても引き続き上野の商業施設との連携広報の取り組みを積極的に行った。

2025(令和7)年度においても、「アートへの入口」を標榜する当館ならではのバラエティに富んだ事業展開を行うとともに、2026(令和8)年の開館100周年に向けて、着実に事業を実施していく。

外部評価委員会による評価(総括的な意見)

2024(令和6)年度の本館活動・運営を評価的に総括するとすれば、第一に、文化芸術領域におけるダイバーシティを先進的に追求し実績あるモデルを定着しえたということである。第二に、各種展覧会を中心とする作品・資料保存・活用・鑑賞にかかわる諸事業においては、特に本年、期せずして既存美術評価軸・価値規範・20世紀美術史枠組の再考を誘う展示を相次いで実現し、大きな成果をあげたことを指摘しておきたい。いずれの展覧会も、その個々の美術家のみならず、20世紀美術枠組みそのものの再検討ま

でも誘う意義を有するものといえる。

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」や「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア―記憶のなかの景色」、そして「都美セレクション グループ展 2024」3グループの自主企画展といった諸事業は、総体として本年の展覧会事業を極めて意義高いものとしており、いずれも創意と主体性を感じさせる活動によって適正かつ活発に遂行され成果をあげている。

すべてにおいて質の高い取り組みの見られた一年であった。特別展・企画展ともに企画がよく練られ、会場の構成も分かりやすいものだった。特に「デ・キリコ展」や「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」は、わが国におけるこれら芸術家の評価を語るうえで重要なイベントとなったことであろう。特別展・企画展の関連事業も充実していた。

アート・コミュニケーション事業はこれまでと同様に高いレベルの活動が行われており、国内他館に模範を提供するものであった。社会においてアクセシビリティやダイバーシティがますます重視されることは間違いなく、これらに着目したプログラムは日本の美術館・博物館から注目されることだろう。

展覧会事業として共催展(「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」、「デ・キリコ展」、「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」、「ミロ展」)の開催だけでもたいへんな労力を必要としているが、さらに自主企画展(「大地に耳をすます 気配と手ざわり」「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア―記憶のなかの景色」、コレクション展「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」)を開催している。加えて、公募展事業、アート・コミュニケーション事業、アメニティ事業を実施し、少数精鋭スタッフで効率的に効果的に運営していることは称賛されるべきである。さまざまな活動に領域を広げているアート・コミュニケーション事業は全国の美術館にとって参考事例となる模範的活動といえるだろう。

美術館にあらゆる人々を迎え入れようとするアクセシブルな姿勢が、アート・コミュニケーション事業や広報戦略によって強く打ち出されている。来館者像を広くとらえ、美術愛好家のみならず、ファミリー、子ども、学校に加え、高齢者や障害者、外国人、日本語を母語としない人など、それぞれが必要とするニーズを的確にとらえ、社会共生担当を置くなどして、意欲的に対応している。この姿勢は、美術館の役割についてのイメージを更新させる力強さがあり、都美の存在を際立たせていると感じる。

各事業報告

1

展覧会事業

「アートへの入口」となり、「心のゆたかさの拠り所」を目指すミッションを果たすべく、バラエティに富んだ3つの展覧会事業を実施している。報道機関と共催し、世界や日本の名品を紹介する「特別展」、2012年のリニューアルオープンを機にスタートした独自のテーマ設定による「企画展」、そして、当館のコレクションのほかに、都立の美術館、博物館の所蔵品によって構成される「コレクション展」である。

特別展

デ・キリコ展

田中一村展 奄美の光 魂の絵画

企画展

大地に耳をすます 気配と手ざわり

コレクション展

懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより

*「ミロ展」（会期：2025年3月1日～7月6日）は、次年度(2025(令和6)年度)版に収録予定。

【特別展】

デ・キリコ展

Giorgio De Chirico: Metaphysical Journey

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、朝日新聞社
後援／イタリア大使館、J-WAVE
特別協賛／大和証券グループ
協賛／ダイキン工業、大和ハウス工業、竹中工務店、NISSHA
協力／ジョルジョ・エ・イーザ・デ・キリコ財団、メタモルフォジ財団、イタリア文化会館、日本航空、日本貨物航空、ルフトハンザ カーゴ AG、ITAエアウェイズ
会期／ 2024年4月27日(土)～8月29日(木)
会場／企画展示室
出品点数／ 110点
観覧料／一般 2,200円、大学生・専門学校生 1,300円、65歳以上 1,500円
担当／高城靖之

20世紀を代表する巨匠の一人、ジョルジョ・デ・キリコ(1888-1978)。本展では、デ・キリコのおよ70年にわたる画業を「イタリア広場」「形而上的室内」「マスカン」などのテーマに分け、初期から晩年までの作品を余すところなく紹介し、デ・キリコが描いた世界をたどる内容となった。展示はデ・キリコの絵画を5章構成で紹介し、絵画以外の彫刻や挿絵、舞台美術もトピックとしてまとめて展示した。90歳まで生きたデ・キリコの作風の変化が感じられるよう、各時代の代表的な作品でその生涯を辿った。特に、デ・キリコの代名詞ともいえる1910年代の「形而上絵画」は約10点が出品され、同じテーマやモチーフを扱った後の時代の作品と並べることで、時代による違いを見比べられるような展示とした。また、デ・キリコ作品によく出てくる列柱や窓を展示室内にも再現し、さらに壁を斜めにすることで、まるで作品の中に入ったかのような演出を行い、ただ見るだけではなく、作品の世界を体験できるような工夫を凝らした。



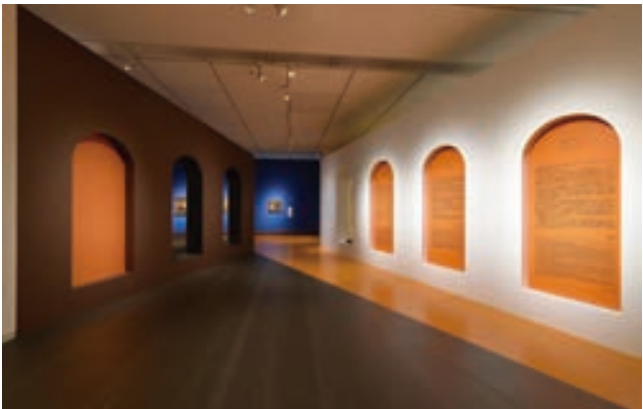
ポスター



図録表紙



チラシ



会場風景

撮影：大谷一郎

実績
入場者数／ 234,391人(1日平均 2,275人)

関連企画
なし

掲載記事など
・「デ・キリコ展」／『日曜美術館 アートシーン』（NHK Eテレ）2024年5月26日
・「今、この謎に出会う。巨匠デ・キリコの魅惑 世界を虜にした天才画家の大回顧展へ」（BSフジ）2024年6月15日
・「日常に潜む 異次元への旅」田中ゑれ奈／『朝日新聞』（朝日新聞社）2024年4月24日
・「アートの葉 たたずむマネキン 解けない謎」竹内和佳子／『読売新聞』（読売新聞社）2024年6月5日
・「美の履歴書 偽りの「1950」 皮肉屋の狙いは」田中ゑれ奈／『朝日新聞』（朝日新聞社）2024年7月23日
・「デ・キリコ展」／『はじめての美術館』（TOKYO MX）2024年7月28日

図録[W230mm×H305mm／248ページ]
・「ジョルジョ・デ・キリコ 20世紀のアルゴナウテス」
ファビオ・ベンツィ(キューティ・ベスカラ大学教授(現代美術)／ジョルジュ・エ・イーザ・デ・キリコ財団学術委員会委員)pp.156-186
・「ジョルジョ・デ・キリコと彫刻」
金井 直(信州大学人文学部教授)pp.187-192

【特別展】
田中一村展 奄美の光 魂の絵画

Tanaka Isson: Light and Soul

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、
鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館、NHK、
NHKプロモーション、日本経済新聞社
協賛／DNP大日本印刷、日本典礼
特別協力／千葉市美術館
協力／ANA、Peach
監修／松尾知子(千葉市美術館 副館長)
会期／2024年9月19日(木)～12月1日(日)
会場／企画展示室
出品点数／312点(参考出品1点を含む)
観覧料／一般 2,000円、大学生・専門学校生 1,300円、65
歳以上 1,500円
担当／中原淳行、山田桂子、中江花菜



ポスター

幼少期から卓越した画才を示し、東京美術学校(現・東京
藝術大学)日本画科に現役で合格するも2カ月で退学。東京
都美術館での公募展で落選を重ね、無名のまま奄美大島で
生涯を終えた田中一村(明治41年[1908]-昭和52年[1977])。
本展では画家の「不屈の情熱の軌跡」を、絵画のみならず、
木工品、写真、書簡などの資料を含めて振り返った。

構成は1フロアに1章をあてた全3章立て。第1章は、
若き南画家「田中米邨」東京時代、第2章は、千葉時代「一村」
誕生、第3章は、「己の道 奄美へ」。8歳から69歳の没年
まで、作品はほぼ制作年順の並びとした。総点数312点の
うち約50点が初公開の個人コレクションであり、これら
新出作品により、一村の多面的な仕事の一端が明らかにな
るとともに、絶縁関係にあったとされていた支援者との交
流が裏付けられた。

本展は晩年に奄美で描かれた代表作の2点、《アダンの
海辺》(昭和44年[1969]、個人蔵)と《不喰芋と蘇鐵》(昭
和48年[1973]以前、個人蔵)が14年ぶりに並べて展示さ
れるなど、一村芸術の真髄へ多角的に迫り得る、決定版的
な大回顧展となった。

図録[A4変型判／269ページ]

- ・「一村への道」
宮崎緑(田中一村記念美術館 館長・奄美パーク園長)pp.6-7
- ・「総論 田中一村 奄美の光 不屈の情熱の光」
松尾知子(本展監修者、千葉市美術館 副館長)pp.8-17
- ・「上野から奄美へ——田中一村の軌跡」
中原淳行(東京都美術館 学芸担当課長)pp.242-245
- ・「奄美の一村と、没後の広がり」
上原直哉(田中一村記念美術館 学芸員)pp.246-251



ポスター



図録表紙



チラシ

- ・コラム
「column1 10代の一村 東京美術学校退学後の活躍」松尾知子 p.32、
「column2 知られざる動向 信州や関西へ 支えた人々」松尾知子 p.49、
「column3 田中一村と川端龍子——《白い花》と《秋晴》をめぐって」木村
拓也(大田区立龍子記念館 副館長／主任学芸員)p.100、「column4 やわ
らぎの郷の滞在」松尾知子 p.146、「column5 旅土産の色紙」松尾知子
p.156、「column6 奄美の人々との交流」上原直哉 p.173、「column7 奄美
での生活と創作」上原直哉 p.180、「column8 一村と写真」中原淳行 p.190



会場風景

撮影：大谷一郎

実績
入場者数／288,364人(1日平均4,506人)

関連企画
・記念講演会
9月21日(土) 14:00～15:30 講堂／参加者数173人
テーマ／「奄美と一村」
講師／宮崎緑(田中一村記念美術館 館長・奄美パーク園長)
10月20日(日) 14:00～15:30 講堂／参加者数207人
テーマ／「田中一村 不屈の情熱の軌跡」
講師／松尾知子(本展監修者、千葉市美術館 副館長)
・ISSON NIGHT
9月23日(月・祝) 19:00～21:00 Robin Club 表参道／参加者数86人
出演／ピーター・バラカン(ブロードキャスター)、里安ナナ(歌手)、中
原淳行(東京都美術館 学芸担当課長)

掲載記事など
・「名画と絶景」／『和楽』(小学館)2024年7月1日
・日曜美術館「美と風土 黒潮の画譜～異端の画家・田中一村～」／『おと
なのEテレタイムマシン』(NHK Eテレ)2024年9月28日
・「田中一村と、楽園「奄美」」／『婦人画報』(ハースト婦人画報社)2024
年10月1日
・「孤高の画家が愛した奄美」／『日本経済新聞』(日本経済新聞社)2024
年10月2日
・「アートの楽」／『読売新聞』(読売新聞東京本社)2024年10月2日
・「杉全美帆子の読み解きアート」／『東京新聞』(中日新聞東京本社)
2024年10月8日
・「東京都美術館で「田中一村展」」／『サライ』(小学館)2024年10月10
日
・「井上涼の美術でござる」／『毎日小学生新聞』(毎日新聞社)2024年10
月13日
・「奄美への道標(みちしるべ) 画家・田中一村」／『日曜美術館』特集(NHK
Eテレ)2024年10月27日
・「近代日本画と田中一村～奄美で極めた魂の絵画～」／『木村多江の、
いまさらですが…』(NHK Eテレ)2024年10月28日
・「市川紗椰がご案内 週末アートのトビラ」／『BAILA』(集英社)2024
年10月28日
・「気になる一品！リターンズ」／『朝日新聞』夕刊(朝日新聞社)2024年
11月12日
・「50歳で奄美に渡り新たな画境を拓いた田中一村の花鳥画×美村里江」／
『新美の巨人たち』(テレビ東京)2024年11月24日

【企画展】
大地に耳をすます 気配と手ざわり
The Whispering Land: Artists in Correspondence with Nature

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
特別協力／株式会社ツガワ
協力／合同会社 北暦、株式会社ミシマ社、Gallery Camellia、
青森公立大学 国際芸術センター青森
会期／ 2024年7月20日(土)～10月9日(水)
会場／ギャラリー A・B・C
出品点数／ 102点
観覧料／一般 1,100円、大学生・専門学校生 700円、
65歳以上 800円
担当／大橋葉都子、小林明子、山田桂子

本展では、人と自然の関係を問い直し、その関係を結び直すような制作をつづけている、5人のつくり手——榎本裕一、川村喜一、倉科光子、ふるさかはるか、ミロコマチコ——の活動を紹介した展覧会。都市で長く生活したのち、自然豊かな地に移り住み、あるいは取材に赴き、人の生活と自然の営みが重なる場から生み出された作品を展示した。

3年前から準備を始めたことで、ギャラリーの空間を生かした新作の制作やインスタレーションが実現した。また、展示映像を制作・上映し、多くの方に自然に分け入り制作する様子を感じていただけるよう工夫し、映像の内容とともに自然音が響く空間も好評を得た。作家ごとに部屋を分けて展示したが、ゆるやかなつながりが生まれた。来場動機としては、展覧会のテーマを挙げた方が多く見られた。新しい作家・作品と出会えたという点でも好評の声が多く、美術館でまとまって展示されることが少なかった作家を紹介する機会ともなった。



図録表紙

図録[205mm×230mm／204ページ]
・「大地に耳をすます 感覚を呼び覚ますために」
大橋葉都子(東京都美術館 学芸員)pp.170-175



ポスター



チラシ(2)



チラシ(1)



会場風景

撮影：田村融市郎

実績
入場者数／ 33,880人(1日平均477人)

関連企画
・アーティスト・トーク
7月20日(土) 14:00～14:20 ギャラリー C／参加者数36名
講師／川村喜一(出品作家)
7月20日(土) 14:30～15:00 ギャラリー C／参加者数46名
講師／ふるさかはるか(出品作家)
8月4日(日) 11:00～11:40 ギャラリー B／参加者数42名
講師／倉科光子(出品作家)
・トークイベント
8月24日(土) 10:30～12:00 アートスタディールーム／参加者数35名
テーマ／「漆・藍・土 自然と「ともに」つくる木版画」
講師／ふるさかはるか
8月31日(土) 14:00～15:30 講堂／ 52名
講師／倉科光子、平吹喜彦(東北学院大学地域総合学部地域コミュニティ学科 教授)
9月22日(日) 14:00～15:30 アートスタディールーム／参加者数34名
川村喜一に聞く 知床の暮らしと制作
・キッズ+U18デー
8月26日(月) 10:00～15:00 ギャラリー A・B・C／参加者数227名
・ダイアログ・ナイト with とびラー
①8月30日(金) 18:45～19:15 ギャラリー A・B・C／参加者数11名、
②9月6日(金) 18:45～19:15 ギャラリー A・B・C／参加者数19名、
③9月13日(金) 18:45～19:15 ギャラリー A・B・C／参加者数23名
・ダイアログ・デイ with とびラー
①9月4日(水) 11:15～11:45 ギャラリー A・B・C／参加者数18名、
②9月11日(水) 11:15～11:45 ギャラリー A・B・C／参加者数23名

掲載記事など
・狭倉瑠璃「大地に耳をすます 気配と手ざわり展 現代作家が捉えた大自然」／『しんぶん赤旗』（日本共産党中央委員会）
・沼田典子「都美術館で企画展「大地に耳を——」」／『東奥日報』（東奥日報社）2024年8月6日
・寺崎省子「地をほうフジの花 津波被害の集落跡に現れたツナミプランツを描く」／『朝日新聞』デジタル版(朝日新聞社)2024年8月13日
・能正明「大地の息吹 現代美術に宿る」／『北海道新聞』（北海道新聞社）2024年9月12日
・富田悦央「奄美の自然 描いた2人」／『朝日新聞』（朝日新聞社）2024年10月3日
・「REVIEW 植物と協働する「自然派」作家たち 「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展より」／『芸術新潮』（新潮社）2024年10月号

【コレクション展】

「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」

Tokyo Metropolitan Collection Exhibition: Genealogy of Nostalgia ― From the Taisho Era to the Present

主催／東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

連携／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館・東京都写真美術館・東京都現代美術館

会期／2024年11月16日(土)～2025年1月8日(水)

会場／ギャラリー B

出品点数／42点

観覧料／無料

担当／山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)、瀧良介、大内曜

本展では、絵画、版画、写真などに表された、大正期から現代にいたる日本の風景をたどりながら、人々がそれらの中に見出してきた「懐かしさ」の諸相に注目した。会場は大きく3章構成とし、①川瀬巴水や土門拳が捉えた近代化の中で失われゆく大正・昭和前期の街並み、それと対をなす②戦後のアメリカ文化受容と高度経済成長期に出現した均質化する都市の姿、そして③今日の東京郊外の新興住宅地の風景が喚起する「現代への郷愁」までを、横断的に見渡した。

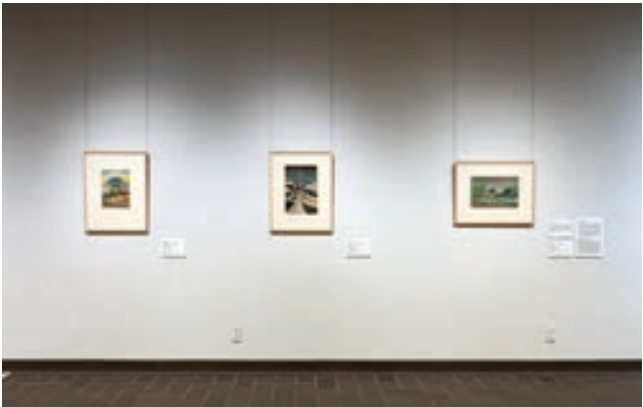
東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館などの所蔵品を軸に、国立映画アーカイブの協力を得ることで、油彩画、木版画、素描、写真、書籍、ポスターなど、多彩なメディアによる展示が実現した。



ポスター



チラシ(表)



会場風景

撮影：坂田峰夫

実績

入場者数／30,184人(1日平均838人)

関連企画

・担当学芸員によるレクチャー「ノスタルジアと作家たち」

12月14日(土) 14:00～15:30 講堂／参加者数55人

講師／山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)

掲載記事など

・安原真広「「ノスタルジア―記憶のなかの景色」「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」(東京都美術館)開幕レポート。なぜ美術は懐かしさを求めるのか」／ウェブ版『美術手帖』(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)2024年11月16日

・岡田秀則「水先案内人のおすすめ「懐かしさの系譜―大正から現代まで 東京都コレクションより」」／ウェブ版『ぴあ』(ぴあ)2024年12月21日

2

公募展事業

東京都美術館は開館以来、美術や書などの公募団体の発表の場であり、有名無名の芸術家による何万点という新作を毎年発表してきた。かつては、主に会場を提供する貸館事業という位置づけだったが、リニューアルオープン後は、「つくる喜びを共有する場」とする公募展事業として、美術館が公募団体や学校教育機関、そして美術グループと連携して関わりを深めていくことになった。

公募展活性化事業

東京都美術館が主催し、公募団体その他美術グループと連携協力し、美術界の活性化を図る展覧会

上野アーティストプロジェクト 2024

「ノスタルジア—記憶のなかの景色」

都美セレクション グループ展 2024

財団内連携事業

学校教育展

教育委員会や高校・大学などの教育支援として行うもので、美術館が児童・生徒・学生の作品発表の場となる展覧会

公募団体展

絵画、彫刻、工芸、書などの作品を公募する団体が主催する展覧会

講堂・スタジオ

【公募展活性化事業】

上野アーティストプロジェクト2024 「ノスタルジア—記憶のなかの景色」

Ueno Artist Project 2024: Nostalgia — Scenery in Memory

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
会期／2024年11月16日(土)～2025年1月8日(水)
会場／ギャラリーA・C
出品点数／57点
観覧料／一般 500円、65歳以上 300円、学生以下 無料
担当／山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)、瀧良介、
大内曜

「上野アーティストプロジェクト」では、「公募展のふるさと」とも称される東京都美術館の歴史の継承と未来への発展を図るため、毎年異なるテーマを設けて、公募展に関わる作家を積極的に紹介している。第8回目となる本展では、懐かしい風景、そしてノスタルジア(郷愁、懐かしさ)をテーマに掲げ、さまざまなバックグラウンドと作風をもつ8人の作家を取り上げた。

阿部達也と南澤愛美は、今ここにありながら既にノスタルジアを感じさせるような日常の風景を、芝康弘と宮いつきは、自身もかつてまたそうであったような子どもたちの姿を、そして玉虫良次と近藤オリガに物故作家の入江一子と久野和洋を加えた4名は、自らの記憶の奥底にある景色を、各々のスタイルで描き出している。ギャラリーの広さも生かしながら、ノスタルジアという感情の多様な側面にゆったりと浸ることのできる展示が実現した。

出品作家

阿部達也(二紀会)

南澤愛美

芝康弘(日本美術院)

宮いつき(創画会)

入江一子(独立美術協会、女流画家協会)

玉虫良次(一水会)

近藤オリガ(新制作協会)

久野和洋(立軌会)

図録[A4判／112ページ]

・「ノスタルジア—街と風景、子ども、道」

山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)pp.8-15



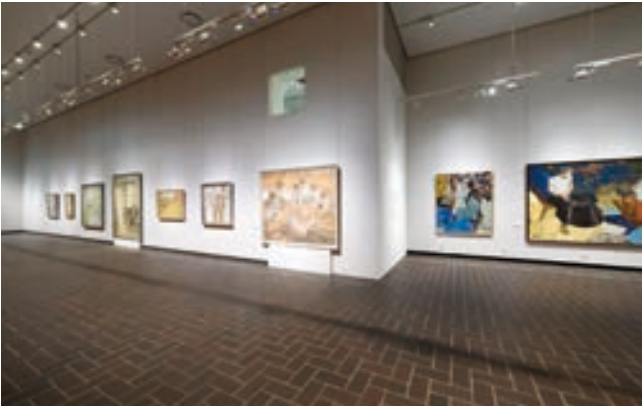
ポスター



図録表紙



チラシ



会場風景

撮影：坂田峰夫

実績

入場者数／26,084人(1日平均 725人)

関連企画

・アーティストトーク「作家が語るノスタルジア1」

11月23日(土・祝) 14:00～15:30 講堂／参加者数70人

登壇／阿部達也、玉虫良次

・アーティストトーク「作家が語るノスタルジア2」

12月1日(日) 14:00～15:30 講堂／参加者数69人

登壇／芝康弘、宮いつき

・アーティストトーク「作家が語るノスタルジア3」

12月7日(土) 14:00～15:30 講堂／参加者数66人

登壇／南澤愛美、近藤オリガ

・担当学芸員によるレクチャー「ノスタルジアと作家たち」

12月14日(土) 14:00～15:30 講堂／参加者数55人

講師／山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)

・ダンス・ウェル

12月8日(日) 14:00～15:30 企画棟ホワイエ／参加者数23人

講師／酒井直之(ダンサー、映像作家、ダンス・ウェル講師)

アシスタント／長澤あゆみ(ダンス・アーティスト、「いまここダンス」共同主宰、ダンス・ウェル講師)、市川まや(振付家、Kyoto Dance Exchange主宰、「いまここダンス」共同主宰)

2025年1月4日(土) 14:00～15:30 企画棟ホワイエ／参加者数27人

講師／東野祥子(振付家、演出家、ダンサー、ANTIBODIES Collective代表、ダンス・ウェル講師)

アシスタント／白神ももこ(振付家、演出家、「モモンガ・コンプレックス」主宰、ダンスウェル講師)、長澤あゆみ

掲載記事など

・山田喜美子「Entertainment News Art 上野アーティストプロジェクト2024『ノスタルジア—記憶のなかの景色』」／『an・an増刊号』(マガジンハウス)2024年11月20日、p.115(web版11月26日)

・デヤブロウ「東京都台東区／上野公園・東京都美術館『ノスタルジア—記憶のなかの景色』で心の中の「懐かしさ」を再発見」／『Yahoo!ニュース』2024年11月20日

・安原真広「『ノスタルジア—記憶のなかの景色』「懐かしさの系譜—大正から現代まで 東京都コレクションより」(東京都美術館)開幕レポート。なぜ美術は懐かしさを求めるのか」／ウェブ版『美術手帖』(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)2024年11月16日

・清水美里「わたしに眠る“原風景”を求めて |『ノスタルジア—記憶のなかの景色』上野アーティストプロジェクト2024」／『おちらしさんWEB』2024年11月22日

・前田真紀「懐かしさとはなにかを問いかける、上野アーティストプロジェクト2024『ノスタルジア—記憶の中の景色』が2025年1月8日まで上野『東京都美術館』で開催中」／ウェブ『さんたつ by 散歩の達人』(交通新聞社)2024年11月25日

・白坂由里「東京都美術館『ノスタルジア —記憶のなかの景色』レポート 8名のアーティストの作品に見出す「懐かしさ」の理由」／ウェブ版『ぴあニュース』(ぴあ)2024年12月3日

・大澤真理子「存在しない記憶、「ノスタルジア」を共有すること」／『artscape』(大日本印刷)2025年2月19日

・Ingrid Dubach-Lemainque, “Kazuhiro Kuno – Nostalgic landscapes”／idl art consulting, 24 January 2025.

【公募展活性化事業】
都美セクション グループ展 2024
Group Show of Contemporary Artists 2024

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、
各展覧会の実施グループ
会期／2024年6月10日(月)～6月30日(日)
観覧料／無料
担当／大内曜、瀧良介

「都美セクション グループ展」では、新しい発想による
アートの作り手の支援を目的として、毎年公募によって
企画を募り、審査により選抜されたグループの展覧会を開
催している。2012年のスタート以来、さまざまなジャン
ルで活躍する現代作家たちが参加し、東京都美術館のギャ
ラリー A、B、Cという空間だからこそ実現可能となる展
覧会を実施してきた。
シリーズ第13回目となる今回は、「スティル・エコー：
境界の風景」、「ずれはからずもふれ」、「回遊する風景」の
3つの展覧会が開催された。

都美セクション グループ展 2024 公募及び選考
募集期間(公募)／2023年1月19日(木)～5月12日(金)
応募件数／17件
審査会／2023年7月15日(日)
選考グループ数／3件

審査委員
野地耕一郎(泉屋博古館東京 館長)
光田由里(多摩美術大学 教授)
山村仁志(東京都美術館 学芸担当課長)
(※役職は審査会当時)

記録集[A5判／48ページ]
・境界、移動、風景 ―「都美セクション グループ展 2024」について
瀧良介(東京都美術館 学芸員)
・「スティル・エコー：境界の風景」展について
野地耕一郎(泉屋博古館東京 館長)
・「ブレ」の細部に肉声を聴く
山村仁志(元・東京都美術館 学芸担当課長)
・「回遊する風景」を見て
光田由里(多摩美術大学 教授)
(※役職は記録集発行当時)



チラシ



記録集表紙

スティル・エコー：境界の風景
Still Echo - Border Landscapes

会場／ギャラリー A
入場者数／10,258人

グループ名／「スティル・エコー」展実行委員会
メンバー／稲宮康人*、笹岡啓子、新田樹、小原真史
(*はグループ代表者)

助成／公益財団法人 朝日新聞文化財団

写真家の稲宮康人、笹岡啓子、新田樹の3名に批評家・
キュレーターの小原真史を迎えて実現した本展は、近現代
史を通じて日本と近隣諸国との狭間に形成された「^{ボーダーランド}境界」
の風景の残存と変容を主題とした。稲宮による《海外神社》
シリーズと、新田による《Sakhalin》シリーズは、帝国日本
の膨張政策の痕跡を今に伝える土地と、そこに生きる人び
との営みを見つめた。他方、日本各地の海岸線や山の稜線
を写す笹岡の《SHORELINE》シリーズは、東日本大震災の
被災沿岸地域を含む、今も刻々と姿を変えるこの国の輪郭
を映し出した。さらに、3人の作品と呼応するように陳列
された小原の近代日本の博覧会コレクションは、境界地域
に向けられた「内地」の欲望を可視化するとともに、上野と
いう場所の政治性をも浮き彫りにした。

関連イベント
・出展者によるギャラリートーク
6月23日(日) 14:00～ ギャラリー A／参加者数65名
登壇者／稲宮康人、笹岡啓子、新田樹、小原真史



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

ずれはからずもぶれ

Unforeseen Deviations

会場／ギャラリー B

入場者数／ 9,697 人

グループ名／ずれはからずもぶれ実行委員会

メンバー／アリサ・ベルゲル、イシャイ・ガルバッシュ、
イレン・トク、近藤愛助、ハ・ジョンナム、
吉川浩満、ユミソン*
(*はグループ代表者)

助成／公益財団法人 朝日新聞文化財団、NOT SO BAD、
LLC、金子千裕、Institut für Auslandsbeziehungen、
Berlin Senate Department for Culture and Social
Cohesion、Le Fresnoy - Studio National des Arts
Contemporains

「移動」をテーマに掲げた本展では、国境を越えて世界各地で活動する作家たちが、異なる共同体に身を置くことで経験した「ずれ」や「ぶれ」に触発された作品を展示した。ユミソンとハ・ジョンナム、そして近藤愛助は、自己や先行世代の移民としてのアイデンティティに向き合いながら、差別や偏見、歴史の忘却といった普遍的な問題に光を当てた。イシャイ・ガルバッシュとアリサ・ベルゲルは、戦争や領土問題といった主題を正面から取り上げ、世界規模で進行する政治的分断の現実を活写した。他方、神山町の山村風景に取材したイレン・トクのジオラマ作品や、吉川浩満によるブックガイドは、そうした苛酷な世界のただなかを静かに歩みつづけるための希望の在りかを示唆した。本展は、分断と対立が顕在化するこの時代において、芸術がなおも越境的な対話の糸口となりうることを示した。

関連イベント

・ハ・ジョンナムの観客とつくるパフォーマンス

6月15日(土) 15:00 ～ スタジオ／参加者数30名

パフォーマー／ハ・ジョンナム、音を鳴らす人／馨子

・吉川浩満の哲学対話 移動と移行、偶然をめぐってー哲学対話

6月15日(土) 10:00 ～ スタジオ／参加者数21名

6月29日(土) 10:00 ～ スタジオ／参加者数24名

ファシリテーター／永井玲衣



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

回遊する風景

Migratory Landscapes

会場／ギャラリー C

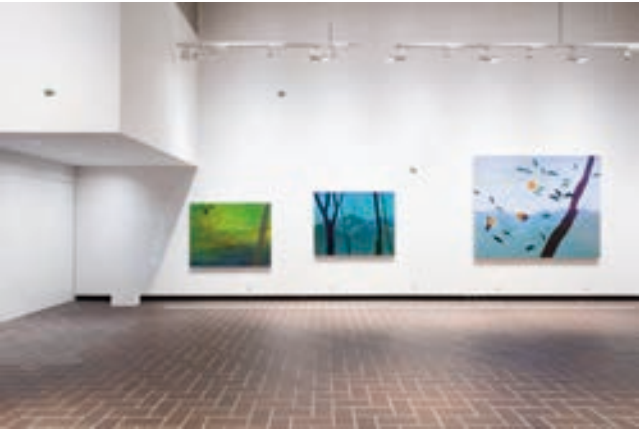
入場者数／11,427 人

グループ名／回遊する風景実行委員会

メンバー／バックランド美紀、和田みつひと、向井三郎、
吉田さとし、橋本トモコ*
(*はグループ代表者)

助成／公益財団法人 野村財団

本展では、今・ここではない場所にまつわる個人的な記憶や身体的経験を他者と共有する方法としての「風景」の多様なあり方が提示された。高天井の回廊部には、幼少期の落書きに由来する素朴な線を通じて異国への憧憬を呼び起こす吉田さとしの刺繍画・アクリル画、現実の空間体験と絵画の平面性を交錯させ新たな造形へと昇華させる橋本トモコの油彩画、そして海を前にした崇高な体験をモノクロームの大画面で再現する向井三郎のドローイングが並んだ。他方、低天井の部屋では、自然の艶やかなテクスチャを緊張感のある画面の中で捉えるバックランド美紀と、無人の自然に宿る静寂に耳を澄ますような和田みつひとの写真・映像作品が展示された。ギャラリーを巡りながら多様な風景表現を鑑賞することで、作家たちにインスピレーションを与えた原体験としての回遊を追体験できるような展示が実現した。



会場風景

撮影：Daisaku OOZU

財団内連携事業

展覧会事業において先述した「コレクション展」のほかに、令和4年4月より大規模改修工事のため休館中の東京都江戸東京博物館の主催による、館外展示「出張！江戸東京博物館」を行った。同館所蔵の体験模型や関連資料の展示のほか、開催場所（東京都美術館）である上野の歴史について、錦絵や絵葉書から紹介した。

館外展示「出張！江戸東京博物館」

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
会期／2025年2月22日(土)～2月26日(水)
会場／公募展示室 ロビー階第4公募展示室・1階第4公募展示室・2階第4公募展示室
観覧料／無料
入場者数／15,071人



1階第4公募展示室 会場風景
(写真提供：東京都江戸東京博物館)

学校教育展

東京都美術館は戦前から児童生徒や学生の作品発表の場という役割を果たしてきた。毎年1月後半から3月にかけては大学や高校の卒業制作展、教育委員会の児童生徒作品展などが立て続けに行われる。

こうした教育機関による展覧会は、これまでは公募展に位置付けられていたが、リニューアル後に「アートへの入

口」という館の使命から、児童生徒・学生が初めて美術館に出品するという趣旨を重視した「学校教育展」と改め、公募団体展に先駆け、展示室の使用割当を行うこととした。対象は、都内の教育委員会、都内の私立学校協会、都内の専修学校各種学校の協会及び都内の学校の連盟、都内の芸術系高校、都内の芸術系専修各種学校、大学である。



第73回 東京藝術大学 卒業・修了作品展



第76回 東洋美術学校 卒業制作展



第74回 東京都立学校美術展覧会



大東文化大学 書道学科 卒業制作展
大東文化大学大学院 書道学専攻 修了制作展



東北芸術工科大学卒業・修了制作展【東京選抜】



第18回 ガラス教育機関合同作品展

2024(令和6)年度 学校教育展一覧(会期順)										*法人格等は省略、「*」印の会期は休館日あり									
団体名	展覧会名	会期	会場												入場者数				
			公募展示室				ギャラリー												
			2階	1階			ロビー階												
			第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C		
東京都立高等学校定通校長会	第75回 東京都立高等学校 定時制通信制課程芸術祭	10月31日(木)～11月8日(金)*															●	995	
東京私立中学高等学校協会	第52回 東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展	11月17日(日)～11月24日(日)*										●						2,346	
東京都高等学校文化連盟 美術・工芸部門	第47回 東京都高等学校文化祭 美術・工芸部門中央大会 「第35回中央展」	12月12日(木)～12月20日(金)*										●	●					3,558	
東京都立総合芸術高等学校 美術科	東京都立総合芸術高等学校美術科 第13回 卒業制作展	12月12日(木)～12月20日(金)*														●		6,299	
東京都教育委員会 東京都特別支援学校文化連盟	令和6年度東京都特別支援学校 第33回総合文化祭5部門作品展	12月12日(木)～12月20日(金)*				●	●											3,123	
東京藝術大学 美術学部	第73回 東京藝術大学 卒業・修了作品展	1月27日(月)～2月3日(月)*										●	●	●	●	●	●	29,292	
東洋美術学校	第76回 東洋美術学校 卒業制作展	2月4日(火)～2月11日(火)										●	●					4,096	
東京都教育委員会	第74回 東京都立学校美術展覧会	2月12日(水)～2月19日(水)*										●	●	●				17,066	
台東区教育委員会	第75回 台東区立小・中学校連合作品展	2月12日(水)～2月19日(水)*														●		9,994	
大東文化大学文学部書道学科	大東文化大学 書道学科 卒業制作展 大東文化大学大学院 書道学専攻 修了制作展	2月20日(木)～2月27日(木)											●					2,569	
東北芸術工科大学	東北芸術工科大学卒業・修了制作展【東京選抜】	2月20日(木)～2月27日(木)											●	●				5,546	
東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科	東洋大学 人間環境デザイン学科 卒業作品展	2月20日(木)～2月27日(木)								●								1,123	
女子美術大学・女子美術大学短期 大学部	JOSHIBISION 2024(女子美術大学 大学 院・大学・短期大学部学生選抜作品展)	2月28日(金)～3月7日(金)*														●		3,977	
女子美術大学付属高等学校	JOSHIBISION 2024(女子美術大学付属 高等学校卒業制作展)	2月28日(金)～3月7日(金)*														●		6,063	
東京都立工芸高等学校	東京都立工芸高等学校 卒展 2025	2月28日(金)～3月7日(金)*														●		3,656	
横浜美術大学	2024年度 横浜美術大学 卒業制作 学外展	2月28日(金)～3月7日(金)*									●					●		3,960	
専門学校日本デザイナー学院	専門学校日本デザイナー学院 2025 卒業作品展	2月28日(金)～3月7日(金)*					●											1,129	
東京都立大学 システムデザイン学部・研究科 インダストリアルアート学科・学域	東京都立大学 インダストリアルアート学科・学域 卒業・修了制作研究展	2月28日(金)～3月7日(金)*															● ●	1,755	
日本写真芸術専門学校	日本写真芸術専門学校 2025 卒業作品展	3月8日(土)～3月15日(土)			●													1,589	
ガラス教育機関合同作品展実行委員会	第18回 ガラス教育機関合同作品展	3月8日(土)～3月15日(土)														● ●		1,882	
合計	20機関																	110,018	

公募団体展

東京都美術館は、1926(大正15)年の開館以来、同時代を生きる芸術家の作品発表の場となっており、「公募展のふるさと」「公募展の聖地」といわれてきた。リニューアルオープンにより、公募団体展はこれまでの貸館事業から、「つくる喜びを共有する場」とし、公募展活性化事業や学校教育展と並ぶ公募展事業のひとつとして位置付けることとなった。

使用割当に関する審査

リニューアル後の2012(平成24)年度に開催した公募団体展から展示室等の使用割当の方法が大きく変更となった。東京芸術文化評議会の答申をふまえ、貸出基準を明確化、厳密化し、公正性を確保している。外部有識者による公募展等審査会で審査を行い、団体としての運営力・実績及び東京都美術館の基本的使命との合致度を基準に4つのグループに分けて、会期・展示室を割り当てている。

2020(令和2)年度の審査において第Ⅰ～第Ⅲグループとなった団体は初年度の結果をもって2～5年目の審査に代えることとし、5年連続して使用できる。年度ごとの募集において、第Ⅰ～第Ⅲグループとなった団体は、その結果をもって2026(令和8)年度までの使用分についての審査に代えることとし、第Ⅳグループ以下となった団体は、募集年度のみの使用としている。

2024(令和6)年度の公募団体の内訳は下記のとおりで、2020(令和2)年度審査および2022(令和4)年度の単年度審査にて使用割当の決まった団体である。

2024(令和6)年度 公募団体展 開催実績

グループ／団体数		ジャンル						
		総合	洋画	日本画	版画	彫刻工芸	書	その他
I	31	7	5	3	2	3	9	2
Ⅱ	72	15	9	3	1	8	29	7
Ⅲ	114	52	10	6	0	8	33	5
Ⅳ	22	12	1	1	1	2	5	0
合計	239	86	25	13	4	21	76	14
団体割合(%)	100%	36.0%	10.5%	5.4%	1.7%	8.8%	31.8%	5.9%
占有コマ数	483	137	54	26	11	32	197	26
占有割合(%)	100%	28.4%	11.2%	5.4%	2.3%	6.6%	40.8%	5.4%

総合：複数の分野で開催／日本画：水墨画を含む

2024(令和6)年度 公募団体展 一覧(会期順)

法人格等は省略、「」印の会期は休館日あり

団体名	展覧会名	会期	会場															分野	入場者数		
			公募展示室												ギャラリー						
			2階				1階				ロビー階										
			第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C				
モダンアート協会	第74回 モダンアート展	4月1日(月)～4月16日(火)*											●	●	●	●	●	●	総合	10,862	
日本書道院	第73回 日本書道院展 併催:第73回 全国学生書道展覧会	4月1日(月)～4月8日(月)*	●	●				●	●	●	●								書	9,029	
光陽会	第72回 光陽展	4月1日(月)～4月8日(月)*			●	●													総合	2,852	
日本バステル画会	第99回 日本バステル画会展	4月1日(月)～4月8日(月)*																●	洋画	4,711	
日本手芸普及協会	第17回 キルト日本展	4月9日(火)～4月16日(火)*																	彫刻工芸	3,385	
日本光画会	第58回 光展	4月9日(火)～4月16日(火)*							●										その他	1,267	
武蔵野美術大学校友会	ムサビズム展 ー武蔵野美術大学校友会関東圏合同展	4月9日(火)～4月16日(火)*								●	●								総合	3,742	
書縁會	第11回 書縁會展	4月9日(火)～4月16日(火)*	●																書	1,033	
大道書学院	第56回 大道展	4月9日(火)～4月16日(火)*		●															書	1,212	
全日本中国水墨芸術家連盟	第36回 全日中展・東京書画芸術大展	4月9日(火)～4月16日(火)*			●														総合	1,894	
西安碑林国際臨書展	第28回 西安碑林国際臨書展	4月9日(火)～4月16日(火)*				●													書	679	
墨人会	第125回 公募 墨人展	4月9日(火)～4月16日(火)*																●	書	1,228	
現代工芸美術家協会	第62回 日本現代工芸美術展	4月17日(水)～4月24日(水)											●	●					彫刻工芸	8,753	
流形美術会	第73回 流形展	4月17日(水)～4月24日(水)													●				総合	3,022	
日本水墨画協会	第56回 日本水墨画展	4月17日(水)～4月24日(水)														●			日本画	2,561	
二科会	2024春季二科展	4月17日(水)～5月2日(木)						●	●	●									総合	7,301	
ベラドンナ美術協会	第20回 ベラドンナ・アート記念展	4月17日(水)～4月24日(水)									●								総合	3,939	
新日春会	第8回 新日春展	4月17日(水)～4月24日(水)	●	●	●														日本画	4,323	
日本彫刻会	第53回 日本彫刻会展覧会(日彫展)	4月17日(水)～5月2日(木)															●	●	●	彫刻工芸	8,284
東光会	90回記念 東光展	4月25日(木)～5月10日(金)									●	●	●	●	●				洋画	12,566	
現代バステル協会	第35回 現代バステル協会展	4月25日(木)～5月2日(木)	●																洋画	3,742	
大調和会	第62回 大調和展	4月25日(木)～5月2日(木)		●	●														総合	8,036	
日本彩美会	第29回 彩美展 日仏彩美国際美術展	4月25日(木)～5月2日(木)				●													洋画	1,791	
陶展	第52回 陶展	5月3日(金)～5月10日(金)*							●										総合	1,837	
全国日曜画家連盟	第51回 全国日曜画家展	5月3日(金)～5月10日(金)*								●									洋画	1,974	
九条美術の会	第13回 九条美術展	5月3日(金)～5月10日(金)*	●																総合	1,485	
悠美会国際美術展	第48回 悠美会国際美術展	5月3日(金)～5月10日(金)*			●														総合	1,672	
国際工筆画会	2024 問道・国際藝術展	5月3日(金)～5月10日(金)*				●													日本画	786	
現代造形表現作家フォーラム	現代造形表現作家フォーラム展	5月3日(金)～5月10日(金)*														●			総合	637	
光風会	光風会選抜展 2024	5月3日(金)～5月10日(金)*															●		洋画	1,125	
秋耕会	第33回 秋耕会小品展	5月3日(金)～5月10日(金)*																●	総合	1,837	
新世紀美術協会	第68回 新世紀展	5月11日(土)～5月18日(土)											●	●	●	●			総合	4,750	
美術文化協会	第83回 美術文化展	5月11日(土)～5月18日(土)					●	●											総合	2,476	
日本新工芸家連盟	第46回 日本新工芸展 併催:第7回 学生選抜展	5月11日(土)～5月18日(土)							●	●									彫刻工芸	4,456	
NHK学園	NHK学園 心をつなぐ作品展 ～書道展・絵手紙展・絵画展・写真展～	5月11日(土)～5月18日(土)	●	●															総合	2,675	
美術協会 純展	第53回 純展	5月11日(土)～5月18日(土)			●	●													洋画	3,016	
イヴォルフアート&デザイン ジャパン	第2回 ECA展 (Evolve Conceptual Art Exhibition)	5月11日(土)～5月18日(土)														●			総合	366	
東京湘南絵画会	第25回記念 公募 東京湘南絵画会展	5月11日(土)～5月18日(土)															●		洋画	1,155	
日本ステンドグラス作家協会	第12回 日本ステンドグラス作家協会展	5月11日(土)～5月18日(土)																●	彫刻工芸	3,354	
旺玄会	第90回記念 旺玄展	5月19日(日)～5月27日(月)*										●	●	●					総合	5,036	
新興美術院	第73回 新興展	5月19日(日)～5月27日(月)*														●			日本画	1,398	
日本画府	第71回 日府展	5月19日(日)～5月27日(月)*						●	●										総合	3,369	
新洋画会	第46回 新洋画会展	5月19日(日)～5月27日(月)*								●									総合	1,378	
自由美術協会	第13回 東京自由美術展	5月19日(日)～5月27日(月)*									●								総合	1,577	
創造美術会	第77回 創造展	5月19日(日)～5月27日(月)*	●	●															総合	2,875	
アトリエ凹凸	第4回 OUTOTSU版展	5月19日(日)～5月27日(月)*				●													版画	1,138	
創型会	第70回記念 創型展	5月19日(日)～5月27日(月)*															●	●	●	彫刻工芸	3,468
日本画院	第83回 日本画院展	5月28日(火)～6月4日(火)*										●	●						日本画	3,535	
朱葉会	第102回 朱葉会展	5月28日(火)～6月4日(火)*													●	●			洋画	4,845	
一陽会東京支部	第28回 一陽会東京展	5月28日(火)～6月4日(火)*					●												総合	1,377	
国画水墨院	第28回 国画水墨院展	5月28日(火)～6月4日(火)*							●										日本画	1,480	
一創会	第46回 一創会展	5月28日(火)～6月4日(火)*								●									洋画	1,153	
日本国際藝術研究院	国際公募第17回 国際書画大賞展	5月28日(火)～6月4日(火)*									●								総合	1,497	
新象作家協会	第65回 新象展	5月28日(火)～6月4日(火)*	●																総合	1,083	
國美藝術家協会	第43回 國美藝術展	5月28日(火)～6月4日(火)*			●														総合		

団体名	展覧会名		会期	会場																分野	入場者数
				公募展示室												ギャラリー					
				2階								1階				ロビー階					
				第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A	B	C			
日本手工芸指導協会	第58回	手工芸作品展	5月28日(火)～6月4日(火)*				●											彫刻工芸	3,334		
日本染織作家協会	第47回	日本染織作家展	5月28日(火)～6月4日(火)*													●		彫刻工芸	1,779		
日本写真文化協会	第70回	全国写真展覧会	5月28日(火)～6月4日(火)*														●	その他	1,610		
日本手工芸作家連合会	第57回	公募 創作手工芸展	5月28日(火)～6月4日(火)*														●	彫刻工芸	2,812		
女流画家協会	第77回	女流画家協会展	6月5日(水)～6月13日(木)									●	●	●	●	●		総合	7,681		
全日本肖像美術協会	第70回記念	全日肖像展 併催:二部肖像画及び動物小作品展	6月5日(水)～6月13日(木)				●											総合	1,537		
新生美術会	第52回	新美展	6月5日(水)～6月13日(木)							●								総合	4,137		
日本ジュエリーデザイナー協会	第33回公募	2024日本ジュエリー展	6月5日(水)～6月13日(木)									●						彫刻工芸	1,891		
朝日会	第93回	朝日会展	6月5日(水)～6月13日(木)	●														総合	1,567		
日本リアリズム写真集団	2024年 第49回	全国公募写真展「視点」	6月5日(水)～6月13日(木)															その他	1,815		
独立書人団	2024 第18回	独立選抜書展 全国高校生大作書道展	6月14日(金)～6月21日(金)*										●	●	●			書	4,496		
工芸美術 日工会	第33回	一般社団法人 工芸美術 日工会展	6月14日(金)～6月21日(金)*													●		彫刻工芸	2,382		
東京表具経師内装文化協会	第67回	表装・内装作品展	6月14日(金)～6月21日(金)*						●									その他	1,329		
東洋書芸院	第48回	東洋書芸院公募展	6月14日(金)～6月21日(金)*								●							書	1,891		
国際美術交流会	第23回	国際美術交流会展	6月14日(金)～6月21日(金)*										●					総合	1,948		
中央美術協会 東京支部	第45回記念	東京中美展	6月14日(金)～6月21日(金)*										●					総合	1,111		
公募 ZEN展	第22回	一般社団法人 公募 ZEN展	6月14日(金)～6月21日(金)*	●														総合	2,989		
平泉会	2024年	平泉会選抜展	6月14日(金)～6月21日(金)*			●												総合	1,669		
日本選抜美術家協会	第48回	国際美術大賞展	6月14日(金)～6月21日(金)*				●											総合	2,139		
日本水彩画会	第111回	日本水彩展	6月22日(土)～6月30日(日)											●	●	●	●	洋画	11,201		
大日本書芸院	第85回記念	国際文化交流 公益社団法人 大日本書芸院展 特別展示―創設者阿部翠竹先生遺墨展― 併催:第7回 学生部選抜 大日本書芸院展	6月22日(土)～6月30日(日)						●	●								書	4,427		
日本板画院	第73回	板院展	6月22日(土)～6月30日(日)										●	●				版画	3,965		
全日本職場美術協議会	第78回	職美展	6月22日(土)～6月30日(日)	●	●													総合	2,453		
全日本パステルアート連盟	第15回	全日本パステルアート展	6月22日(土)～6月30日(日)						●									洋画	3,125		
二科東京支部	第19回	二科東京支部展	6月22日(土)～6月30日(日)															洋画	1,274		
連枝書道會	第4回	連枝書道會展 併催:全国学生教育書道展 企画展示:古今獨歩 ～現代に伝わる古の書法～	7月1日(月)～7月8日(月)*												●	●		書	1,482		
瑞雲書道会	第58回	公募 瑞雲展 併催:選抜役員小品展・選抜学生書道展	7月1日(月)～7月8日(月)*													●	●	書	1,416		
書道同文会	第76回	書道同文展 併催:学生展	7月1日(月)～7月8日(月)*					●										書	587		
近代日本美術協会東京支部	2024 公募	近美関東美術展	7月1日(月)～7月8日(月)*							●								総合	1,684		
静雅書道会	静雅書道会創立70周年記念 第44回 公募 静雅書展		7月1日(月)～7月8日(月)*									●						書	2,551		
世界絵画大賞展実行委員会	第20回	世界絵画大賞展	7月1日(月)～7月8日(月)*											●				総合	1,546		
官公書道連盟	第58回	官公書展 併催:第11回 官公小中学生書展	7月1日(月)～7月8日(月)*	●														書	1,297		
毎日書道会	第75回	毎日書道展	7月17日(水)～7月25日(木)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		書	23,998		
書真会	第57回	書真会展	7月26日(金)～8月3日(土)											●				書	1,824		
現代美術家協会 東京支部	第12回	東京現展	7月26日(金)～8月3日(土)												●			総合	2,544		
学書院	第66回	学書院展 併催:第73回 全日本学生書道展覧会	7月26日(金)～8月3日(土)					●	●	●								書	3,000		
書宗院	第68回	書宗院展	7月26日(金)～8月3日(土)										●					書	1,099		
台東書道連盟	第73回	台東書道展	7月26日(金)～8月3日(土)	●														書	1,905		
日本書道協会	第47回	総合書道展	7月26日(金)～8月3日(土)			●	●											書	917		
	第33回	児童生徒書道展																			
國際書画連盟	2024	國際書画芸術展	7月26日(金)～8月3日(土)				●											総合	696		
國際書道連盟 日本部会	第52回	國際書道連盟展 併催:第11回 教育部作品展	8月4日(日)～8月12日(月)*											●				書	1,480		
わよう書道会	第12回	おもしろい書展 #クセ字コンテスト5	8月4日(日)～8月12日(月)*												●			書	2,018		
現日会	第63回	現日書展	8月4日(日)～8月12日(月)*					●	●	●	●							書	1,221		
日本総合書芸院	第65回記念	日本総合書芸院展	8月4日(日)～8月12日(月)*	●	●													書	1,102		
美術家平和会議	第72回	平和美術展	8月4日(日)～8月12日(月)*				●	●										総合	2,801		

団体名	展覧会名	会期	会場																分野	入場者数
			公募展示室												ギャラリー					
			2階				1階				ロビー階				A	B	C			
第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4									
産経国際書会	第41回 産経国際書展	8月13日(火)～8月21日(水)*	●	●			●	●	●	●	●	●	●				書	5,224		
産経ジュニア書道コンクール 実行委員会	2024 産経ジュニア書道コンクール	8月13日(火)～8月21日(水)*			●	●											書	5,825		
読売書法会	第40回 読売書法展 東京展	8月22日(木)～8月30日(金)	●	●			●	●	●	●	●	●	●				書	8,103		
白土会	第59回 白土会展	8月22日(木)～8月30日(金)			●												日本画	693		
東京学芸大学書道科同窓会 硯心会	第48回 学芸書道全国展 併催:第43回 硯心会書展	8月22日(木)～8月30日(金)				●											書	2,582		
日本美術院	再興第109回 院展	8月31日(土)～9月17日(火)*								●	●	●	●				日本画	16,390		
主体美術協会	第59回 主体展	8月31日(土)～9月17日(火)*					●	●	●								洋画	8,487		
二元会	第63回 二元展	8月31日(土)～9月8日(日)*									●						洋画	1,774		
書芸文化院	第75回 連合書道展 一般社団法人書芸文化院特別企画事業	8月31日(土)～9月8日(日)*	●	●	●												書	3,906		
	第38回 関東女流書展																			
墨林書道院	第53回 墨林総合書展 併催:学生墨林総合書展	8月31日(土)～9月8日(日)*				●											書	1,723		
水彩人	第26回 水彩人展	9月9日(月)～9月17日(火)*									●						洋画	3,641		
日本山岳写真協会	創立85周年記念 日本山岳写真協会展 2024-山・われらをめぐる世界	9月9日(月)～9月17日(火)*	●														その他	5,186		
全日本美術協会	第60回記念 全展	9月9日(月)～9月17日(火)*		●													総合	2,417		
新日本美術院	第56回 新院展	9月9日(月)～9月17日(火)*			●												総合	830		
AJAC	第50回 AJAC展 ～日本と世界の現代美術～	9月9日(月)～9月17日(火)*				●											総合	3,132		
一水会	第85回記念 一水会展	9月18日(水)～10月5日(土)								●	●	●	●				洋画	15,173		
新協美術会	第67回 新協美術展	9月18日(水)～9月26日(木)					●	●	●								総合	3,876		
近代美術協会	第60回 近代美術協会展	9月18日(水)～9月26日(木)									●						総合	4,186		
全日本書道教育協会	第108回 書教展	9月18日(水)～9月26日(木)	●	●	●												書	5,352		
白亜美術協会	第45回記念白亜展	9月18日(水)～9月26日(木)				●											総合	2,214		
国際書法芸術協会	第57回 2024 国際書法芸術展	9月27日(金)～10月5日(土)					●										書	1,197		
汎美術協会	2024 汎美秋季展	9月27日(金)～10月5日(土)						●									総合	2,284		
新極美術協会	第30回記念 極美本展	9月27日(金)～10月5日(土)							●								総合	2,174		
亜細亜美術協会	第59回 亜細亜現代美術展 第17回 亜細亜アート展	9月27日(金)～10月5日(土)								●							総合	1,878		
日本手工芸美術協会	第47回 日本手工芸美術展覧会 (日本手工芸美術協会 創立50周年記念展)	9月27日(金)～10月5日(土)	●														総合	3,350		
創作画人協会	第58回 創展	9月27日(金)～10月5日(土)		●													総合	2,301		
日本自由画壇	2024 日本自由画壇秋季展	9月27日(金)～10月5日(土)			●												日本画	2,931		
青板会	第49回 青板展	9月27日(金)～10月5日(土)				●											総合	3,202		
日本版画協会	第91回 版画展	10月6日(日)～10月22日(火)*									●	●	●				版画	6,221		
東京展美術協会	第50回 美術の祭典 東京展 記念展	10月6日(日)～10月14日(月)*						●	●	●	●				●		総合	9,922		
現代水墨画協会	第63回 現水展	10月6日(日)～10月14日(月)*	●	●													日本画	2,722		
日本表現派	第67回 日本表現派展	10月6日(日)～10月14日(月)*			●												総合	2,293		
現代手工芸作家協会	公募第3回 現代手工芸展	10月6日(日)～10月14日(月)*				●											彫刻工芸	4,025		
日本七宝作家協会	第57回 日本七宝作家協会国際展(公募)	10月15日(火)～10月22日(火)*													●		彫刻工芸	1,713		
新日本美術協会	第48回 新日美展	10月15日(火)～10月22日(火)*					●	●									総合	3,228		
新作家美術協会	第31回 新作家展	10月15日(火)～10月22日(火)*							●								総合	2,066		
大東書道院	第73回 大東展 併催:大東教育書道展	10月15日(火)～10月22日(火)*								●							書	1,206		
現代書道研究所	第46回 日本書展	10月15日(火)～10月22日(火)*	●	●													書	2,560		
太平洋美術会東京支部	第27回 太平洋美術会東京支部展	10月15日(火)～10月22日(火)*			●												総合	1,670		
創彩会	第44回 創彩展	10月15日(火)～10月22日(火)*				●											総合	1,334		
全陶展	第53回 公募 全陶展	10月15日(火)～10月22日(火)*													●	●	●	彫刻工芸	4,940	
創画会	第51回 創画展	10月23日(水)～10月30日(水)								●	●	●					日本画	3,508		
創元会	第83回 受賞作家展 東京支部展	10月23日(水)～10月30日(水)													●		洋画	5,402		
一線美術会	第74回 一線美術会展	10月23日(水)～10月30日(水)					●	●									洋画	3,676		
水彩連盟	水彩連盟会員展・精鋭選抜展-2024	10月23日(水)～10月30日(水)							●								洋画	1,536		
新匠工芸会	第78回 新匠工芸会展	10月23日(水)～10月30日(水)								●							彫刻工芸	1,847		
日本書鏡院	第65回記念 日本書鏡院展	10月23日(水)～10月30日(水)	●	●													書	3,642		
南画院	第77回 南画院公募展	10月23日(水)～10月30日(水)				●											総合	2,358		
蒼樹会	第60回記念 蒼樹展	10月23日(水)～10月30日(水)					●										総合	2,300		
日本バードカービング協会	第25回 全日本バードカービングコンクール	10月23日(水)～10月30日(水)													●		彫刻工芸	1,417		
日本草月協会	第22回 錦秋展	10月23日(水)～10月30日(水)														●	その他	172		

団体名	展覧会名	会期	会場													分野	入場者数		
			公募展示室										ギャラリー						
			2階				1階			ロビー階									
			第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	A			B	C
美術育成財団雪楽舎	第26回 雪楽舎フィレンツェ賞展	10月23日(水)～10月30日(水)															●	総合	2,444
立軌会	第77回 立軌展	10月31日(木)～11月8日(金)*																洋画	4,923
奎星会	第73回 奎星展	10月31日(木)～11月8日(金)*						●	●	●	●		●					書	8,854
国画会	第98回 国展受賞作家展・国展秋季展	10月31日(木)～11月8日(金)*												●	●	●		総合	10,128
清和書道会	第76回 清和書展	10月31日(木)～11月8日(金)*	●	●														書	2,431
東京都民美術展運営会	第59回 都展	10月31日(木)～11月8日(金)*				●	●											総合	5,862
日本芸術メダル協会	第41回 日本アートメダル展	10月31日(木)～11月8日(金)*															●	彫刻工芸	1,241
書星会	第72回 書星展	11月9日(土)～11月16日(土)											●	●				書	2,565
中央美術協会	第76回 中美展	11月9日(土)～11月16日(土)													●	●		総合	15,159
現代童画会	第50回記念 現代童画展	11月9日(土)～11月16日(土)					●	●	●									総合	6,843
太陽美術協会	第50回 太陽美術展	11月9日(土)～11月16日(土)											●					総合	4,161
蒼騎会	第50回記念 秋季蒼騎展	11月9日(土)～11月16日(土)	●															総合	4,272
新芸術協会	第48回 新芸術展	11月9日(土)～11月16日(土)			●													総合	2,136
群炎美術協会	第63回 群炎展	11月9日(土)～11月16日(土)				●												総合	2,334
日本芸術家協会	第47回 JAG展 ジャパン・アーティスト・グループ展)	11月9日(土)～11月16日(土)					●											総合	1,345
日本きりえ協会	第47回 日本きりえ美術展	11月17日(日)～11月24日(日)*												●				その他	2,133
日本版画会	第65回記念 日本版画会展	11月17日(日)～11月24日(日)*													●	●		版画	5,321
近代日本美術協会	第51回 近代日本美術協会展	11月17日(日)～11月24日(日)*					●	●										総合	6,176
日本写真作家協会	第35回 JPA展	11月17日(日)～11月24日(日)*								●								その他	2,162
日本清興美術協会	第46回 清興展	11月17日(日)～11月24日(日)*									●							総合	1,662
東京書作展	全国公募第46回 東京書作展	11月17日(日)～11月24日(日)*	●	●	●													書	2,877
日輝会美術協会	第49回 日輝展	11月17日(日)～11月24日(日)*					●											総合	1,559
書壇院	第91回 書壇院展 併催:書壇院学生展	11月25日(月)～12月2日(月)*					●						●	●	●	●		書	3,750
書燈社	第65回記念 書燈社展	11月25日(月)～12月2日(月)*						●	●									書	4,422
現創会	第49回 現創展	11月25日(月)～12月2日(月)*									●							総合	898
現代書道院	第51回 現代書道院展 併催:現代書道院学生展	11月25日(月)～12月2日(月)*	●	●														書	2,214
国際現代美術家協会	第50回記念 i.m.a.展	11月25日(月)～12月2日(月)*				●	●											総合	2,005
春陽会	SHUNYO NEW ARTISTS WAVE 2024	12月3日(火)～12月11日(水)											●					総合	1,842
全国土地改良事業団体連合会	未来へつなごう！ ふるさとの水土里子ども絵画展2024	12月3日(火)～12月11日(水)													●			洋画	2,172
日本和紙絵画芸術協会	公募第38回 日本和紙絵画展	12月3日(火)～12月11日(水)												●				その他	1,906
東洋書道芸術学会	第70回 東洋書芸展	12月3日(火)～12月11日(水)														●		書	1,772
日本書道研究会	第59回 書心展 第58回 書心学生展	12月3日(火)～12月11日(水)					●	●										書	3,911
秀彩会	第16回 秀彩展 併催:第1回 秀彩会学生の部展	12月3日(火)～12月11日(水)								●								総合	941
日本蘭亭会	第24回 蘭亭書法交流東京展	12月3日(火)～12月11日(水)											●					書	845
書道研究 温知会	第80回 温知会書道展	12月3日(火)～12月11日(水)	●	●														書	1,300
元陽会	第55回 元陽展	12月3日(火)～12月11日(水)				●	●	●										洋画	2,908
洗心書会	第55回 洗心全国書道展 併催:高校生部・教育部	12月12日(木)～12月20日(金)*				●												書	1,345
国際文化カレッジ	第28回 総合写真展	12月12日(木)～12月20日(金)*						●	●	●								その他	2,684
三冊書道会	第57回 三冊書道展 併催:第11回 全国教育書道展	12月12日(木)～12月20日(金)*	●	●														書	1,330
大潮会	第86回 大潮展	12月12日(木)～12月20日(金)*			●													総合	1,189
日本書道美術院	第79回 日書展 併催:第79回 日書美教育部展 第69回 全国競書大会	1月4日(土)～1月10日(金)*	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●			書	6,828
日本書道教育学会	第74回 書道學會展 併催:第74回 全日本学生書道展	1月4日(土)～1月10日(金)*			●	●	●	●										書	6,089
日本刻字協会	第43回 日本刻字展	1月19日(日)～1月26日(日)*										●	●					書	2,736
貞香会	2025 貞香会総合書展	1月19日(日)～1月26日(日)*													●		●	書	2,422
回瀾書道会	第73回 回瀾書展	1月19日(日)～1月26日(日)*														●		書	1,466
太玄会	第66回 太玄会書展 併催:第9回 学生選拔展	1月19日(日)～1月26日(日)*				●	●	●										書	2,958
書道研究 書聖会	第52回 書聖展	1月19日(日)～1月26日(日)*										●						書	929
朝聞書会	第72回 朝聞書展	1月19日(日)～1月26日(日)*	●	●	●	●												書	1,774
日本漆工協会	第32回 ー日本文化を担い 世界に広げるー漆の美展	1月19日(日)～1月26日(日)*															●	彫刻工芸	856

[illegible]

※入場者数「—」：開催中止

講堂・スタジオ

講堂は当館が主催する事業の他、学校教育展・公募団体展に伴う授賞式や、講演会・シンポジウムなどに活用されている。また映画会や演奏会、セミナーなど芸術文化に関する事業の会場として提供している。スタジオは、ワークショップ・研究会などの美術創作活動、会議などを行うスペースとなっている。これらの施設は、当館のウェブサイトから予約を行える。

施設概要

講堂(交流棟ロビー階)

面積／ 284㎡+ 舞台 30㎡

定員／ 230 名(固定椅子 225 席、車椅子スペース 5 台分)

利用時間・料金／午前(9：45 ～ 13：15) 12,200 円
午後(13：45 ～ 17：15) 12,200 円
全日(9：45 ～ 17：15) 24,300 円

用途／授賞式、講演会、シンポジウム、映画会、演奏会、セミナーなど

スタジオ(交流棟 2 階)

面積／ 146㎡

定員／ 50 名

利用時間・料金／午前(9：45 ～ 13：15) 3,500 円
午後(13：45 ～ 17：15) 3,500 円
全日(9：45 ～ 17：15) 6,900 円

用途／ワークショップ、制作、研究会、会議など



講堂



スタジオ

実績

講堂の利用状況					
	午前	午後	利用団体数		利用人数
4月	13	14	27	(3)	1,615 (611)
5月	7	12	19	(0)	1,083 (0)
6月	12	13	25	(2)	1,453 (449)
7月	8	9	17	(2)	1,364 (469)
8月	9	9	18	(1)	1,427 (52)
9月	12	16	28	(3)	1,907 (638)
10月	13	12	25	(3)	2,024 (732)
11月	7	12	19	(3)	1,541 (374)
12月	9	10	19	(2)	1,254 (259)
1月	12	11	23	(1)	1,501 (230)
2月	12	13	25	(1)	2,091 (230)
3月	20	21	41	(5)	2,337 (1,046)
計	134	152	286	(26)	19,597 (5,090)
稼働率	45.6%				

※利用団体数、利用人数の()内は、館事業

スタジオの利用状況					
	午前	午後	利用団体数		利用人数
4月	18	20	38	(2)	439 (16)
5月	22	23	45	(1)	477 (27)
6月	19	23	42	(2)	416 (99)
7月	18	19	37	(2)	392 (175)
8月	15	21	36	(2)	228 (26)
9月	23	23	46	(2)	413 (65)
10月	24	27	51	(2)	550 (68)
11月	20	20	40	(2)	468 (101)
12月	14	17	31	(3)	606 (130)
1月	18	17	35	(2)	372 (115)
2月	15	20	35	(2)	478 (103)
3月	22	25	47	(2)	527 (67)
計	228	255	483	(24)	5,366 (992)
稼働率	77.3%				

※利用団体数、利用人数の()内は、館事業

3

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切にし、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

Creative Ageing ずっとび

障害のある方のための特別鑑賞会

とびラーによる建築ツアー

学校連携

展覧会関連プログラム

事業の発信・成果の発表



とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトである。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し2012(平成24)年度より始動。2024(令和6)年度で13年目を迎えた。広く一般から集まったアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、都美の学芸員、藝大の教員や専門家と対話を重ねながら、美術館の文化資源を活かした活動を展開している。本年度は11・12期とびラーに新たに13期とびラーが加わり、オンラインとリアル両方の場で活動した。

とびラーの活動はボランティアではあるが、美術館のサポーターではない。学びと実践をくり返し、能動的なプレイヤーとしてプロジェクトを推進している。とびラーの任期は3年間であり、その間にアートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をデザインし、さまざまな価値観を持つ多様な人々を結びつける活動を生み出している。

1期から10期までの任期満了したとびラーは合計369人となり、本年度も社会のさまざまな場所でアート・コミュニケータとしての活躍が見られた。

以下、実施プログラムの基本データは事業実績一覧(pp.60-63)を参照。

ウェブサイト <https://tobira-project.info>(ページビュー／537,569)

とびラー募集の流れと主な年間スケジュール

2023(令和5)年度

- 12月 13期とびラー募集広報開始
- 1月 13期とびラー応募受付開始
「とびらプロジェクト」フォーラム
13期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→13期とびラー決定通知

2024(令和6)年度

- 4月 基礎講座(～6月):隔週土曜日 全6回
- 7月 実践講座(～2月):鑑賞実践講座 全8回、アクセス実践講座 全7回、建築実践講座 全7回
- 7月 「Museum Start あいうえの」当年度プログラム開始
- 8月 「Creative Ageing ずっとび」当年度プログラム開始
- 12月 14期とびラー募集広報開始
- 1月 14期とびラー応募受付開始
「とびらプロジェクト」フォーラム
14期とびラー応募締切
- 3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)
→14期とびラー決定通知
開扉会(かいびかい:11期とびラーの任期満了式)

年間を通じて、とびラーの自主的な学びあいの場(とびラボ)が342回開催された。

13期とびラーの応募倍率と本年度のとびラー人数

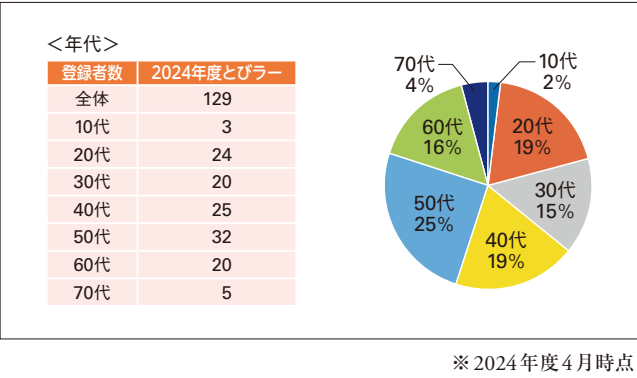
募集に対し362人から応募があり、書類審査、面接を経て、51人を13期とびラーに決定。約7.1倍の倍率であった。この51人と、2023(令和5)年度から更新した11・12期とびラー 78人をあわせた計129人で2024(令和6)年度のとびらプロジェクトが始動した。

都美×藝大とびらプロジェクト運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当し、当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。藝大担当者は小牟田悠介(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域特任助教、とびらプロジェクト・マネージャ)、越川さくら(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、西見涼香(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、とびらプロジェクト・コーディネータ)、代表教員として伊藤達矢(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 長、教授)。都美担当者は熊谷香寿美(東京都美術館学芸員)、峰岸優香(東京都美術館学芸員)。

とびラーの基本属性

11～13期とびラーの基本属性は次の図のとおりである。年齢や仕事、経験、活動できる曜日などが偏らないよう多角的視点から総合的に配慮した上で選考されている。



基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは、当館のミッションや藝大からのメッセージをもとに、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、よ

り実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。過年度はコロナ禍のためにオンライン開催となっていた講座も、本年度はリアルで実施し、美術館の現場で学ぶ機会を増やしていった。



基礎講座(第4回)会議が変われば社会が変わる

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日／全6回／各回約4時間)
アートを介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力だけではなく相手の話を状況や発言の文脈に応じてその本意を想像し「きく」受信力を身につけることを目的としている。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)
講師／小牟田、熊谷
プロジェクト概要や情報共有ツールについて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

第2回 「きく力」を身につける(13期とびラー対象)
講師／西村佳哲(プランニング・ディレクター／リビングワールド代表)
コミュニケーションの基本となる、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、とびらプロジェクトで大切な「きく力」について、講義と体験を通じて学ぶ。

第3回 作品を鑑賞するとは(13期とびラー対象)
講師／熊谷
作品が存在することによって起こる体験にどのような意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について理解を深める。

第4回 会議が変われば社会が変わる(13期とびラー対象)
講師／青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

とびラーの自主的な活動において根幹をなす「ミーティング」の場を、参加する一人ひとりが主体的に関わる場とするための具体的な手法を学ぶ。
第5回 ミュージアムとウェルビーイング(全とびラー対象)
講師／中原淳行(東京都美術館 学芸員 学芸担当課長)、小牟田、熊谷

東京都美術館のミッションとその背景について学芸員から話を聞く。また、これまでとびらプロジェクトやMuseum Start あいうえの、Creative Ageing ずっとびで実践してきたプログラムを題材に、人々との関わりで多様なウェルビーイングを実現する社会包摂の拠点となるミュージアムのあり方について考える。

第6回 この指とまれ／そこにいる人が全て式／解散設定(13期とびラー対象)
講師／西村佳哲

小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方、とびラーが自主的に活動していくための手法を学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

・実践講座(7月以降各講座ごとに年間を通じて実施)

実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実践の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

鑑賞実践講座(自分自身の眼で自分の感じ方を大切にしながら、作品をよく「みる」方法を身につける。作品を媒介にして複数の人がコミュニケーションをするための場づくりができるようになる。視覚的イメージを媒介にして、共同のかつくりティカルに複数の人が思考する場をデザインできるようになることを目的とする。)全8回
講師／三ツ木紀英(特定非営利活動法人芸術資源開発機構 代表理事)、熊谷、越川、峰岸

アクセス実践講座(具体的な社会課題に関わる状況・活動を知ることにより、美術館にアクセスすることが難しい人が、来館し、利用するために必要な支援を考える力を身

につける。)全7回

講師／又村あおい(全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 兼 事務局長)、小野広祐(学校法人 明晴学園 教頭)、村田陽次(東京都 生活文化スポーツ局都民安全推進部 都民安全課 課長代理)、山藤弘子(日本語教師、地域日本語教育コーディネーター、多文化共生コーディネーター)、矢嶋桃子(ライター、「谷中ベジママ安心ネット」主宰)、千ヶ崎賀子(社会福祉法人台東区社会福祉協議会 コーディネーター)、森田明(学校法人 明晴学園 教頭、NHK Eテレ『みんなの手話』講師、NHK Eテレ「手話で楽しむみんなのテレビ」手話演者)、南雲麻衣(ダンサー、俳優、アーティスト)、小牟田、越川、石丸郁乃(東京藝術大学 芸術未来研究場 ケア、コミュニケーション領域 特任助手 Museum Start あいうえのプログラムオフィサー)、藤岡勇人(東京都美術館学芸員)



アクセス実践講座(第2回)ろう文化を知ろう

建築実践講座(東京都美術館の建築の歴史や背景を理解し、自分の感覚を手掛かりに建築を味わう力を身につけ、美術館というパブリックな建築を介して人々をつなぐ場をデザインすることを目的とする。)全8回

講師／倉方俊輔(大阪市立大学大学院工学研究科 教授)、早川典子(江戸東京たてもの園 学芸員)、君塚和香(東京藝術大学 キャンパスグランドデザイン推進室 特任助教)、山田あすか(東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授)、西見、峰岸、河野佑美(東京都美術館学芸員)

上記講座に加えて、とびラー全員が集合する「とびらステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。本年度は、東京都美術館を会場に実施、79名が参加し互いに交流する機会とした。

また、特別展・企画展・上野アーティストプロジェクト展・コレクション展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会が設けられている。加えて、専門家とともに行う野外彫刻洗浄への参加も昨年に続き呼びかけた。

オープン・レクチャー

オープン・レクチャーとは、とびラーに加えて一般の方々を対象に毎年行われている公開講座である。ゲスト講師を招き、とびらプロジェクトの活動を進める中で見いだされた問題意識や目指す社会の姿について知見を深めることを目的とし、アートを介したコミュニティの価値に関して広く一般に発信する機会としている。

2024(令和6)年度は、アクセス実践講座の第6回を一般公開する形で開催した。本年は「Museum Start あいうえの」で2年にわたって取り組んできた「みるラボ」の活動紹介を軸に、ろう者や難聴者など様々な「きこえ」の状況にある人々と、聴者(聞こえる人)が、ともに美術館で「伝える、共有する」活動に取り組む意義について講演を行った。登壇者にはろう者として手話言語を用いた教育や表現に取り組む方々をお迎えし、ろう文化に関するレクチャーを行うほか、ろう者・難聴者を含むアート・コミュニケーターの活動についても紹介した。登壇者は森田 明(学校法人 明晴学園 教頭、NHK Eテレ「みんなの手話」講師、NHK Eテレ「手話で楽しむみんなのテレビ」手話演者)、南雲麻衣(ダンサー、俳優、アーティスト)、石丸、熊谷、小牟田。



オープン・レクチャー Vol.15 のチラシ

「とびらプロジェクト」フォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知することを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびラー募集のための説明会という趣旨も兼ねている。

本年度は「交差するミュージアム 関わりからクリエイティビティがうまれる」をテーマに実施した。2024(令和6)年4月から施行された、障害や様々な特性がある方への「合理

的配慮」の義務化を背景とし、多様な人々が互いの「違い」に関心を寄せ、創造的に関わりあうコミュニティのあり方について話題を広げる機会とした。登壇者は日比野克彦(アーティスト、東京藝術大学学長)、中原淳行、熊谷、小牟田、とびラー7名、任期満了後のアート・コミュニケーター1名。

第1部は東京都美術館の講堂を会場に行い、YouTubeで後日配信も行った。小牟田がとびらプロジェクトの概要について紹介した後、「関わりからうまれるクリエイティビティとは」と題したトークセッションを行い、小牟田と熊谷が聞き手となって、とびラー7名が今年取り組んだ3つのプログラムを紹介した。まず、建築の見どころを参加者のペースでまわれる「都美のいいとこスタンプラリー」では、多様なとびラーたちで企画を組み立てるプロセスや、障害のある子どもや家族が当日楽しんだ様子を紹介した。次に、難聴者のとびラーが「とびラーによる建築ツアー」でガイドをつとめたエピソードとして、ほかのとびラーと協力し、UDトークを導入して実施した例を紹介した。3つ目に、ろう者のとびラーと全盲のとびラーがコミュニケーションをとりながら活動する「ともブラコラボラボ」では、意思疎通のための工夫や、周りのとびラーの気づきから生まれた様々な試行錯誤について紹介した。続いて、任期満了後のアート・コミュニケーターが主宰する「Flatart(フラッター)」の紹介では、学校や社会になじめない若者とアートをつなぐ活動を継続する事例が語られた。

後半のディスカッションでは、「交差するミュージアム」をテーマに、日比野、中原、小牟田、熊谷が登壇。多様な人々が協働する意義についてふりかえり、アート・コミュニケーターの働きが美術館や社会にもたらす影響について議論を深めた。

第2部は「とびラー オープンセッション」をアートスタディールーム、スタジオ、講堂で開催。とびラーの活動拠点であるアートスタディールームを公開し、普段の活動について紹介しながら、来場者からの質問にも答えた。



とびらプロジェクトフォーラム第2部「とびラー オープンセッション」

14期とびラーの決定

募集に対し385人から応募があり書類審査、面接を経て、2025年3月に58人を14期とびラーに決定した。



14期とびラー募集チラシ

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびラボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。

集まったメンバーのできることを組み合わせ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザインしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生み出される。

とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人が全て式」、「解散!また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はさまざまなバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。本年度も、Zoomでのミーティングとリアルでのミーティングを併用して行った。年間開催数 342回、のべ参加者数 2,796人。

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：

企画展

・消しゴムはんこ展示@障害のある方のための特別鑑賞会(デ・キリコ展)

・ひろがる iPad@障害のある方のための特別鑑賞会(デ・キリコ展)

・消しゴムはんこ展示@障害のある方のための特別鑑賞会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)

・さらにひろがる iPad@障害のある方のための特別鑑賞会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)

・おしゃべり鑑賞会(上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア—記憶のなかの景色)

◎当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動：

・トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー

・五感で楽しむ 朝の都美さんぽ

・野外彫刻を楽しむ

・都美のいいとこスタンプラリー

◎とびラー対象の活動：

こどもってなんだろう？ラボ、VTS練習会、とびdeラヂオぶ〜☆「とびラーによるずっとアートと生きていくラヂオ」、おじさんのことも考えてみたいラボ、とびラ体操を作りたい！、やさしい日本語を使ってみよう、地域福祉ラボ、きこえてなんだろう、上野公園探検隊、一村展でバードウォッチング、開扉冊子2025編集部等
※詳細はとびらプロジェクトウェブサイトのとびラボページを参照のこと。https://tobira-project.info/tobilab



おしゃべり鑑賞会



都美のいいとこスタンプラリー



とびdeラヂオぶ〜☆「とびラーによるずっとアートと生きていくラヂオ」

情報共有の仕組み

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の2つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提としているため、これらの仕組みは補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。ミーティング方法の一つとして、コロナ禍よりオンライン会議システムであるZoomミーティングも導入している。

情報保障

1) 聴覚障害を持つアート・コミュニケーターへの情報保障として、講座等に手話通訳、遠隔日本語字幕を導入するとともに、日常的なコミュニケーション支援として筆談とUDトークを活用した。

2) 全盲のアート・コミュニケーターへの情報保障として、講座等で鑑賞する作品の触察ツールを制作したり、メー

ルや掲示板の情報を音声読み上げ等の方法で理解しやすくするためのサポート等を行った。



触図をさわって鑑賞する様子

これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。

本年度のミーティング開催数10回、のべ参加者数138人。「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

- ・アートとの出会い方・出会いの場を考える
- ・みんなの「やりたい」を実現するプラットフォームづくり
- ・VTSゼミ(仮)

上記のような活動を経て、2025(令和7)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」が開催された。任期満了した11期とびラー 37人。



「開扉会」での集合写真

アート・コミュニケーターの活躍と広がり

2023(令和5)年度より始まった「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 ずっとアートと生きていく—上田薫と上田葉子の生き方に学ぶ、クリエイティブ・エイジング」(詳細はp.59を参照)では、会場ファシリテータとしてとびラーや任期満了したアート・コミュニケーターが活躍し、展覧会の作品やテーマ、美術館や地域医療・福祉セクターと連携した取り組みについて来場者の理解を深める役割を担った。

任期満了後のアート・コミュニケーターは、当館内外のさまざまな場で活躍の場を実現している。当館では、任期満了したアート・コミュニケーターが運営する任意団体「アート・コミュニケーター東京」に「障害のある方のための特別鑑賞会」の運営協力を依頼している。

他には、東京都美術館を設計した前川國男の建築である神奈川県立音楽堂を紹介するガイドツアーを行う団体「Bridge」、同じく前川國男建築の埼玉会館を紹介するガイドツアーを行う団体「前川國男を知ろう！彩の国探検隊」、赤ちゃんを連れてミュージアムに行く保護者やファミリーを応援するプログラムを行う「ベビーといっしょにミュージアム」、府中市美術館での小学校来館をコーディネートする団体「あーちゅびー」、孤立しやすい若者を支援する団体と連携し藝大生との鑑賞プログラムを行う「Flatart(フラタート)」など、今後もさまざまな活動の展開に期待が寄せられる。

「アート・コミュニケーター東京」や「ベビーといっしょにミュージアム」などのチームが、東京都庭園美術館からの依頼でアート・コミュニケーション・プログラムが定着するなど、社会的ニーズの高まりもうかがえる。

Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」)とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生及び、その年齢の全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通した統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・バック」とウェブサイトを軸に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は1,330人。2013(平成25)年の事業開始から累計21,020人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.60-63)を参照。
ウェブサイト <https://museum-start.jp>
(ページビュー／250,589)
インスタグラム @museumstartaiueno 閲覧数78,566回

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京藝術大学
共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが「きく力」を意識して子供たちと共に活動しているとびラー(p.44参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。
とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動する。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でプログラムの場づくりに参画することが、とびらプロジェクトでの各講座の内容を具体的に理解し、実践する学びの場となっている。

Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。藝大担当者は、小牟田悠介(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助教、「あいうえの」プロジェクト・マネージャ)、石丸郁乃(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域 特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)、手代木理沙(芸術未来研究場 ケア,コミュニケーション領域特任助手、「あいうえの」プログラム・オフィサー)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は熊谷香寿美、河野佑美。都美から専門家委託した新留璃子。

「ミュージアム・スタート・バック」の特徴

「ミュージアム・スタート・バック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。

連携各館を紹介するガイドブックである「ビビハドトカダブック」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。

子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にバックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者・教員には「あいうえの」を紹介した小冊子「ミュージアム・スタート・バック活用ガイドブック」を配布。



ミュージアム・スタート・バック(ver.11、2024年度版)

ウェブサイトの機能

「あいうえの」ウェブサイトでは、子供たちや保護者が上野公園への来訪時に参考にできるよう連携9館のプログラムや展覧会情報等を一望できる「ミュージアム・カレンダー」を設けている。あわせて、参加者による「冒険ノート」の投稿・閲覧ページ、連携館で働く人々のミュージアム体験に関するインタビュー記事等を掲載した「Ueno Park & Museums」、実施プログラムを報告する「活動ブログ」を掲載。



ウェブサイトトップページ

入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」ではあらゆる子供たちが参加できるよう、3つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校プログラム」、ファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリー & ティーンズ・プログラム」、そして、多様な文化的背景を持つ子供たちや社会的支援を必要とする子供たちを対象とする「ダイバーシティ・プログラム」の3つである。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。

本年度は、美術館の建物や野外彫刻を活用したプログラムのほか、連携館を会場としたプログラムを再開した。実施したプログラムは以下のとおり。

(1) 学校プログラム

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートしている。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサ

ポート。事前授業に活用できる作品のアートカード等が入った「鑑賞ボックス」も貸し出している。



スペシャル・マンデー「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」、東京都美術館

・スペシャル・マンデー

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした展示室で鑑賞授業を行うプログラム。とびラーが子供たちと作品鑑賞を共にし、サポートする。学校から美術館までの往復バスを無料で用意し、美術館を活用しやすい環境を整えている。

全4日開催

参加8校2園、参加者数：547人(園児・児童・生徒数)

対象：都内幼保・小・中・高等・特別支援学校(幼稚園保育園は年長クラスから受け入れ、特別支援学級も受け入れ)

・うえのウェルカム

野外彫刻や開室中の展示室で行う学校対象プログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。

全8日開催

参加8校、参加者数：428人(児童・生徒数)

対象：小、中、高等学校、特別支援学校・学級(申込状況により、都外の学校も受け入れ)

(2) ファミリー&ティーンズ・プログラム

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察を通して子供と大人がともに学びあうことを目指している。どのプログラムにおいてもとびラーが子供たちの活動に伴走している。本年度は下記の3つのプログラムを実施した。

・ミュージアムGO

子供と大人がミュージアムの楽しさや楽しみ方のコツを、それぞれに知ることができるプログラム。こどもたちは、みんなで高精細複製図屏風(伝・尾形光琳筆《群鶴図屏風》)をとびラーと対話しながら鑑賞した。保護者は、子供とミュージアムを楽しむコツに関するガイダンスを聞き、スライドやアートカードを使って、上野公園のミュージアムの作品を小さなグループで、対話しながら鑑賞をした。実施日：7月6日(土)、24日(水)、12月14日(土) 2025年2月22日(土) 全4日、8回実施／参加者数：255人(子供)



屏風の鑑賞 高精細複製図屏風《群鶴図屏風》

・あいうえのmeet

上野公園に集まる様々なミュージアムの得意分野を活用した。それぞれのミュージアムを舞台に、アーティストや学芸員・専門家・研究者と出会い、分野横断的に作品や資料を探求するプログラム。

meet①大地とつくる 東京都美術館×東京藝術大学

実施日：8月22日(木)

参加者数：11人(子供)

meet②いろいろいろ 東京都美術館×国立科学博物館

実施日：12月7日(土)

参加者数：13人(子供)

meet③ミロとみる 東京都美術館×国立西洋美術館

実施日：2025年3月27日(木)

参加者数：16人(子供)



あいうえのmeet② 国立科学博物館 地球館 撮影：中島佑輔

・みるラボ：つたえ方を考える

「きこえ」の違いを切り口に、異なる文化と出会い、ともに美術館体験をするティーンズ世代対象のスペシャル・プログラム。2023(令和5)年度の実施に引き続き、2回目の開催。ろう者・難聴者と聴者がグループになり、「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展の作品を鑑賞し、3人で選んだ1つの作品を表現する映像を協働して制作した。ろう者・難聴者のとびラーも一緒に活動した。

実施日：8月16日(金)、17日(土)

※台風の影響のため17日のみの実施となった

参加者数：9人(ティーンズ)



作品鑑賞の様子「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展、東京都美術館 撮影：中島古英

(3)ダイバーシティ・プログラム

多様な文化的背景を持つ人々が、文化や言語を越えて違いや共通点を知り、相互理解を深めるプログラム。様々な社会的状況にある子供たちを対象に、2016(平成28)年度から実施している。児童養護施設、経済的困難を抱えた子

供をサポートするNPO、外国にルーツを持つ子供をサポートするNPOなど、関連する団体と連携し、文化や言語の違いを超えて、子供や大人が出会い、対話することを目指している。

・美術館でやさしい日本語プログラム「絵の音を楽しもう！」

中国、ベトナム、インド、パキスタン、日本にルーツを持つ子供とその保護者が参加し、やさしい日本語を使ったプログラムを開催した。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」を鑑賞し、グループでお気に入りの作品の一つを選び、そこから聞こえてくる音を想像し、いくつかの素材で音をつくった。また、子供同士だけでなく保護者同士も交流できるよう、保護者を対象にグループに分かれてとびラーと館内散策するツアーも同時進行で実施した。最後に子供たちの作った音を皆で聞きあった。

実施日：11月10日(日)、1回開催

参加者数：子供19人、保護者22人、とびラー 25人



「絵の音を楽しもう！」ASRでの活動風景

・ミュージアム・トリップ

NPO法人台東区の子育てを支え合うネットワーク たいとこネット・認定NPO法人キッズドアと連携し、各団体が支援する子供たちを対象に美術館を楽しむプログラムを開催。来館時期にあわせ、「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展や東京藝術大学卒業・修了作品展をとびラーと一緒に鑑賞した。東京藝術大学卒業・修了作品展では藝大生から作品制作にまつわる話を聞く機会も設けた。

実施日：8月9日(金)、2025年2月1日(土)、2回開催

参加者数：子供25人、保護者5人、引率者7人、とびラー 26人



「第73回 東京藝術大学 卒業・修了作品展」、東京藝術大学

あいうえのコミュニティ

ミュージアムを活用した継続的な学びを支援するミュージアムを拠点にしたつながり「あいうえのコミュニティ」を支える仕組みとして、プログラム参加者には専用ニュースレター(あいうえの通信)を発行。ミュージアムや文化財を介したコミュニティの形成へのステップを継続的に創出している。本年度は、ニュースレターを9回発行した。

また、本事業においてとびラーは重要なパートナーであり、とびラーがコミュニティの一員として主体的に関わることができるよう、全てのプログラムの前後には、事前の準備会と事後の振り返りを実施し、実践的な学びを深めている。また、全てのプログラムの後には振り返りを実施した。

準備会実施回数：24回

参加者数：とびラー 438人

・アンバサダー・プログラム

「アンバサダー・プログラム」とは、「あいうえのコミュニティ」を広げる取り組みの1つであり、とびラーが「あいうえの」を発信するプログラムである。対象はとびラー自身が属する身近なコミュニティの子供やその保護者で、とびラーが「あいうえの」の趣旨やコンセプトを紹介し、参加者がとびラーと一緒にミュージアム体験をする内容としている。とびラーの「あいうえの」に対するより深い理解を促すことも目指している。

実施回数：4回

参加者数：子供6人、保護者・引率者4人、とびラー 4人

Creative Ageing ずっとび

「Creative Ageing ずっとび」（以下ずっとび）は超高齢社会に対応して、2021(令和3)年度よりシニア世代を対象に始めた事業である。人や作品との出会いを通して、シニアがより主体的で創造的に楽しめる参加型のプログラムを実施している。事業名の「Creative Ageing(クリエイティブ・エイジング)」には「創造的に年を重ねる」という意味があり、「ずっとび」には、歳を重ねても「ずっと」通いたくなる美術館「とび(当館の愛称)」を目指す思いが込められている。

アート・コミュニケーション事業が取り組む、美術館の文化資源を介した多様な人々の社会参画とコミュニケーションの場づくりは、人々の健康やウェルビーイングにも寄与する役割も担ってきた。ずっとびでは、この役割をシニアに向けてより意識的に展開していくことで、美術館が高齢者の健康を作る場となり、さらには高齢化に伴う社会的孤立や孤独などのさまざまな社会問題にも向き合うことを念頭に入れて活動している。実務は都美と藝大で組織された運営チームが担当した。藝大担当者は小牟田悠介、金濱陽子(『共生社会』をつくるアートコミュニケーション共創拠点推進機構特任助手)。都美担当者は熊谷香寿美、藤岡勇人。
ウェブサイト <https://www.zuttobi.com/>
(ページビュー／ 23,336)

多職種連携について

加齢に伴う認知機能の衰えや疾患などにより美術館へのアクセスに障壁を感じているシニアとつながり、配慮が必要な部分にも対応しながら受け入れていくには、多職種連携が鍵になる。ずっとびでは、日頃から大学、医療機関、地域福祉との連携を図り、シニアの健康に資する美術館の機能をより効果的に発揮することを目指して活動している。

当館が参画している、東京藝術大学を拠点とした産学官民の共創プロジェクト「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」（以下、アート共創拠点）では、芸術、福祉、テクノロジーなど様々な専門性を有する参画機関と協働し、シニアの社会参加につながる新しい文化的プログラムの開発や情報共有及び共同研究の機会をつくっている。また、当館が立地する台東区の医療機関、地域包括支援センター、社会福祉協議会などとも連携し、主に地域に暮らす認知症が気になる方とその家族を対象としたプログラムを共同で企画、実施、振り返りまでを行っている。

研究開発

(1)とびラーを対象に、2023(令和5)年度リサーチを行った台北市立聯合病院の医師リュウ・ジェンリャン氏をゲス

ト講師に招き、台湾における「博物館処方箋」を題材に「領域を超えた連携による認知症の人にやさしい環境づくり」というテーマのレクチャーを実施した。

実施日：11月4日(月・祝)、参加者数：62名(視察者1名)



レクチャーの様子

(2)パートナープログラム

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京では、国内文化施設、NPO、研究機関や文化事業に関わる多様な担い手と連携しながら、文化施設や文化事業のアクセシビリティ向上に関わる調査、検証、モデル開発を「パートナープログラム」と名付け今年度から取り組みを始めた。当館はその一つ「認知症フレンドリーなアクセシビリティの検証及びモデル開発」の企画運営を担っている。本年度は、モデル開発に向けて、永寿総合病院と上野公園の文化施設(恩賜上野動物園、国立西洋美術館、したまちミュージアム、東京国立博物館)とのネットワークづくりを開始した。なお、初期の認知障害(MC I 相当)の方を対象としたプログラムを当館及び上野動物園にて実施した。



鑑賞プログラムの様子

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」 東京都美術館 撮影：中島佑輔

認知症の方とそご家族を対象にしたプログラム

高齢化に伴い誰もが当事者になり得ると言われる認知症がある人や認知症が気になる人、またその家族を対象に、美術館での作品鑑賞と対話ができるプログラムを開催した。

(1) オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会

昨年度に引き続き、永寿総合病院認知症疾患医療センターとたいとう・まつがや地域包括支援センターが開催している「オレンジカフェ(認知症カフェ)」と連動したプログラムを実施した。プログラムに合わせて大学美術館の収蔵品の中から5作品を選び、大学美術館の展示室に仮設の展示空間をデザインした。参加者は5～6人のグループになり、とびラーとの鑑賞を楽しんだ。

実施日：10月8日(火)、参加者数：9組15名



「オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会」のパナー



「オレンジカフェ×ずっとび鑑賞会」の様子

飯島正義《晩秋》、絹本着色 1930年 東京藝術大学蔵

(2)美術館で絵を楽しもう！「ずっとび鑑賞会」

台東区立台東病院とあさくさ・みのわ地域包括支援センターと連携し、上記の東京藝術大学大学美術館の展示室を活用した鑑賞会を実施した。台東病院の関連施設である「老人保健施設千東」にリハビリのために通所している方な

ど、台東区の65歳以上の方とそご家族が参加した。美術館へのアクセスを高めるために送迎車を手配し参加者の一部が利用した。参加者はグループにわかれ、身近なモチーフやこどもが描かれた作品を前に、想像力を働かせながらとびラーとの鑑賞を楽しんだ。

実施日：10月9日(水)、参加者数：11組14名



「ずっとび鑑賞会」送迎の様子 撮影：中島佑輔

アクティブシニアを対象にしたプログラム

「動く、遺影！イエイ！イエーイ！」

講師にダンスカンパニー・んまつーボスを迎え、アート・コミュニケータ(とびラー)と一緒に美術館で作品を鑑賞し、人生をふりかえりながら、からだを動かすプログラムを実施した。

「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024 ずっとアートと生きていく—上田薫と上田葉子の生き方に学ぶ、クリエイティブ・エイジング」の展示作品を題材に、参加者ひとりひとりの身体表現を「動く遺影」として記録した。

実施日：8月7日(水)、参加者数：11組14名

障害のある方のための 特別鑑賞会

障害のある方がより安心してゆっくり鑑賞できるように、特別展の休室日に事前申込制で「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催している。

本年度は「デ・キリコ展」「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」にて各1回ずつ実施、合計1,262人の参加者があった。展示室での混雑を避ける目的で、受付を前年度と同じように1時間ごとの時間指定制で行った。とびらプロジェクトと連動し、当日の運営には総計63人のとびラーが参加した。任期満了したアート・コミュニケータから構成される任意団体「アート・コミュニケータ東京」にも運営協力を依頼し、事前準備を経て総計127人の「アート・コミュニケータ東京」会員が参加した。受付には手話通訳が常時待機し、聴覚障害がある方の通訳を行った。

参加者のサポートを行うアート・コミュニケータについて紹介するスライドを会場入り口に設置し、アート・コミュニケーション事業の理解を促す一助とした。会場内では、作品の細部が見えにくい方のためにiPadで画像を拡大したり、視覚障害のある方と一緒に会場をまわるなどのサポートを行った。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」では、作品2点の触図を制作し、視覚障害のある方がさわって鑑賞を深められるような働きかけを行った。
[運営協力：任意団体「アート・コミュニケータ東京」]

実施日：6月10日(月)10：00～16：00
「デ・キリコ展」
実施日：11月11日(火)10：00～16：00
「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」



障害のある方のための特別鑑賞会
「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」での触図鑑賞の様子

とびラーによる建築ツアー

「とびラーによる建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を味わうプログラムである。建築家が込めた想い、歴史、建物の色・デザインといった建築を楽しむポイントを切り口に、当館の建築空間をとびラーと対話しながら散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のプログラムを展開している。原則奇数月の第3土曜日14時から開催。

本年度は1回の参加定員を30人とし、参加方法は事前予約制とした。また、実施当日は5～6人の少人数のグループにガイドとサポートを務めるとびラーが2人付き、ワイヤレス無線機も使いながらツアーを実施した。難聴者のとびラーがガイドを務める場合はUDトークを活用した。また、第6回目には手話によるガイドグループを設け、難聴者・ろう者のとびラーが日本語対応手話により案内を行った。

実施日：5月12日(日)*、7月20日(土)、9月21日(土)、11月23日(土)、2025年1月25日(土)、3月1日(土)*
*5月の第3土曜日は公募展展覧会撤収日のため第2日曜日に実施した。
*3月の第3土曜日は公募展展覧会陳列日のため第1土曜日に実施した。
全6回開催、参加者計192人

上記の定例のツアーに加え、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」を3回行った。ほかに建築を活用したとびラー発信のプログラムとして、建築のみどころをスタンプラリー形式でめぐる「都美のいいとこスランプリーㇿ」を12月に開催した。また、空間を身体を使って楽しみ、通常は開放していない北側エリア(旧野外彫塑室)もめぐる「五感で楽しむ朝の都美さんぽ」を4回開催した。



とびラーによる建築ツアーの様子

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されており、今後もさらなる連携が求められている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はpp.50-53)が始まり、小・中・高校生対象のプログラムに特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通した学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2024(令和6)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.60-63参照)

年間を通じた学校対応と観覧料免除申請(都内教育機関対象)
年間を通し、教員からの来館相談に応じている。特に特別支援学校の来館については、来館動線やファシリティの確認含めて下見対応を行っている。あわせて、地域学習や校外学習、美術部の活動時間を活用した子供たちからの職場インタビューにも対応。美術館で働く学芸員という職業の社会的役割について伝えた。
対応校数5校、児童・生徒10人、教員5人

また、学校教育活動として、特別展・企画展・上野アーティストプロジェクトを都内教育機関の児童・生徒が観覧する場合は、観覧料免除申請フォームで事前に申請をすることで高校生及び引率教員の観覧料を免除。さまざまな環境にある児童・生徒の美術館での学びの機会を担保することに寄与することを目指している。なお、本年度開催された特別展「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」「デ・キリコ展」「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」及び企画展、上野アーティストプロジェクト2024については高校生の観覧料が無料であったため、免除対象は引率教員だけとなった。
観覧料免除申請校：90校、児童・生徒1,378人、引率教員162人

教員研修
学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための教員対象の研修プログラムを実施。また、区市町村の図工研究部会の研修の受け入れや教員の資質向上研修の受け入れも随時実施。アート・コミュニケーション事業の基本的な考え方や「Museum Start あいうえの」の取組み、そして具体的な学校連携プログラムの事例紹介や鑑賞ワークショップ等を行っている。

本年度は、北区教育研究会図工・美術研究部小学校分科会、葛飾区立小学校教育研究会 図工科部等の研修の受け入れ、東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰの受け入れを行った。

また、国立科学博物館で開催された「教員のための博物館の日」(7月25日～28日)にブースを出展、12月13日に実施された報告会に出席した。

専門的人材の育成
美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は1人を受け入れ、実践的な学びを深めてもらった。

また、依頼のあった大学の学芸員課程の授業等を受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動を伝える機会とした。対応5校、参加学生89人。



インターンの活動の様子(あいうえのプログラムでのファシリテーション)

展覧会関連プログラム／キッズ＋U18デー

展覧会関連プログラム

当館で開催される特別展、企画展、公募展活性化事業、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中にさまざまなプログラムを行っている。2024(令和6)年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はpp.60-63 参照)

1 特別展ジュニアガイド

展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝える特別展ジュニアガイドを制作した。本年度は「田中一村展 奄美の光魂の絵画」で7万部、「ミロ展」で1万部作成した。



「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」ジュニアガイド

2 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、さまざまなプログラムが開催された。詳細はp.48を参照のこと。

3 展覧会関連プログラム

企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展では、アーティストトークやトークイベントのほか、とびラーと展覧会をめぐるツアー「ダイアローグ・デイ with とびラー」「ダイアローグ・ナイト with とびラー」を実施した(詳細はp.58を参照)。

「上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジアー記憶のなかの景色」及びコレクション展「懐かしさの系譜—大正から現代まで 東京都コレクションより」では、の関連プログラムとして、アーティストトーク、学芸員レク

チャー、からだ全体で作品をあじわうダンス・プログラム「ダンス・ウェル」を実施した(詳細はp.27)。



ダイアローグ・ナイト with とびラー
「大地に耳をすます 気配と手ざわり」の様子

キッズ＋U18デー

キッズ＋U18デーとは、休室日の月曜を特別に開室する、18歳以下の方とその保護者のための特別な1日である。本年度は、「ミロ展」と、企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展にて開催した。展示室では、気に入った作品をじっくり観察しながら描くことで、より丁寧な鑑賞につなげることを目的とした磁気式のお絵かきボード「とびらボード」を貸し出した。

開催日：

「ミロ展」

2025年3月31日(月)9:30～15:00

来場者：712名

「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展

8月26日(月)10:00～16:00

来場者数：152名



キッズ＋U18デー展示室風景 「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展
撮影：井手大

事業の発信・成果の発表

アート・コミュニケーション事業を体験する 2024

アート・コミュニケーション事業は、当館がリニューアル時に新しく掲げたミッションを具現化する取り組みの一つとして、2012年度に始まった事業である。美術館が芸術や文化財を研究し展示するだけでなく、人と作品、人と人をつなげ、個人と社会の新しい関係性が育まれる創造的な場であるために、多種多様な取り組みを行ってきた。

当事業を広く発信し、より多くの方に美術館のこれからの時代の役割と重ねて事業の理念を伝え、関心を持ってもらうため、「アート・コミュニケーション事業を体験する」という取り組みを2023(令和5)年度より始めた。ロビー階の第3公募展示室を会場に、開館100周年を迎える2026年度まで継続し実施していく予定である。会場には、とびラーと3年間の任期を満了したとびラーが常時滞在し、来場者と一緒にさまざまなアート・コミュニケーションが楽しめる場を作ること、体験を通して事業のエッセンスを伝えることを目的としている。

シリーズ企画の2回目にあたる2024(令和6)年度は、アート・コミュニケーション事業の中でも高齢者を対象としたプロジェクト「Creative Ageing ずっとび」に焦点をあて、「クリエイティブ・エイジング」という考え方や、当館を含めた国内外のミュージアムにおける「クリエイティブ・エイジング」につながる活動を紹介した。豊かに年を重ねながら創作活動が続けている作家として、今年96歳となる画家の上田薫とその妻でキルト作家の上田葉子の作品を展示。二人の創作の歩みを通して、生きることと表現すること、常に変化していく人間の創造力の可能性について考えた。あわせて、超高齢社会に対応したミュージアムの取り組みについて紹介する資料や、「Creative Ageing ずっとび」とその活動基盤となるアート・コミュニケーション事業に関する資料を展示した。会場ではとびラーと、3年間の任期を満了したとびラーが来場者を迎えた。12日間を通じて、6,949人が来場し、とびラーがのべ114人、任期満了したとびラーがのべ93人関わった。

開催日：7月30日(土)～8月11日(日)(8月5日は休室)

会場：ロビー階 第3公募展示室

来場者数：6,949人



「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024」の入口
撮影：中島佑輔



展示室の様子 撮影：中島佑輔



展示室で来場者を迎える とびラーの様子

アート・コミュニケーション事業

2024(令和6)年度 実績

2024年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：26,801人

とびらプロジェクト プログラム参加のべ数 8,345人 / アート・コミュニケーター登録者数129人								
プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計			
			とびラー	開扉とびラー	一般参加者等			
基礎講座	4月13日、27日、5月11日、25日、6月18日、22日 いずれも土曜日	6回	379	0	0	379		
鑑賞実践講座	6月24日(月)、7月14日(日)、7月15日(月)、8月26日(月)、9月30日(月)、11月4日(月)、12月9日(月)、2025年1月7日(火)	8回	539	0	14	553		
アクセス実践講座	6月30日(日)、7月7日(日)、8月25日(日)、9月15日(日)、10月6日(日)、2025年1月5日(日) 特別編：8月6日(火)	7回	379	49	13	441		
建築実践講座	6月29日(土)、8月24日(土)、9月14日(土)、29日(日)、12月1日(土)、26日(土)、2025年2月8日(土) 特別編:10月9日(水)	8回	381	0	0	381		
鑑賞実践講座及び建築実践講座年間課題	2024年7月～2025年2月	26回	89	0	0	89		
14期とびラー 1次審査応募者	2025年2月		0	0	385	385		
14期とびラー 2次面接	2025年3月7日(金)、8日(土)、9日(日)	3日間	0	0	126	126		
とびらステーション	10月27日(日)	1回	79	0	0	79		
開扉会	2025年3月29日(土)	1回	96	0	0	96		
とびらプロジェクト・オープンレクチャー	Vol.15 ろう者・難聴者・聴者がいっしょに「～Museum Start あいうえの「みるラボ」2年間の取り組みから	1回	66	0	153	219		
とびらプロジェクト・フォーラム	交差するミュージアム関わりからクリエイティブイがうまれる	2025年1月26日(日)	1回	49	0	202	251	
藝大連携プログラム	芸術未来研究場展「とびらフェス」準備会	11月30日(土)	1回	14	0	0	14	
	芸術未来研究場展「とびらフェス」	12月1日(日)	1回	56	0	125	181	
	芸術未来研究場展「とびらフェス」とびラーによる鑑賞会	12月1日(日)	1回	6	0	8	14	
	藝大生インタビューキックオフmtg	10月27日(日)	1回	31	0	0	31	
	藝大生インタビュー	11月19日(火)、20日(水)、28日(木)、12月3日(火)、4日(水)、6日(金)、9日(月)、10日(火)	10回	32	0	0	32	
	とびら×DOOR交流講座「クロッキー」	10月14日(月)	1回	31	0	65	96	
都美連携プログラム	特別展事前勉強会(田中一村展 奄美の光 魂の絵画)	8月18日(日)	1回	62	0	0	62	
	特別展事前勉強会(ミロ展)	2025年2月2日(日)	1回	67	0	0	67	
	企画展事前勉強会 [「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展]	6月2日(日)	1回	56	0	0	56	
	企画展事前勉強会 [「つくるよろこび 生きるためのDIY」展]	2025年3月22日(土)	1回	59	37	0	96	
	上野アーティストプロジェクト2024&コレクション 展事前勉強会([ノスタルジアー記憶のなかの景色])	9月23日(土)	1回	34	0	0	34	
	「つくるよろこび 生きるためのDIY」展出品作家 ダンヒル&オブライエンの会	11月23日(土)	1回	38	0	1	39	
	【ずっととび】表紙の年輪(丸)ドロ잉の制作	11月17日(日)	1回	18	0	0	18	
	野外彫刻洗浄	11月5日(火)	1回	9	0	2	11	
	「障害のある方のための特別鑑賞会」準備会	6月9日、11月3日 いずれも日曜日	2回	61	128	0	189	
	「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展関連プログラム 「ダイアローグ・ナイトwithとびラー」準備会	8月2日(金)	1回	32	0	0	32	
	「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展関連プログラム 「ダイアローグ・デイwithとびラー」準備会	8月21日(水)	1回	13	0	0	13	
	日本彫刻会盲学校鑑賞事業協力	4月23日(火)、26日(金)	4回	20	0	89	109	
	東京都美術館消防訓練・防災介助セミナー	2025年2月3日(月)	1回	3	0	0	3	
	とびラボ	とびラボ ミーティング	4月～2025年3月	342回	2,796	0	0	2,796
	とびラボ発プログラム(「障害のある方のための特別鑑賞会」)	6月10日、11月11日 いずれも月曜日	2回	28	0	261	289	
	とびラボ発プログラム(「上野アーティストプロジェクト&コレクション展」ノスタルジアー記憶のなかの景色)	さらにひろがるiPad(田中一村展)	11月11日(月)	1回	30	0	392	422
とびラボ発プログラム(「おしゃべり鑑賞会」)	12月20日(金)	1回	13	0	14	27		
とびラボ発プログラム(当館の建築及び野外彫刻をテーマとする一般来館者対象の活動)	野外彫刻を楽しむ	10月5日(土)、13日(日)	2回	27	0	25	52	
これからゼミ	都美のいいとこスタンブラリー♪	12月15日(日)	1回	27	0	100	127	
	五感で楽しむ 朝の都美さんぽ	9月7日(土)、12日(木)、10月19日(土)、30日(水)	4回	38	0	44	82	
	「これからゼミ」について考えてみない？	9月14日(土)、22日(日)	2回	8	0	0	8	
全国のアート・コミュニケーションリーグ連携	これからゼミ ミーティング	2025年2月～3月	10回	138	0	0	138	
視察対応等のアート・コミュニケーション事業連携	情報交換会	8月8日(木)、2025年3月25日(火)	2回	0	0	20	20	
開扉とびラーとの連携	「障害のある方のための特別鑑賞会」のための下見	4月～2025年3月	50回	0	0	165	165	
合計				5,804	337	2,204	8,345	

※鑑賞実践講座、アクセス実践講座の一般参加者は、藝大の履修証明制度「Diversity on the Arts Project」受講生

Museum Start あいうえの プログラム参加のべ人数 2,745人

プログラム名		連携団体・学校	開催日	回数	参加者数 とびラー	生徒・ 児童	保護者・ 引率者等	参加者計	
学校向けプログラム スペシャルマンデーコース 8校2園 参加児童・生徒数 547名	【「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展】	台東区立松が谷保育園	9月9日(月)	1回	14	13	3	30	
		まちの保育園 小竹向原	9月9日(月)	1回	16	16	4	36	
		北区立滝野川小学校	9月9日(月)	1回	25	83	5	113	
		台東区立根岸小学校	9月24日(火)	1回	31	103	7	141	
		北区立田端小学校	9月24日(火)	1回	33	102	6	141	
	【田中一村展 奄美の光 魂の絵画】	東京学芸大学附属小金井小学校	10月15日(火)	1回	12	12	19	43	
		江東区立第五砂町小学校	10月15日(火)	1回	31	123	10	164	
		台東区立黒門小学校	11月25日(月)	1回	17	55	4	76	
		足立区立江北小学校	11月25日(月)	1回	15	22	9	46	
		東京都立港特別支援学校	11月25日(月)	1回	10	18	4	32	
学校向けプログラム うえのウェルカムコース 8校 参加児童・生徒数428名	【「大地に耳をすます 気配と手ざわり」展】	東京都立本所高等学校美術部	8月1日(木)	1回	3	9	1	13	
		川口市立芝東中学校美術部	8月8日(木)	1回	7	24	2	33	
		上野学園高等学校	9月4日(水)	1回	11	30	2	43	
		【建築・野外彫刻探検】	台東区立東浅草小学校	10月18日(金)	1回	10	40	4	54
		【建築・野外彫刻探検】	三鷹市立南浦小学校	10月31日(木)	1回	19	126	6	151
	【ガイダンス】	【建築・野外彫刻探検】	鹿児島県立松陽高等学校	12月10日(火)	1回	0	36	3	39
		【建築・野外彫刻探検】	北区立滝野川小学校	2025年2月6日(木)	1回	29	77	7	113
		【建築・野外彫刻探検】	葛飾区立中青戸小学校	2025年2月27日(木)	1回	25	86	5	116
		学校プログラム事前打合せ			18回	0	0	31	31
		ファミリー向けプログラム	ミュージアムGO	7月6日(土)、24日(水)、 12月14日(土) 2025年2月22日(土)	4日間 8回	60	255	263	578
ダイバーシティプログラム	あいうえのmeet	①東京都美術館×東京藝術大学 ②東京都美術館×国立科学博物館 ③東京都美術館×国立西洋美術館	8月22日(木) 12月7日(土) 2025年3月27日(木)	3日間 3回	44	40	40	124	
		みるラボ：つたえ方を考える	8月17日(土)	1回	6	9	0	15	
	美術館でやさしい日本語プログラム 「絵の音を楽しもう！」		11月10日(日)	1回	25	19	22	66	
		ミュージアム・トリップ	NPO法人たいとこネット 認定NPO法人キッズドア	8月9日(金) 2025年2月1日(土)	2日間 2回	26	26	12	64
	学び合いカフェ	各プログラムのとびラー対象準備日		7月～2025年3月	24回	436	0	2	438
アンバサダープログラム			7月28日(日)、9月29日 (日)、12月15日(日) 2025年3月21日(金)	4日間 4回	4	6	4	14	
Museum Start あいうえの 2024 meeting			6月6日(木)	1回	0	0	17	17	
視察					0	0	14	14	
合計					909	1,330	506	2,745	

Creative Ageing ずっととび プログラム参加のべ人数 244人

プログラム名		開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計
				とびラー	一般参加者等	
認知症の方とその家族を対象にしたプログラム	オレンジカフェ×ずっととび鑑賞会	10月8日(火)	1回	14	15	29
	美術館で絵を楽しもう！「ずっととび鑑賞会」	10月9日(水)	1回	12	14	26
アクティブシニアを対象にしたプログラム	動く、撮影！ イエイ！ イューイ！	8月7日(水)	1回	14	14	28
研究会	「領域を超えた連携による認知症の人にやさしい環境づくり」	11月4日(月)	1回	62	0	62
とびラーとの学び合いの場	各プログラムのとびラー向け準備日	7月25日(木)、8月6日(火)、9月21日(土)、10月7日(月)	4回	73	0	73
視察				0	26	26
合計				175	69	244

障害のある方のための特別鑑賞会 プログラム参加のべ人数 1,452人							
プログラム名		開催日	回数	参加者数			参加者計
				とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等	
障害のある方のための特別 鑑賞会	デ・キリコ展	6月10日(月)	1回	27	66	628	721
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	11月11日(月)	1回	36	61	634	731
合計				63	127	1,262	1,452

とびラーによる建築ツアー プログラム参加のべ人数 432人						
プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計
			とびラー	一般 参加者等		
とびラーによる建築ツアー	5月12日(日)、7月20日(土)、9月21日(土)、11月23日(土)、2025年1月25日(土)、3月1日(土)	6回	124	192		316
トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー	7月5日、19日、11月29日 いずれも金曜日	3回	54	61		115
視察				0	1	1
合計				178	254	432

学校連携 プログラム参加のべ人数 3,010人						
プログラム名	開催期間・開催日	件数 回数	参加者数		参加者計	
			児童・生徒	教員等		
観覧料免除申請(都内教育機関)	印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵	1月27日(土)～4月7日(日)	3件	32	5	37
	デ・キリコ展	4月27日(土)～8月29日(木)	52件	743	95	838
	大地に耳をすます 気配と手ざわり	7月20日(土)～10月9日(水)	7件	150	16	166
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	9月19日(木)～12月1日(日)	14件	244	20	264
	上野アーティストプロジェクト2024	11月16日(土)～2025年1月8日(水)	6件	69	10	79
	ミロ展	2025年3月1日(土)～7月6日(日)	8件	140	16	156
学校来館(都外教育機関)	デ・キリコ展	4月27日(土)～8月29日(木)	32件	576	29	605
	大地に耳をすます 気配と手ざわり	7月20日(土)～10月9日(水)	9件	141	15	156
	田中一村展 奄美の光 魂の絵画	9月19日(木)～12月1日(日)	15件	298	14	312
	上野アーティストプロジェクト2024	11月16日(土)～2025年1月8日(水)	6件	101	13	114
	ミロ展	2025年3月1日(土)～7月6日(日)	4件	63	9	72
教員研修	ティーチャーズデイ	6月26日(水)	1回	0	9	9
教員研修受入	東京都立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ受入 (台東区立浅草中学校)	8月3日(土)、10日(土)	2日間	0	2	2
専門的人材の育成およびネットワーク	足立区図工研究部会	6月26日(水)※打合せ、 8月27日(水)	2回	0	33	33
	北区教育研究会図工・美術研究部 小学校分科会	7月31日(水)	1回	0	19	19
	葛飾区立小学校教育研究会 図工科部	8月1日(木)	1回	0	16	16
	千葉県船橋市立中学美術教員研究部	10月23日(水)	1回	0	10	10
	女子美術大学	5月23日(木)	2回	40	4	44
	東京都立大学	10月19日(土)	1回	19	3	22
	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科	10月21日(月)	1回	9	0	9
	神奈川大学建築学部建築学科	11月30日(土)	1回	19	2	21
	東京学芸大学大学院	2025年1月15日(水)	1回	2	0	2
	上野の森美術館学芸課	8月20日(火)	1回	5	4	9
職業インタビュー	東京都立小台橋高等学校	8月21日(水)	1回	1	0	1
	長野県立松本県ヶ丘高等学校	9月26日(オンライン)、12月12日(来館) いずれも木曜日	2回	9	0	9
校外学習下見	東京都立墨東特別支援学校	4月30日(火)	1回	0	1	1
	東京都立練馬特別支援学校	5月2日(木)、11日(土)	2回	0	2	2
	東京都立鹿本学園中学部	8月2日(金)、15日(木)	2回	0	2	2
合計				2,661	349	3,010

展覧会関連プログラム プログラム参加のべ人数 2,308人						
プログラム名		開催期間・開催日	回数 日数	参加者数		参加者計
				とびラー	一般 参加者等	
とびらボード	【アート・コミュニケーション事業を体験する 2024】	7月30日(火)～8月11日(日)	12日間	0	57	57
	【キッズ+U18デー(大地に耳をすます 気配と手ざわり)】	8月26日(月)	1日間	0	40	40
	【ミロ展】	2024年3月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、20日(木)～23日(日)、25日(火)～31日(月)	16日間	0	957	957
【大地に耳をすます 気配と手ざわり】	ダイアログ・ナイト withとびラー	8月30日、9月6日、13日 いずれも金曜日	3回	40	53	93
	ダイアログ・デイ withとびラー	9月4日(水)、11日(水)	2回	28	41	69
	アーティストトーク	7月20日(土)、8月4日(日)	3回	0	124	124
	トークイベント	8月24日(土)、31日(土)、9月22日(日)、26日(木)	4回	6	125	131
	【田中一村展 奄美の光 魂の絵画】	講演会	9月21日(土)、10月20日(水)	2回	0	380
【ミロ展】	講演会	2025年3月1日(土)	1回	0	148	148
【上野アーティストプロジェクト2024&コレクション展 ノスタルジアー記憶のなかの景色】	アーティストトーク	11月23日(土)、12月1日(日)、7日(土)	3回	0	205	205
	ダンス・ウェル	12月8日、2025年1月4日 いずれも土曜日	2回	0	49	49
	学芸員レクチャー	12月14日(土)	1回	0	55	55
合計				74	2,234	2,308

キッズデー+U18 プログラム参加のべ人数 864人						
プログラム名	開催期間・開催日	回数 日数	参加者数		参加者計	
			とびラー	一般 参加者等		
キッズ+U18 デー	大地に耳をすます 気配と手ざわり	8月26日(月)	1回	0	152	152
キッズデー	ミロ展	2025年3月31日(月)	1回	0	712	712
合計				0	864	864

事業の発信等 プログラム参加のべ人数 7,401人							
プログラム名	開催期間・開催日	回数 日数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉 とびラー	一般 参加者等		
アート・コミュニケーション事業を体験する 2024	7月30日(火)～ 8月11日(日)	12日間	114	106	6,662	6,882	
	開扉とびラー向け説明会	4月14日(日)	1回	0	31	0	31
	事前勉強会	6月22日(土)	1回	60	0	0	60
	準備会	7月29日(月)	1回	54	55	0	109
	ギャラリートーク	7月30日(日)	1回	0	0	54	54
	アーティストトーク	8月3日(土)	1回	0	0	65	65
	筆談deアート鑑賞	8月3日(土)、4日(日)	4回	4	8	20	32
	鑑賞プログラム	8月10日(土)、11日(日)	4回	24	29	0	53
	ワークショップ 「布と糸でウミウシをつくろう！」	8月10日(土)	1回	0	0	24	24
	アート・コミュニケーション事業を体験する 2025 説明会	2025年3月22日(土)	1回	59	32	0	91
合計			315	261	6,825	7,401	

4

アメニティ事業

美術館を訪れる楽しさを充実させるアメニティ事業を柱の一つに据え、佐藤慶太郎記念 アートラウンジ、美術情報室、レストラン・カフェ、ミュージアムショップを運営している。

佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

美術情報室

レストラン・カフェ

ミュージアムショップ

来館者サービス

アクセシビリティ整備

佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

当館創設に寄与した佐藤慶太郎に敬意を表して、名前を冠したラウンジを2012(平成24)年に設置。チラシやDM等の配架やスタッフの常駐により、東京都内の美術館を中心にした展覧会などの情報にアクセスできるインフォメーション・サービスを提供している。

また、2020(令和2)年から映像資料「佐藤慶太郎と東京都美術館のあゆみ」(約20分)をアートラウンジ内にて公開している。

施設概要
面積／391㎡
席数／52席

アートラウンジでの催し
アーカイブズ資料展示
(※詳細はP67に掲載)

桜の街の音楽会
日時／2024年4月2日(火)
13:00～13:30、15:00～15:30
入場料／無料
主催／東京・春・音楽祭実行委員会
連携／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
内容／ヴァイオリン&ヴィオラ&チェロ

まちなかコンサート
日時／2024年9月28日(土)
14:00～14:30、15:00～15:30
入場料／無料
主催／東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
連携／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
内容／ソプラノ&メゾソプラノ



北欧の家具が配されたアートラウンジ



桜の街の音楽会

写真：有田周平



まちなかコンサート

東京都美術館 アーカイブズ資料展示
「東京都美術館と佐藤慶太郎」
会期／2024(令和6)年11月6日(水)～12月1日(日)
会場／佐藤慶太郎記念 アートラウンジ
出品資料／21件
主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
観覧料／無料

1926年に開館した東京都美術館の設立は、北九州の実業家、佐藤慶太郎によって実現した。西洋諸国の大都市にあるような常設美術館が待望されていたなか、「公私一如」を信条とする佐藤の寄付によって、日本で最初の公立美術館が開館することとなった。佐藤はまた、学校や病院、生活訓練所などの設立に尽力し、社会奉仕に人生を捧げたことでも知られる。今年度のアーカイブズ資料展示では、佐藤慶太郎に関する写真や文書、冊子をとおしてその功績と志を紹介し、2026年に開館100周年を迎える東京都美術館のあゆみを振り返る機会とした。

- 出品リスト
- 1 佐藤慶太郎肖像 写真 撮影年未詳
 - 2 美術館建設費寄付願(写) 文書
 - 3 東京府美術館定礎式 写真 1925年撮影
 - 4 旧館型の容器 制作年未詳
 - 5 東京府美術館 正面 絵葉書 制作年未詳 発行：合資会社巧藝社
 - 6 「大原孫三郎氏蒐集泰西美術展覧会」展示風景 写真 1928年撮影
 - 7 佐藤慶太郎像 写真 撮影年未詳
 - 8 佐藤記念室の招待日風景 写真 1953年頃
 - 9 佐藤記念室 写真 撮影年未詳
 - 10 「日本洋画のあけぼの 明治初期洋画展」展示風景 写真 1956年撮影
 - 11 「昭和47年度収蔵作品展」展示風景 写真 1973年撮影
 - 12 『開館40周年記念 東京都美術館のあゆみ』東京都教育委員会発行 1965年
 - 13 豊道春海 佐藤慶太郎遺族宛書状扁額(1940年) 写真
 - 14 日本生活協会本館 外観 写真 撮影年不詳
 - 15 『協会のしおり』財団法人日本生活協会発行 1980年
 - 16 『生活』財団法人日本生活協会発行 1942年
 - 17 佐藤慶太郎 写真 撮影年未詳 齊藤泰嘉氏蔵
 - 18 故佐藤慶太郎氏所蔵画帖 現代美術展作品目録 1951年 齊藤泰嘉氏蔵
 - 19 横田章『佐藤慶太郎』大日本生活協会発行 1942年
 - 20 加藤善徳『美術館と生活館の創立者 佐藤慶太郎』日本生活協会発行 1942年
 - 21 齊藤泰嘉『東京府美術館を建てた石炭の神様 佐藤慶太郎伝』石風社発行 2008年
- ※保存のため、写真は一部を除き、当館所蔵のアーカイブズ資料の複製を展示した。



ポスター



日本で最初の「美術館における公開制図書室」として、1976(昭和51)年に開設。美術家や遺族から寄贈されるなどした貴重な図書資料は1994(平成6)年に東京都現代美術館に移管されたが、美術への理解と関心を高め美術振興に資するため、新たに一般向けの美術図書や美術雑誌、展覧会図録などの図書資料を収集し来館者の閲覧に供している。2012(平成24)年度に美術情報室と改称。リニューアルを機に当館の歴史に関する資料(アーカイブズ資料)の整理保管にも着手した。一部の資料は2014(平成26)年度末よりオンラインでのデータ公開を行っている。また、美術情報室では教育普及に関わる資料を収集の一つの柱に据え、2014年度よりセルフガイドの登録を開始した。

施設概要
面積／ 88㎡
席数／ 14席
蔵書検索端末2台(無料)
蔵書のコピーサービス対応(有料)

開室時間／ 10：00 ～ 17：00
休室日／第1、第3月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、整備休室のほか、美術館に準ずる

受入れ冊数 2024(令和6)年度							
	美術図書等	美術雑誌等	展覧会図録	年報・紀要等	セルフガイド	ニュース	チラシ
購入	120	192	31	0	0	0	0
寄贈	228	463	697	240	42	86	51
計	348	655	728	240	42	86	51

蔵書冊数(2025年3月31日現在)							
美術図書等	美術雑誌等	展覧会図録	年報・紀要等	セルフガイド	ニュース	チラシ	計
10,362	22,055	20,463	6,970	1,354	1,831	494	63,509

館史資料
旧館設計図、歴代展覧会ポスター・チラシ等、約6,000点



寄贈を呼びかけて収集・登録を始めた、さまざまな美術館・博物館のセルフガイド

実績			
開室日数／ 312日			
利用者数／ 6,382人(1日平均20人)			
●月別利用者数			
	利用者数	開室日数	1日平均
4月	591	28	21
5月	559	29	19
6月	551	28	20
7月	352	22	16
8月	565	29	19
9月	580	28	21
10月	767	29	26
11月	891	28	32
12月	254	18	14
1月	277	18	15
2月	426	26	16
3月	569	29	20
計	6,382	312	20
※1日平均は四捨五入			

館内で過ごすひとときをより楽しんでいただくために、レストランとカフェの3店舗を設置。洋食を中心に、和食、丼類、そば等豊富なアラカルト料理やセットメニューを揃えた、カジュアルレストラン「ミューズ」、ゆったりとした空間で上質な料理を味わっていただける本格フレンチダイニング「サロン」、各種軽食、デザート、ドリンク類を提供する「カフェ アート」である。

レストラン
RESTAURANT MUSE(レストラン ミューズ)
面積／ 481㎡
席数／ 200席
営業時間／ 11：00 ～ 17：30
(特別展開催中の金曜は20：00まで)



RESTAURANT salon(レストラン サロン)
面積／ 249㎡
席数／ 50席
営業時間／ 11：00 ～ 17：30
(特別展開催中の金曜は20：00まで)



カフェ
cafe Art(カフェ アート)
面積／ 103㎡
席数／ 50席
営業時間／ 9：30 ～ 17：30
(特別展開催中の金曜は20：00まで)



実績(2024(令和6)年度来店客数)	
RESTAURANT MUSE	／ 100,015人
RESTAURANT Salon	／ 15,718人
cafe Art	／ 68,108人

ミュージアムショップ

「+ CREATION(プラス クリエーション)」をコンセプトに、日々の暮らしを、さらには人生を、もっと豊かに、おもしろくするアイテムを提供する新しいタイプのミュージアムショップ。店内に設けた黒板のある一角では、アートをテーマにしたイベントも展開している。

施設概要

面積／ 127㎡

営業時間／ 9：30 ～ 17：30

(特別展開催中の金曜は20：00まで)

オリジナル商品

「TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012」(新伝統工芸プロデュース)に認定された11種類の商品のほか、当館ロゴ入りオリジナルグッズ(ポストカードなど)を取扱う。

TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012

認定商品／ 11種(2025(令和7)年3月末)

販売場所／東京都美術館ミュージアムショップ



実績

来店客数／ 92,384人

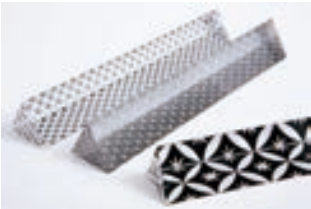
商品リスト			
商品名	伝統工芸分野	制作者(職人×デザイナー)	2012(平成24)年10月販売開始～2025(令和7)年3月までの売上げ個数
トウキョウカボッション	東京七宝	畠山弘×村田蘭衣	146
切子の指輪	江戸切子	堀口徹×小宮山洋	59
mixed pendant	江戸象牙	片山紀史夫×峰岸奈津子	81
鼈甲ブックマーカー	江戸鼈甲	大澤健吾×廣田尚子	220
ペーパーウェイトーモアレ	江戸切子	堀口徹×河本匠真	124
小紋チーフ	東京染小紋	富田篤×南出優子	265
小紋ネクタイ	東京染小紋	富田篤×南出優子	15
木彫ルーベ	江戸木彫刻	渡邊宗雲×渡邊純人	285
結-yuu-	東京くみひも	川勝新一×なごみ	143
ホントノキモチ	東京銀器	泉健一郎×竹中逸人・幾度慶美	80
漆硝子文鎮	江戸切子	廣田達朗×藤本英子	54
売上げ個数合計			1,472



小紋ネクタイ



トウキョウカボッション



漆硝子文鎮



結-yuu-

来館者サービス

来館者などへの利便性を高めるために、夜間延長開館をはじめ、託児サービス(有料)のほか、無料で車椅子・ベビーカーの貸し出し、飲料水などの自動販売機(有料)、貸ロッカー、公衆無線LANなどのサービスを提供している。

夜間開館

特別展開催時の金曜日に夜間開館を実施している。

毎週金曜日／ 9：30 ～ 20：00(特別展開催時)

各種サービス

自動販売機(飲料水など、有料)／ 8台

貸ロッカー(コインリターン式、無料)／ 512台(サイズ内訳：小465、中39、大8)

貸車椅子(手動型、無料)／ 28台

貸ベビーカー(無料)／ 5台(対象月齢1～48か月用3台)

特殊簡易公衆電話(コイン式、有料)／ 1台

コピーサービス(公募展示室等の利用団体向け、有料)



公衆無線LAN(TOKYO FREE Wi-Fi)

〈アメニティ設備〉

- ・多機能トイレ(介助用ベッド・オストメイト対応)／ロビー階3室
- ・授乳室／ 1室(個室ブース2、おむつ交換台2、流し台、トイレ等)
- ・救護室／ 2室(ベッド各2、流し台等)

〈お子さま連れの方向けサービス紹介〉

- ・TOBI KIDS NAVI

授乳室のご利用をはじめ、レストラン・カフェのお子さま向けサービスを紹介するガイドを2025(令和6)年9月に発行した。ロビー階インフォメーションや、授乳室、佐藤慶太郎記念 アートラウンジにて配布している。



託児サービス

当館または上野公園内の文化施設へお越しの方が利用できる託児サービス(ババママデー)を2014(平成26)年度から開始した。託児サービスは特別展開催時、月に3回程度実施している。

利用対象者／東京都美術館または上野公園内の文化施設にお越しの方

利用時間／ 13：00 ～ 閉館時間まで(1回3時間まで)

申込方法／事前予約制

定員／ 1日10名前後

利用料金／ 0歳～1歳 2,000円
2歳～6歳(未就学児) 1,000円



今年度、新たに「ババママデーのご案内」のチラシを作成した。上野公園をイメージするイラストをモチーフにした親しみやすいデザインとカレンダースタイルによる視認性を高めたデザインを採用。当館内のほか、上野公園近隣の文化施設や台東区、文京区の図書館等に配布している。



ババママデーチラシ

実績

実施日数／ 41日

利用者数／ 129人(1日平均 3.1人)

アクセシビリティ整備

2024(令和6)年4月、あらゆる人が芸術文化を楽しめる共生社会が実現することを目指し、東京都歴史文化財団が運営するすべての都立文化施設にアクセシビリティ向上のための環境・基盤整備を設計・推進・統括する社会共生担当専任職員が配置された。当館ではアート・コミュニケーション係に配属されている。取り組みは以下の通り。

受付体制

- ・手話通訳の配備

2023(令和5)年度より開館日の土曜日・日曜日にはインフォメーション(中央棟ロビー階)に手話通訳を配備。インフォメーションでは、簡易筆談器やコミュニケーションボードにも対応。

インフォメーションでの対応言語／日本語、英語、中国語、日本手話

情報サポート

- ・職員研修

2024(令和6)年4月に障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)の改正により、外部講師を招聘して職員と看視や警備、レストランなど東京都美術館に勤務するスタッフを対象に合理的配慮に関する研修を行った。レクチャーに加え、参加者間で意見交換を行う時間を設け、館全体で合理的配慮に対する理解を深めた。実施日：6月17日(月)、講師：稲庭彩和子(国立アトリサーチセンター主任研究員)、参加者数：117名



講師による研修の様子



研修を受ける職員の様子

また、災害時に自ら避難することが困難な方の円滑かつ迅速な避難を実施することを目的として、車椅子の方の避難方法に関する研修を防災訓練に併せて行った。日常的に車椅子を利用する当事者を講師に迎え、介助方法などを学んだ。実際に車椅子を使用して、非常時の避難誘導や階段昇降などの訓練を行った。職員同士で課題を共有する時間も設けた。実施日：2025年2月3日(月)、講師：ケアフィット共育機構、参加者数：90名



車椅子を使用した訓練の様子

- ・記録動画

ろう者、難聴者、聴者の高校生を対象とした企画展を鑑賞し、感じたことを身体で表現するプログラムの記録動画を作成。参加者同士のいきいきとした交流や鑑賞の様子をまとめた。(詳細はP52)

- ・手話による案内動画

ろう者である小野広祐氏(明晴学園教頭 ※2024(令和6)年度当時)とその妻である小野優子氏に向けて、難聴者及びろう者のアート・コミュニケータ(とびラー)が当館の建築や野外彫刻の魅力を日本手話で伝える動画を作成、ウェブサイト公開した。日本語字幕と音声吹替に加えて音声ガイドも導入し、視覚に障害のある方も楽しめるものとしている。また、当館の施設をろう者が日本手話で案内する「手話による施設案内動画」は2023(令和5)年度に作成され、公開している。こちらは日本語字幕と音声吹替を導入している。



手話による建築紹介動画
(日本語字幕付き)



手話による施設案内動画
(日本語字幕付き)

- ・施設案内触知案内図

館内の配置を触って確認できる触地図をインフォメーションで閲覧可能とし、ご希望の方にはスタッフが同行してご案内を行っている。

- ・バリアフリーガイド

障害のある方、高齢の方、ベビーカーをご利用の方など、来館されるすべての方が快適に過ごせるように、「バリアフリーガイド」を2021(令和3)年度に作成した。館内の施設情報を網羅し、見やすいブックレットスタイルでウェブ版(音声コード付き)を当館ウェブサイトに公開している。

- ・ソーシャルストーリー

ソーシャルストーリーとは、発達障害(神経発達症)の方とその家族などをサポートする社会学習ツールである。初めての場所の利用に不安を感じる方を始め、どんな方でも当館で安心して過ごすことができるよう、国立アトリサーチセンター、医療関係者、当事者のご家族等の協力を得て、都立文化施設として初めて制作した。最寄駅から当館までのルートや入館から退館までの様子を写真とわかりやすい文章で紹介。建物の内外でのルールを事前に知ること、見通しを持って、安心して過ごす手助けとなるように構成している。当館ウェブサイトでの公開に加え、印刷冊子についてはご希望の方へ郵送を行っている。

鑑賞サポート

- ・聴覚に障害のある方を対象にした取り組み

特別展、企画展、上野アーティストプロジェクト展、コレクション展、グループ展等、当館が主催する展覧会の関連プログラムにおいて、手話通訳の配備及び日本語字幕の表示を行い、聞こえない・聞こえにくい方がいつ来館されても参加できるよう情報保障を行った。とびらプロジェクトにおける情報保障についてはP48を参照。

- ・視覚に障害のある方を対象にした取り組み

特別展については、「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」



で2作品の触図を作成した。触図とは、視覚に障害のある方が点字から音声に加えて、触覚を使って鑑賞できる補助ツールである。本展においては、カラー印刷された作品画像の上にUV印刷で凹凸を付けたものを制作した。11月11日(月)に実施された「障害のある方のための特別鑑賞会」で活用するとともに、通常開室日では展示室内に案内を掲示し、来館者の希望に応じて職員が持参し、鑑賞をサポートする対応などを行った。

収蔵作品については、講堂前に設置されているレリーフ、ジョセフ＝アントワヌ・ベルナル《舞踏》の触察模型を作成した。実物をカメラで撮影して3Dデータ化、合成樹脂を素材に3Dプリンターで縮小立体化、その周囲に持ちやすくするための木枠を付けて完成させた。



「障害のある方のための特別鑑賞会」において触図を用いて鑑賞する来場者(左)、ジョセフ＝アントワヌ・ベルナル《舞踏》の触察模型(右)

- ・「やさしい日本語」による野外彫刻ガイド

当館の所蔵品である野外彫刻に関して、日本語を母語としない方にも理解しやすい「やさしい日本語」を用いた鑑賞ガイドを作成、ウェブサイト公開した。



その他の施設・設備について

- ・車いすの整備

貸車いす(自走介助兼用、無料)／28台
車いす対応トイレ／各フロア
・小さなお子さま連れの方対象
貸ベビーカー(無料)／5台(対象月齢1～48か月用3台)
ミルク用お湯のサービス／レストラン、カフェ、授乳室

5

広報事業・諸活動

広報事業

調査研究

収蔵品

広報事業

2024(令和6)年度も、各種メディアを通じての広報活動のほか、SNSを活用した新たな来館者層の拡充に努めた。また、地域の商業施設との連携や、館広報誌で地域の魅力を発信するなど、館にとどまらない地域全体の活性化を目指した取り組みを積極的に行った。X、Facebookのフォロワー数も昨年度より増加した。

印刷物の発行

館の概要、展覧会カレンダー、フロアマップを1冊にまとめた「ガイドリーフレット」を5言語(日・英・中(簡)・中(繁)・韓)で年2回制作し、館内で配架するとともに都内の観光案内所などで配布した。広報誌「東京都美術館ニュース」では、館の事業やプログラムの紹介だけでなく、著名人へのインタビュー、上野や谷中の方に地域の魅力を語っていただくコーナーなど、館内外の話題を日英併記で掲載、年3回発行した。



ウェブサイトとSNSの運用

ウェブサイトの年間ページアクセス数は約800万、X[日・英]のフォロワー数については順調に増加した。特に日本語Xはフォロワー数が約27万人となり、多くの方に迅速かつ的確な情報を伝えるツールとして欠かせない媒体となっている。

○東京都美術館ウェブサイト

<https://www.tobikan.jp>

○東京都美術館X

https://x.com/tobikan_jp[日]

https://x.com/tobikan_en[英]

○東京都美術館Facebook

<https://www.facebook.com/TokyoMetropolitanArtMuseum>

ウェブサイト閲覧数、SNS フォロワー数			
	アクセス数	X[日]	Facebook
平成25年度	6,155,741	10,376人	1,669人
平成26年度	10,334,828	19,537人	4,462人
平成27年度	12,473,648	61,850人	7,695人
平成28年度	16,791,673	116,543人	13,513人
平成29年度	12,993,661	145,319人	17,395人
平成30年度	17,949,956	160,148人	21,761人
平成31年度	16,704,295	173,991人	23,530人
令和2年度	8,000,324	187,626人	26,880人
令和3年度	9,333,495	208,265人	29,438人
令和4年度	9,272,219	236,167人	31,292人
令和5年度	9,253,976	249,730人	31,945人
令和6年度	8,095,255	269,293人	34,227人

※アクセス数はR3年度よりカウント方法を変更。R5年度7月に測定ツールがUAからGA4に移行

各種サインボード、広告掲出

上野公園内等への各種サインボード、上野の商店街でのペナントなどの他、オンライン上でのデジタル広告の投稿など、展覧会の特性にあわせた広告展開を実施した。



PR動画の作成

企画展の魅力をわかりやすく伝えるため、アーティストインタビューや学芸員による解説動画を作成し、YouTubeやSNSでの発信の他、広告展開にも活用した。



プレスリリース作成、取材対応及び取材誘致

メディア向けにプレスリリースを作成・配信。取材対応や記事掲載対応等を実施した。

各種メディアへの放映・掲出件数

TV・ラジオ／133件、新聞／562件、雑誌等／6,931件

他の文化施設、商業施設等との連携広報・地域連携

近隣文化施設との連携広報をはじめ、近隣商業施設が発行する優待カタログへの展覧会情報の掲載のほか、店舗内でのステッカー、コースター設置、告知協力、連携ポスター企画などをご協力いただいた。

・近隣商業施設との連携広報

「デ・キリコ展」「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」「ミロ展」のいずれの特別展においても、近隣の商業施設にてしおりの配布やコラボメニューの展開等のご協力をいただいた。

・近隣飲食店等との連携広報

企画展「大地に耳をすます 気配と手ざわり」では、近隣飲食店を中心に、雑貨店、ミニシアターなど116施設のご協力により、割引付きコースターを配布した。



・優待カタログ等の配布

上野の商業施設で作成する優待カタログの館内での配架により、地域全体の盛り上げに寄与した。

・上野の山文化ゾーン連絡協議会

各館の情報交換、各種パンフレット制作などを実施。秋の「上野の山文化ゾーンフェスティバル」では、講演会シリーズに参加した。



・上野ミュージアムウィーク

5月18日(日)の「国際博物館の日」前後に文化施設と上野のれん会が連携して開催。

実施期間：5月9日(土)～25日(日)

ユニークベニユー・ロケ撮影

ユニークベニユー

歴史的建造物や文化施設等で、会議やイベント、レセプション等を開催することで、特別感を演出できる会場を、ユニークベニユーという。

日本のモダニズム建築の巨匠・前川國男により設計された東京都美術館を、プライベートなイベントの会場として利用することができる。東京都美術館では、一定の条件のもとでユニークベニユーを受け入れている。

※令和6年度は実施なし



ロケ撮影受け入れ

当館では、東京におけるロケーション活動の円滑化を図り、東京のPRに資する映画、テレビドラマ等の撮影を通じ東京の文化発信力を高めるとい、東京ロケーションボックスの設立趣旨に賛同して、一定条件のもとでロケ撮影を受け入れている。2022(令和4)年度は以下の通り。

実績

スチール撮影 許可件数／5 撮影件数／3 撮影日数／3
ムービー撮影 許可件数／0 撮影件数／0 撮影日数／0

主な掲載媒体

ファッション誌・ファッションブランドカタログ、Web広告、テレビドラマ、ウェブ配信ドラマなど

主な撮影場所

公募展示室ロビー、エントランス、中庭、エスプラナードなど



年報

年報発行

「令和5年度 東京都美術館年報」(Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2023)を発行し、全国の関係各所に配布した。

●編集方針

- (1)社会に発信するコミュニケーションの手段として、
- MSR(Museum social responsibility)レポートの要素を加味し成果や評価結果の概要を提示
- 洗練されたデザインにより、わかりやすく、親しみやすい言葉で語る
- (2)成果や課題をビビッドに知らせる生きた年報として、
- 利用者の視点で活動や成果を知らせる
- 画像を用い、視覚に訴え、館の顔が見えるように
- (3)活動の記録の基礎資料として、
- 基本的なデータを網羅し、資料性を高める



令和5年度 東京都美術館年報
Tokyo Metropolitan Art Museum Annual Report 2023

調査研究

展覧会をはじめ美術館の様々な事業は調査研究の上に成り立っている。リニューアルオープンを機に、数々の自主企画を新たに展開することとなり、調査研究活動は一層重要性を増した。博物館法による博物館相当施設として、調査研究の成果を明確に示す必要がある。調査研究の成果は展覧会図録等で発表している。また、美術や美術館に関する職員の知見は、寄稿や講演などにより、より広く社会に還元するように努めている。紀要及び職員別の取り組みは以下の通り。

『東京都美術館紀要』発行

『東京都美術館紀要』は、美術及び美術館に関する諸分野の専門的、総合的研究の成果や、美術館活動における展示、教育普及事業等の活動や研究の成果を、論文、作品紹介、研究ノート等により掲載、発表することにより、現代社会で生活する人びとの芸術文化や教育の発展向上に寄与することを目的とする。

2024(令和6)年度は、『東京都美術館紀要 No.31』を発行した。巻末に、各論文の英文概要を掲載した。内容は以下の通り。

- ・大内曜「令和5年度コレクション展「動物園にて——東京都コレクションを中心に」報告」pp.5-14
- ・山田桂子「所蔵作品紹介 建畠覚造《さ傘(天の点滴をこの盃に)》」pp.15-25
- ・藤岡勇人「なぜ、藤牧義夫は「隅田川絵巻」を描いたのか？」pp.27-42



東京都美術館紀要 No.31

著作・講演等 ※五十音順

●大内曜

【著作・寄稿】

- ・「令和5年度コレクション展「動物園にて——東京都コレクションを中心に」報告」『東京都美術館紀要』、No.31、2025年2月28日、pp.5-14
- ・「展覧会の舞台裏 Creating Exhibitions 表現の原点に触れるグループ展」『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、pp.6-7

【講演・セミナー等】

- ・東京造形大学学芸員課程「博物館概論」ゲスト講師、2024年5月15日
- ・日本大学芸術学部美術学科彫刻コース地域芸術専攻特別講義、2024年11月7日

【委員・その他学術活動】

- ・VOCA展推薦委員
- ・記録集『はな子のいる風景』特集小展示(武蔵野市立吉祥寺美術館)協力

●大橋菜都子

【著作・寄稿】

- ・「大地に耳をすます 感覚を呼び覚ますために」『大地に耳をすます 気配と手ざわり』(展覧会カタログ)、東京都美術館、2024年、pp.170-175
- ・「大地に耳をすます 気配と手ざわり」、WEB版『うえの』上野のれん会、No.778、2024年8月号、pp.24-26

【講演・セミナー等】

- ・「海を越える印象派 世紀転換期のアメリカにおける印象派の受容」(文学部総合人文学科主催 ファカルティ・フォーラム)、東北学院大学、2024年5月25日
- ・国際基督教大学教養学部「博物館展示論」、国際基督教大学、2024年度3学期

●工藤阿貴

【著作・寄稿】

- ・「東京都美術館のアクセシビリティ向上のために」『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、pp.8-9
- ・ミュージアム・アクセシビリティ講座「ふかふかTV」第6回及び第7回、2025年1月9日及び2月20日配信、アーカイブ配信1月10日～17日、2月21日～28日

●熊谷香寿美

【講演・セミナー等】

- ・とびらプロジェクト第3回基礎講座、2024年5月11日
- ・とびらプロジェクト第1回鑑賞実践講座、2024年6月24日
- ・超福祉の学校@SHIBUYA2024「みんなが楽しめる博物館・美術館を目指すミュージアム・インクルージョン・プロジェクト」、渋谷ヒカリエ及びオンライン配信、2024年10月27日、アーカイブ配信2024年10月～
- ・如水会講演会、オンデマンド配信2024年11月～12月
- ・だれもが文化でつながる国際会議2024分科会4「認知症と向き合うアート」モデレータ、東京国際フォーラム、2024年11月3日
- ・とびらプロジェクトオープンレクチャー vol.15モデレータ、2024年11月23日
- ・日本生産性本部次世代経営幹部育成プログラム、2024年12月12日
- ・ミュージアム・アクセシビリティ講座「ふかふかTV」第6回及び第7回、2025年1月9日及び2月20日配信、アーカイブ配信1月10日～17日、2月21日～28日
- ・とびらプロジェクトフォーラム、2025年1月22日
- ・市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2025分科会B-2「ボランティアと呼ばない制度設計にしたその心は?! ～アート活動(美術館・博物館)におけるボランティアマネジメント最前線～」、龍谷大学及びオンライン配信、2025年2月23日
- ・神奈川県立歴史博物館研修会、2025年2月27日
- ・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター令和6年度社会教育情報番組「社研の窓」「地域のウェルビーイングの実現を目指して～学び合い支え合いの支援～」、オンデマンド配信2025年3月～

●河野佑美

【著作・寄稿】

- ・「Museum Start あいうえの コンセプト・ムービー」『東京都美術館ニュース』、No.479、2024年11月30日、pp.8-9
- 【講演・セミナー等】
- ・「東京都美術館の建築と歴史」、とびらプロジェクト建築実践講座第1回、2024年6月29日
- ・上野の森美術館学芸員実習「実習講義」、2024年8月20日
- ・国立科学博物館 公開フォーラム「教員のための博物館の日2024」事例報告会、2024年12月13日

- ・女子美術大学芸術学科アート・デザイン表現学科「ミュージアム・エデュケーション演習Ⅰ」、2024年5月23日
- ・東京都立大学学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ 見学実習」、2024年10月19日
- ・神奈川大学建築学部建築学科「建築史フィールドワーク」、2024年11月30日
- ・足立区図工研究部会、2024年6月26日
- ・北区教育研究会図工・美術研究部 小学校分科会、2024年7月31日
- ・葛飾区立小学校教育研究会 図工科部、2024年8月1日
- ・船橋市立中学美術教員研究部 2024年10月23日
- ・東京都立大学人文社会学部人文学科歴史学・考古学教室「博物館資料論」東京都立大学、2024年度後期

●小林明子

【著作・寄稿】

- ・「2023年度 アーカイブズ資料展示「企画展「現代美術の動向Ⅱ 1960年代——多様化への出発(1983年)」を振り返る」『東京都美術館ニュース』、No.479、2024年11月30日、p.12
- 【講演・セミナー等】
- ・十文字女子学園大学教育人文学部文芸文化学科「西洋美術史」、十文字女子学園大学、2024年度前期
- ・十文字女子学園大学教育人文学部文芸文化学科「博物館学実習Ⅰ」、十文字女子学園大学、2024年度後期
- ・「クリムトの黄金絵画」『謎解き！ヒミツの至宝さん』（NHK BS8K）、2025年1月26日、27日、31日放映

●進藤美恵子

【著作・寄稿】

- ・「温湿度を一定に保ち、作品のコンディションを24時間体制で見守り続けています」『東京都美術館ニュース』、No.477、2024年3月31日、p.13
- ・情報アクセシビリティ「快適にお過ごしいただけるように アクセシビリティの向上にも取り組んでいます」『東京都美術館ニュース』、No.478、2024年7月31日、p.13
- ・東京都美術館の休館日「建物や景観等のコンディション維持に努め、みなさまをお迎えしています」『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、p.13

●高城靖之

【著作・寄稿】

- ・「デ・キリコ展」『美術の窓』生活の友社、2024年5月号、

p.166

- ・「デ・キリコ展」WEB版『うえの』上野のれん会、No.776、2024年5-6月合併号、pp.36-38
- ・「デ・キリコ展」『新美術新聞』美術年鑑社、2024年5月15日号6面
- ・「デ・キリコ展」『公明新聞』公明新聞社、2024年6月5日号
- ・「デ・キリコ展」『おとなのおしゃれ手帖』宝島社、2024年7月号、p.75
- ・「美術情報室からおすすめ図書のご紹介です」『東京都美術館ニュース』、No.478、2024年7月31日、p.12
- ・「ミロ展」『美術の窓』生活の友社、2024年12月号、pp.40-41
- ・「〈オランダの室内〉連作に見るミロと過去の巨匠たちの関係」『ミロ展』（展覧会図録）、朝日新聞社、2025年、pp.32-41
- ・「美術情報室からおすすめ図書のご紹介です」『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、p.12

【講演・セミナー等】

- ・「デ・キリコ展の見どころ」朝日カルチャーセンター新宿教室、2024年5月26日
- ・「ジョルジョ・デ・キリコ 謎に満ちた作品と生涯」イタリア研究会、2024年7月13日

●瀧良介

【著作・寄稿】

- ・「境界、移動、風景——都美セクション グループ展2024について」『都美セクション グループ展 2024記録集』、2024年12月、pp.4-5

●中江花菜

【著作・寄稿】

- ・「東京藝術大学所蔵 山本芳翠《猛虎一声》の額縁」『PARALLEL MODE：山本芳翠 多彩なるヴィジュアル・イメージ』展覧会カタログ(岐阜県美術館)、2024年、p.131
- ・作家解説『西洋絵画、どこから見るか？ ルネサンスから印象派まで』展覧会カタログ(日本経済新聞社)、2025年
- ・「あの日・あの時 Playback! TOBI 《my sky hole 85-2 光と影》」『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、p.16
- 【講演・セミナー等】
- ・武蔵野音楽大学「ヨーロッパの美術史Ⅱ」、2024年度後

期

- ・「額縁の近代—洋画額縁の変遷に関する一試論」（ポスター発表）、明治美術学会40周年次世代研究者フォーラム「視覚文化研究をひらく—近代・日本・美術を超えて」、2024年11月24日
- ・「セッションA『時代』全体討議」明治美術学会40周年次世代研究者フォーラム「視覚文化研究をひらく—近代・日本・美術を超えて」、2024年11月24日

●中田歩

【著作・寄稿】

- ・「公募棟の4つの色について」『東京都美術館ニュース』、No.479、2024年11月30日、pp.10-11
- ・「つくる喜びを分かち合う スタジオと講堂の現場から」、『東京都美術館ニュース』、No.480、2025年3月31日、pp.10-11

●中原淳行

【著作・寄稿】

- ・「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」、WEB版『うえの』上野のれん会、No.779、2024年9月号、pp.22-24
- ・「田中一村展 奄美の光 魂の絵画 不屈の情熱に、南国の自然“東京で個展”の思い実る」、『公明新聞』、2024年9月11日、5面
- ・「田中一村 奄美の光、命の徴を明らかに」、『小原流挿花』、2024年11月、48頁
- ・「田中一村展 奄美の光 魂の絵画 上野の地でついに実現する大回顧展」、『美術の窓』生活の友社、2024年10月号、p.168
- ・「一村と写真」、「上野から奄美へ——田中一村の軌跡」、『田中一村展 奄美の光、魂の絵画』図録、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社、2024年9月19日、p.190、pp.242-245
- 【講演・セミナー等】
- ・とびらプロジェクト基礎講座「ミュージアムとウェルビーイング」、東京藝術大学第三講義室、2024年6月8日
- ・「ISSON NIGHT」、Robin Club 表参道、2024年9月23日
- ・「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」、2024年10月3日、あうるすぽっと、10月8日、調布市文化会館たづくりくすのきホール、10月18日、新宿歴史博物館、10月30日、日野市民の森ふれあいホール
- ・「展覧会の舞台裏——田中一村展ができるまで」、鹿児島

・ 県奄美パーク 田中一村記念美術館、2024年10月13日

・ 「東京都美術館で大回顧展がついに実現 今話題の『田中一村』をより深く知る」、2024年10月28日、八王子市生涯学習センター南大沢分館

・ 東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」フォーラム「交差するミュージアム～かかわりからクリエイティビティがうまれる～、東京都美術館講堂、2025年1月26日

●藤岡勇人

【著作・寄稿】

・ 「アート・コミュニケーション事業を体験する 夏の特別企画」『東京都美術館ニュース』、No.478、2024年7月31日

・ 「なぜ、藤牧義夫は「隅田川絵巻」を描いたのか？」『東京都美術館紀要』、No.31、2025年2月、pp.27-42

【講演・セミナー等】

・ かねつ有明中・高等学校「展覧会を作る」ゲスト講師、2024年5月7日

・ 女子美術大学芸術文化専攻「グローバル・コミュニケーションⅡ Exhibition Planning: Inversion as an exhibition theme」特別講師、2024年7月20日

・ 「クリエイティブ・エイジング」とびらプロジェクトアクセス実践講座第3回講師、2024年8月25日

・ 「認知症と向き合うアート」だれもが文化でつながる国際会議分科会、2024年11月3日

・ 女子美術大学芸術文化専攻「グローバル・コミュニケーションⅡ Regarding Curator Comment Writing」特別講師、2024年12月6日

●峰岸優香

【講演・セミナー等】

・ 前橋女子高等学校「総合的な探究の時間」インタビュー調査対応協力、2024年6月12日

・ 海城中学校「中学2年 聞き書きワークショップの授業」講演、2024年6月13日

・ 東京学芸大学「博物館実習Ⅰ」、2024年6月25日

・ 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター「地域体験実習」、2024年10月11日、11月21日

・ 東京学芸大学「教育ネットワーク論」インタビュー調査対応協力、2025年1月15日

●山田桂子

【著作・寄稿】

・ 「所蔵作品紹介 建畠覚造《さ傘(天の点滴をこの盃に)》」『東京都美術館紀要』、No.31、2025年2月、pp.15-26

収蔵品

当館は、野外彫刻等の立体作品13点と書作品36点を収蔵(展示・保存)している。

野外彫刻等の立体作品は、1975(昭和50)年度から1985(昭和60)年度にかけて収集された11点(寄贈を含む)など12点を常時展示している。本年度は、野外彫刻10点の洗浄調査を行った。

書作品の収蔵は、1963(昭和38)年度から1978(昭和53)年度にかけて行われた。1994(平成6)年には東京都現代美術館に移管されたが、2011(平成23)年7月に当館に再移管されることとなり、現在は30名の作家による書作品36点を収蔵している。

立体作品リスト

	作家名	作品名	制作年	材質	分類
1	五十嵐晴夫	メビウスの立方体	1978	花崗岩	彫刻
2	井上武吉	Plus and Minus No.55	1975	ステンレス	彫刻＊
3	井上武吉	my sky hole 85-2 光と影	1985	ステンレス、鉄	彫刻
4	建畠覚造	さ傘(天の点滴をこの盃に)	1973	アルミニウム、ステンレス、鉄	彫刻
5	鈴木久雄	P3824 M君までの距離	1977	花崗岩	彫刻
6	堀内正和	三本の直方体 B	1978	ステンレス	彫刻
7	堀内正和	三つの立方体 A	1978	ステンレス	彫刻
8	最上壽之	イロハニホヘトチリヌルヲワカタレソツネ……ン	1979	富士大沢石	彫刻
9	保田春彦	堰の見える遠景	1975	花崗岩、ステンレス	彫刻
10	小田 襄	円柱の領域	1975	ステンレス	彫刻
11	朝倉文夫	佐藤慶太郎像	1926	ブロンズ	彫刻
12	ジョセフ=アントワーン・ベルナール	舞踏	1975	石膏	レリーフ
13	ジョセフ=アントワーン・ベルナール	舞踏	1925	石膏	レリーフ

＊印の作品は、作者寄贈



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

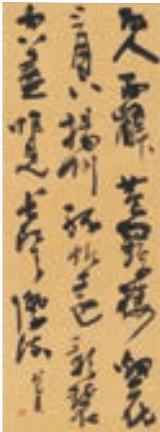


12

書作品リスト

作家名	作品名	制作年	材質	分類
1 青山杉雨	唐詩	－	紙本	書
2 青山杉雨	車馬嚮々	－	紙本	書
3 安東聖空	不二	－	紙本	書
4 安東聖空	富士	－	紙本、二曲一隻	書
5 泉原寿石	従容録	－	紙本	書
6 上田桑鳩	騰	－	紙本	書
7 宇野雪村	NEN	－	紙本	書
8 大石隆子	小庭	1972	紙本	書
9 金子鷗亭	閑適(七言絶句)	－	紙本	書
10 金子鷗亭	知床(自詠)	1964	紙本	書
11 金子鷗亭	尾花	1973	紙本	書
12 金田心象	菩薩	1972	紙本	書
13 川村驥山	清風明月用不盡	－	紙本	書

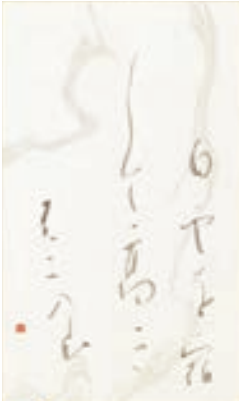
	作家名	作品名	制作年	材質	分類
14	熊谷恒子	いへにても	1972	紙本	書
15	桑田笹舟	希望	－	紙本	書
16	佐藤祐豪	元天目中峰和尚山居詩二首	1970	紙本	書
17	鈴木翠軒	万葉一首	－	紙本	書
18	炭山南木	天空海調	1970	紙本	書
19	田中塊堂	楓の木	－	紙本、二曲一隻	書
20	手島右卿	万華	1968	紙本	書
21	中野越南	寿似山	－	紙本	書
22	中村旭坡	七言絶句	－	紙本	書
23	西川 寧	吉康	1965	紙本	書
24	比田井南谷	作品 70-2	1970	油彩、紙本	書
25	日比野五鳳	あふさかの関	1969	紙本	書
26	広津雲仙	禅語(鐵圍圖)	1972	絹本	書
27	豊道春海	嘉言名句	1958	紙本	書
28	豊道春海	草書閑適	1966	紙本(一幅)	書
29	松井如流	彬	1971	紙本	書
30	松本芳翠	慰情	1958	紙本	書
31	宮本竹逯	万葉長歌	1974	紙本	書
32	村上三島	秋日	1970	紙本	書
33	森田子龍	想	1975	紙本	書
34	柳田泰雲	醉古堂剣掃之語	－	紙本	書
35	山崎節堂	孝経一節	－	紙本	書
36	山崎節堂	高野蘭亭雪中吉祥閣に登る詩	1975	紙本	書



1



2

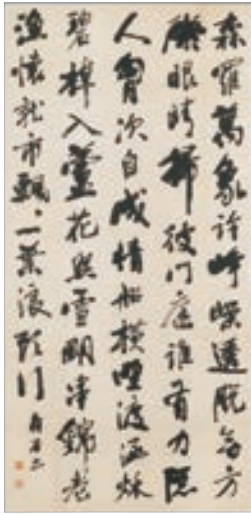


3



4





5



6



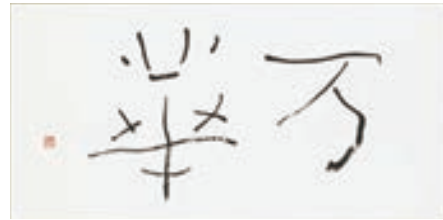
7



8



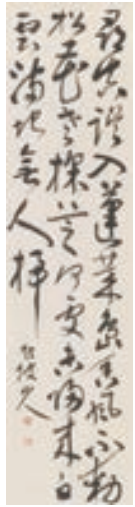
19



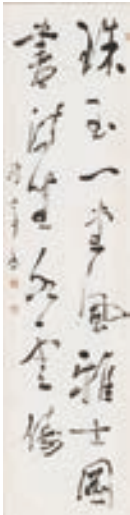
20



21



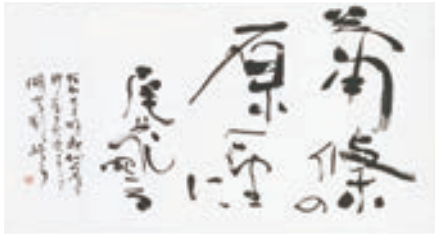
22



9



10



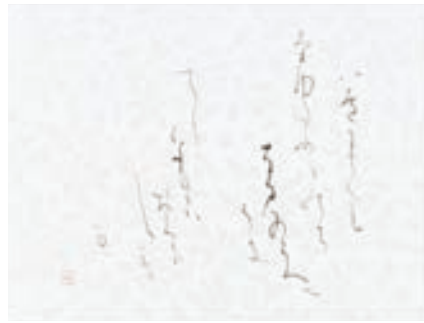
11



12



13



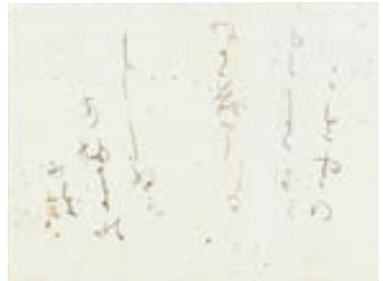
14



23



24



25



15



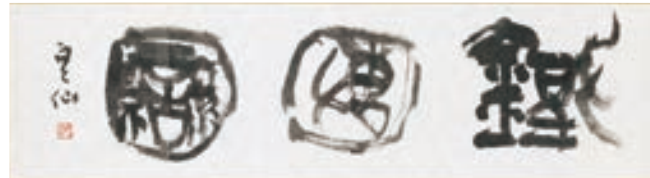
16



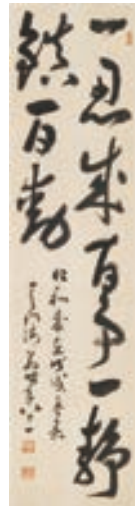
17



18



26



27



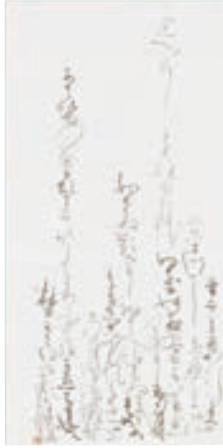
28



29



30



31



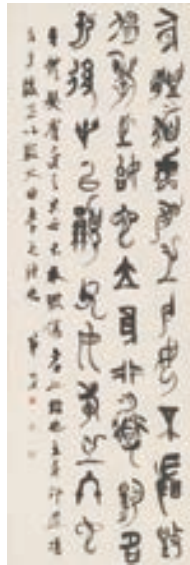
32



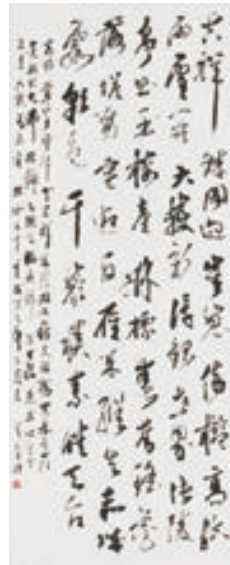
33



34



35



36

実績データ

2024(令和6)年度の実績

- 入館者数実績
- 予算概要
- 組織・名簿

入館者数実績

2024(令和6)年度 入館者数内訳										
展覧会観覧者				観覧者合計	その他入館者				その他入館者	入館者
特別展	企画展／上野AP ／グループ展／ コレクション展	公募団体展 学校教育展			アート・コミュニ ケーション事業	美術情報室	講堂	スタジオ	合計	総合計
4月	42,775	－	92,629	135,404	571	591	1,615	439	3,216	138,620
5月	58,845	－	78,389	137,234	644	559	1,083	477	2,763	139,997
6月	56,418	31,382	78,566	166,366	2,178	551	1,453	416	4,598	170,964
7月	41,086	3,376	43,898	88,360	2,273	352	1,364	392	4,381	92,741
8月	67,911	10,510	40,359	118,780	8,216	565	1,427	228	10,436	129,216
9月	28,329	11,835	81,163	121,327	1,834	580	1,907	413	4,734	126,061
10月	98,346	8,159	89,757	196,262	1,726	767	2,024	550	5,067	201,329
11月	154,625	30,602	107,403	292,630	3,095	891	1,541	468	5,995	298,625
12月	7,064	18,946	39,382	65,392	1,210	254	1,254	606	3,324	68,716
1月	－	6,720	50,654	57,374	668	277	1,501	372	2,818	60,192
2月	－	－	116,000	116,000	1,334	426	2,091	478	4,329	120,329
3月	60,950	－	101,605	162,555	3,052	569	2,337	527	6,485	169,040
合計	616,349	121,530	919,805	1,657,684	26,801	6,382	19,597	5,366	58,146	1,715,830

来館者の特徴と満足度

当館では毎年顧客満足度調査を実施している。今回は2022（令和4）年度から2024（令和6）年度の結果を比較する（総合満足度については2024（令和6）年度の結果のみ掲載）。

※公益財団法人東京都歴史文化財団「東京都美術館令和6年度顧客満足度調査報告書」からデータを抜粋。2022年度は3回、2023年度は2回、2024年度は2回（8月、9月）に調査を実施した（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、2021年度からウェブの常時設置バナー（QRコード）からの常時調査も行い、2024年度は6月～12月に実施）。

調査の実施方法

2024（令和6）年度は、6月～12月までウェブによる基本調査及び補完的調査（計2日）を実施した。

ウェブによる調査

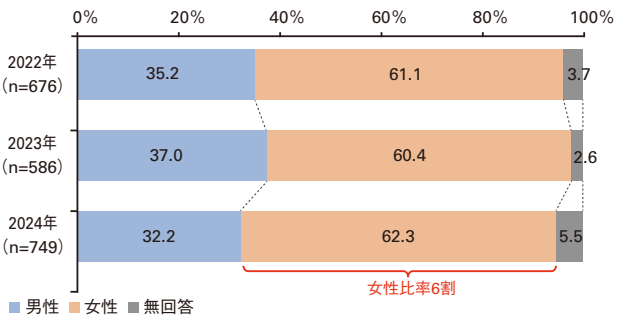
- ・常時調査（常時設置のバナー上QRコードからウェブ調査に参加）
 - ・集中調査（調査スタッフがアンケート協力の声掛けを実施し、協力者に謝礼配布）
- バナー設置による基本調査（6～12月常時）
- ・館内にアンケート告知バナーを設置
 - ・スタッフ対応なし・謝礼配布なし
- 特定日に実施する補完的調査（8月、9月計2日）
- ・バナーを追加設置
 - ・スタッフ対応あり・謝礼配布あり



来館者の特徴

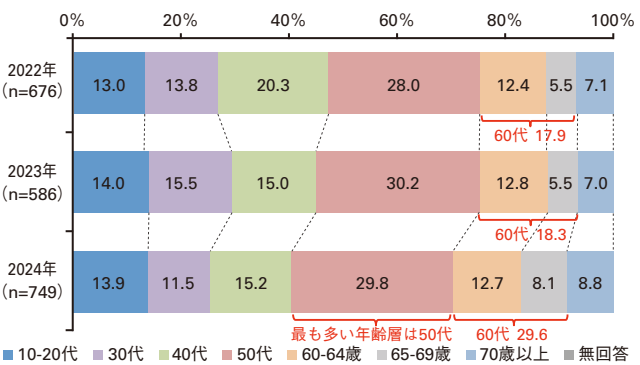
性別

2024年度は、男性の比率が32.2％と4.8％減少しているが、過去2年間と同様女性比率が高い傾向にある。



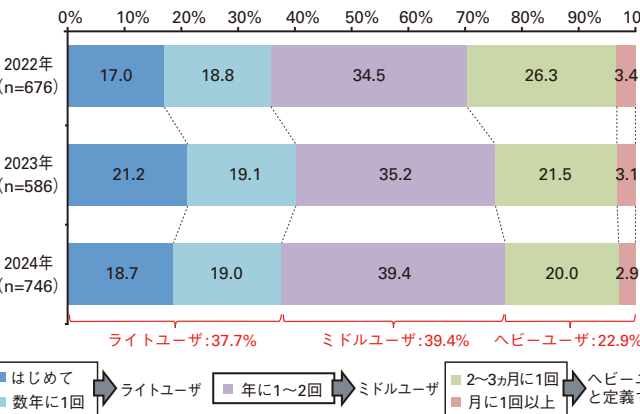
年代

50代が29.8％と最も高く、ついで60代以上が約3割を占め、60代後半から70代が増加傾向にある。



来館頻度

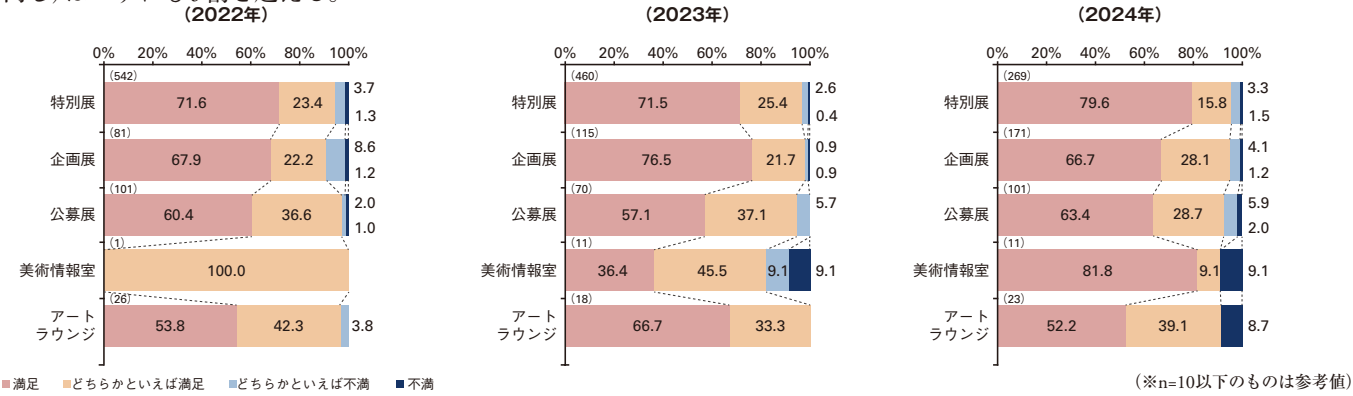
最も多いのは、「年に1～2回」の39.4％、ついで「2～3か月に1回」の20.0％、「数年に1回」の19.2％となっている。ライトユーザとミドルユーザがそれぞれ約4割とほぼ同等となっている。



来館者等の満足度

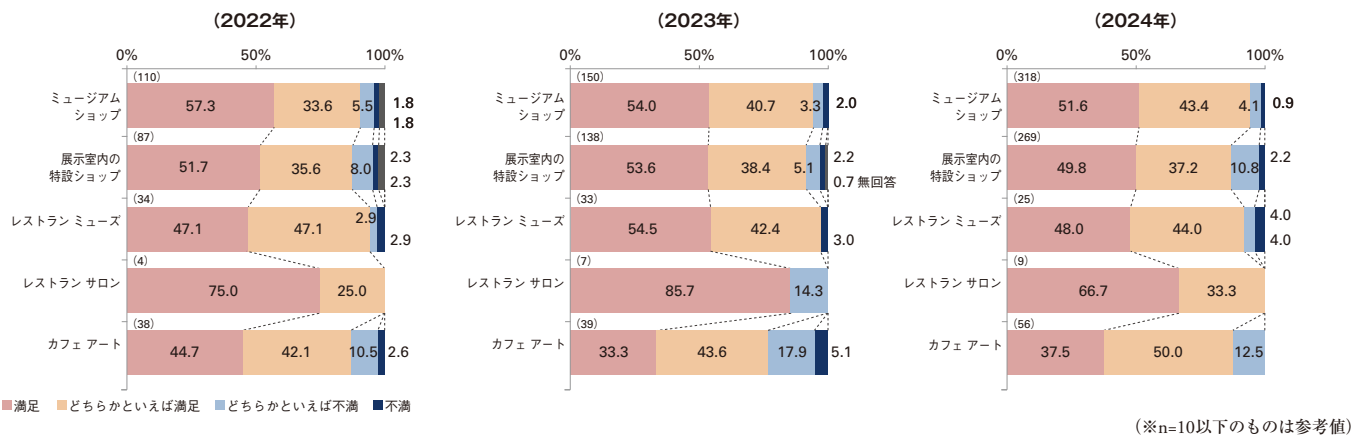
事業内容

調査中に開催していた特別展及び公募団体展についての満足度（「満足」は『満足』と『どちらかといえば満足』の合計。以下同じ）はいずれも9割を超える。



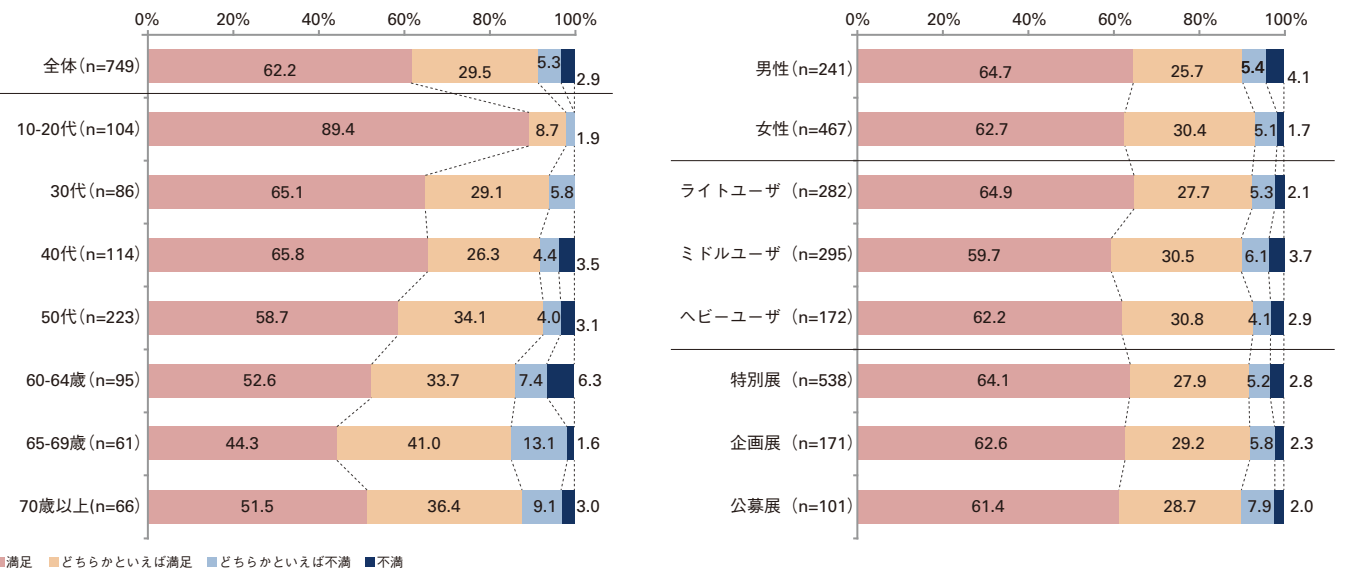
ショップ・レストラン・カフェ

満足度は8割以上と高い。レストラン サロンの100％に続き、ミュージアムショップ95.0％、レストラン ミューズ92.0％と続いている。



総合満足度

全体的に総合満足度は高く、91.7％となっている。年齢別にみると、10-20代では満足度は98.1％と高く、年齢が低いほど「満足」回答が高い傾向がみられる。男女別では、「満足」回答の比率はほぼ同等であるが、「不満」回答の比率は男性の方がやや高くなっている。



予算概要

公益目的事業会計 (自主事業)		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	73,843	
入場料	12,962	
共催事業収益	57,793	
出版物販売	3,088	
受取負担金	21,388	
経常収益計	95,231	
経常費用		
事業費	168,318	
経常費用計	168,318	
当期経常増減額	△ 73,087	
他会計振替額		
収益事業会計振替額	40,387	
当期一般正味財産増減額	△ 32,700	

(受託事業)		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	300,857	
施設使用料	300,857	
管理運営受託収益	684,579	
雑収益	6,376	
経常収益計	991,812	
経常費用		
事業費	991,509	
経常費用計	991,509	
当期経常増減額	303	
当期一般正味財産増減額	303	

収益事業等会計		(単位千円)
経常収益の部		
経常収益		
事業収益	98,651	
共催事業収益	15,314	
管理手数料	63,280	
撮影手数料	137	
受取光熱水費	19,920	
管理運営受託収益	0	
雑収益	32	
経常収益計	98,683	
経常費用		
事業費	31,372	
経常費用計	31,372	
当期経常増減額	67,311	
他会計振替額		
公益目的事業会計振替額	△ 54,547	
法人税、住民税及び事業税	4,416	
当期一般正味財産増減額	8,348	

組織・名簿

諮問機関等		(各委員会開催日時点の概要)
東京都美術館運営委員会		
会長	並木 一夫(元東京都生活文化局長・東京都レクリエーション協会特別顧問)	
副会長	手塚 雄二(日本画家・東京芸術大学名誉教授・日本美術院同人 理事・福井県立美術館 特別館長)	
委員	新井 光風(書道家・謙慎書道会顧問)	
	荒川 聡一郎(台東区副区长)	
	宝木 範義(美術評論家)	
	中林 忠良(版画家・日本美術家連盟理事長・日本版画協会理事)	
	三田村 有純(東京芸術大学参与 名誉教授・日展理事・江戸蒔絵十代継承)	
	山梨 絵美子(千葉市美術館館長)	
	山本 貞(洋画家・二紀会理事長・日本美術家連盟理事)	
任 期	令和7年1月1日～令和8年12月31日	
開催日	令和7年3月6日	
議 題	令和6年度事業の実施状況について	
	令和7年度事業計画について	
	令和8年度公募団体展・展示室使用割当について	

第1回 東京都美術館外部評価委員会	
委員長	長田 謙一(東京都立大学 客員教授、千葉大学 名誉教授)
副委員長	一條 彰子(国立アートリサーチセンター ラーニンググループリーダー)
委員	五十嵐 卓(帝京平成大学 人文社会学部人間文化学科 メディア文化コース 教授)
	佐藤 一也(上野まちづくり協議会 会長)
	渡辺 晋輔(国立西洋美術館 学芸課長)
任 期	令和3年7月1日～令和6年6月30日
開催日	令和6年5月14日
議 題	令和5年度東京都美術館事業の評価について
	令和6年度東京都美術館事業計画について

第2回 東京都美術館外部評価委員会	
委員長	長田 謙一(東京都立大学 客員教授、千葉大学 名誉教授)
副委員長	一條 彰子(国立アートリサーチセンター ラーニンググループリーダー)
委員	五十嵐 卓(帝京平成大学 人文社会学部人間文化学科 メディア文化コース 教授)
	佐藤 一也(上野まちづくり協議会 会長)
	渡辺 晋輔(国立西洋美術館 学芸課長)
任 期	令和7年7月1日～令和9年6月30日
開催日	令和7年1月30日
議 題	令和5年度指定管理者管理運営状況評価結果について
	令和6年度東京都美術館事業の説明及び実施状況について

職員		(令和7年3月31日現在)
館長	高橋 明也	
副館長〔派〕	貝瀬 由明	
企画調整課		
企画調整課長事務取扱〔派〕	貝瀬 由明(兼務)	
学芸担当課長(学芸)	中原 淳行	

管理係	
管理係長〔派〕	真田 千春
施設担当係長	茂木 大輔
主任	柴田 崇貴
主任	山口 裕輝
主事	進藤 美恵子
一般事務	深澤 真寿美
専門技術員	田中 誠一

交流係	
交流係長(学芸)	下倉 久美
調整担当係長	昌山 誠弘
主任	中田 歩
主事(学芸)	大内 曜
主事(学芸)	瀧 良介
主事(学芸)	柴田 友里子

アート・コミュニケーション係	
アート・コミュニケーション係長(学芸)	熊谷 香寿美
主任(学芸)	河野 佑美
主任	工藤 阿貴
主事	藤岡 勇人
主事(学芸)	峰岸 優香

事業係	
事業係長(学芸)	中原 淳行(兼務)
主任(学芸)	大橋 菜都子
主任(学芸)	小林 明子
主任(学芸)	高城 靖之
主任(学芸)	中江 花葉
主事(学芸)	山田 桂子
広報担当係長	小倉 明紀子
主任	佐川 真由美

※〔派〕は東京都派遣職員

主な業務委託先・事業従事者
建物総合管理／都市建物環境サービス協同組合
レストラン・カフェ／株式会社精養軒
ミュージアムショップ／株式会社美術出版エデュケーションアル
美術情報室・佐藤慶太郎記念 アートラウンジ／社会福祉法人埼玉福祉会
展覧会受付・看視／株式会社フクシ・エンタープライズ
託児サービス／株式会社明日香
※公募団体展、学校教育展を除く

これまでの実績

企画展示事業年次別一覧

公募団体等の使用団体数の推移

年間観覧者数の推移

企画展示事業年次別一覧

＊は自主事業による特別展、企画展、連携展、コレクション展。他は共催による特別展。なお、1994(平成6)年度まで実施されていた収蔵作品展は含まない

年度	展覧会名	開催	入場者数 ()は1日あたりの人数
		日数	
1976	戦前の前衛展＊	50	13,328 (267)
(昭和51)	サロン・ドートンヌ、ポルトガル現代美術展	17	17,375 (1,022)
	ドイツの現代陶芸	20	5,805 (290)
	スペイン名画展	22	29,277 (1,331)
	「白樺」と大正期の美術＊	50	17,146 (343)
昭和52	ミュンヘン近代美術展	28	57,266 (2,045)
	ピカソ展	44	379,770 (8,631)
	鑑光・松本竣介そして戦後美術の出発＊	50	18,223 (364)
	写真と絵画＊	50	13,704 (274)
昭和53	牧野虎雄展＊	50	9,258 (185)
	フランス美術栄光の300年	36	181,052 (5,029)
	近代日本美術の歩み	26	141,214 (5,431)
	麻生三郎展＊	50	17,011 (340)
昭和54	胸井哲郎銅版画展＊	50	14,616 (292)
	現代版画の一断面＊	50	11,322 (226)
	世界の現代版画25年展	38	13,012 (342)
	20世紀のアメリカ美術 描かれたニューヨーク	50	67,557 (1,351)
昭和55	現代美術の動向Ⅰ 1950年代－その暗黒と光芒－＊	50	13,240 (265)
	今日のイギリス美術	38	36,693 (966)
	ブーシェ展	52	142,151 (2,734)
	日本銅版画史展＊	51	8,990 (176)
昭和58	韓国現代美術展	26	5,093 (196)
	現代美術の動向Ⅱ 1960年代－多様化への出発－＊	50	10,105 (202)
	斎藤義重展＊	40	6,906 (173)
	エルミタージュ・プーシキン美術館所蔵作品による 後期印象派から立体派まで	40	21,903 (548)
昭和59	ナム・ジュン・パイク展＊	50	8,435 (169)
	1970年以降の美術－その国際性と独自性－＊		
	井上武吉新作展＊	40	7,274 (182)
	新館開館10周年記念 現代美術の40年＊	50	14,298 (286)
(昭和60)	ヘンリー・ムーア展	48	70,351 (1,466)
	今村紫紅・速水御舟・松岡映丘・鎗木清方 …日本画の前衛たち＊	50	27,657 (553)
	ポロフスキー展	50	75,879 (1,518)
	布のかたち 糸のかたち＊	50	12,091 (242)
昭和63	1920年代・日本展	50	56,492 (1,130)
	ルーヴル美術館所蔵フランスブロンズ名品展	50	20,801 (416)
	日本油彩画の独自性を求めて＊	50	26,782 (536)
	リヨン美術館特別展 栄光のフランス近代美術	48	133,344 (2,778)
平成元	大英博物館秘蔵 江戸美術展	41	145,592 (3,551)
(平成2)	現代の土＊	50	8,840 (177)
平成3	構造と記憶＊	50	9,969 (199)
平成4	サンフランシスコ美術館名品展	57	139,287 (2,444)
	北京・故宮博物院展	41	182,256 (4,445)
	語り出す鉄たち＊	49	10,792 (220)
	トレチャコフ美術館展	50	122,633 (2,453)
	現代絵画の一断面－「日本画」を越えて＊	50	13,150 (263)
平成6	ニューヨークを生きたアーティストたち	51	83,605 (1,639)
1995	法隆寺金堂壁画展	57	151,633 (2,660)
(平成7)	モデルニテ＝パリ・近代の誕生	64	640,537 (10,008)
	オルセー美術館展		
	シルクロード大美術展	68	282,346 (4,152)
	大英博物館 アッシリア大文明展－芸術と帝国－	61	167,249 (2,742)
	砂漠の美術館－永遠なる敦煌－	49	167,522 (3,419)
平成8	毛利元就展－その時代と至宝－	44	144,300 (3,280)
	18世紀フランス絵画のきらめき	75	528,620 (7,048)
	ルーヴル美術館展		
	エイブル・アート'97・東京展 魂の対話	12	8,801 (733)
平成9	京の雅・和歌のころろ 冷泉家の至宝展	38	278,486 (7,329)

年度	展覧会名	開催	入場者数 ()は1日あたりの人数
		日数	
	アンコールワットとクメール美術の1000年展	44	250,334 (5,689)
	英国絵画の殿堂 テート・ギャラリー展	57	410,616 (7,204)
	平成10 古代ヨーロッパの至宝－ケルト美術展	74	183,211 (2,476)
	カルメン・コレクション展	50	117,689 (2,354)
	唐の女帝・則天武后とその時代展	50	156,418 (3,128)
	このアートで元気になる－エイブル・アート'99	31	17,762 (573)
	平成11 ワシントン・ナショナル・ギャラリー展	74	412,794 (5,578)
	大英博物館 古代エジプト展	50	443,474 (8,869)
	西遊記のシルクロード 三蔵法師の道	50	139,563 (2,791)
	モナ・リザ100の微笑 模写から創造へ	50	109,241 (2,185)
	2000 ウィーン美術大学絵画館所蔵	68	166,231 (2,445)
	(平成12) ルーベンスとその時代展		
	世界四大文明 インダス文明展	104	428,263 (4,118)
	唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展	50	413,491 (8,270)
	平成13 アール・ヌーヴォー展	69	317,730 (4,605)
	イームズ・デザイン展	45	86,355 (1,919)
	聖徳太子展	50	196,939 (3,938)
	版画家 池田満寿夫の世界展	50	57,032 (1,140)
	黒田コレクションから		
	平成14 マルク・シャガール展	69	355,219 (5,148)
	－ボンビドーセンター & シャガール家秘蔵作品		
	飛鳥・藤原京展－古代律令国家の創造－	44	99,200 (2,254)
	生涯400年記念 狩野探幽展	44	98,055 (2,228)
	華麗なる宮廷 ヴェルサイユ展	56	419,261 (7,486)
	－太陽王ルイ14世からマリ－・アントワネットまで－		
	平成15 栄光の宮廷文化とロシア正教 ロマノフ王朝展	67	181,055 (2,702)
	トルコ三大文明展	50	276,867 (5,537)
	～ヒッタイト帝国・ビザンツ帝国・オスマン帝国～		
	創立250周年記念 大英博物館の至宝展	50	513,208 (10,264)
	パリ／マルモッタン美術館展	54	280,902 (5,202)
	－モネとモリゾ 日本初公開ルアール・コレクション－		
	平成16 フェルメール[画家のアトリエ]	71	303,491 (4,275)
	栄光のオランダ・フランドル絵画展		
	よみがえる四川文明～三星堆と金沙遺跡の秘宝～	42	43,132 (1,027)
	フィレンツェ－芸術都市の誕生展	50	176,176 (3,524)
	ミュシヤ財団秘蔵 ミュシヤ展 ブラハからパリへ	52	239,401 (4,604)
	華麗なるアール・ヌーヴォーの誕生		
	2005 アール・デコ展～きらめくモダンの夢～	63	120,056 (1,906)
	(平成17) ルーヴル美術館所蔵～古代エジプト展	57	276,727 (4,855)
	プーシキン美術館展	50	378,013 (7,560)
	～シチューキン・モロゾフ・コレクション		
	～日本の美 三千年の輝き～	36	88,572 (2,461)
	ニューヨーク・パーク・コレクション展		
	ブラド美術館展	6	34,973 (5,828)
	～スペインの誇り、巨匠たちの殿堂～		
	平成18 ブラド美術館展	81	466,959 (5,765)
	～スペインの誇り、巨匠たちの殿堂～		
	ベルシャ文明展～煌めく7000年の至宝～	54	126,071 (2,335)
	いま甦る巨匠たち400年の記憶	58	308,016 (5,311)
	大エルミタージュ美術館展		
	オルセー美術館展～19世紀 芸術家たちの楽園～	55	417,341 (7,588)
	平成19 オルセー美術館展～19世紀 芸術家たちの楽園～	7	61,913 (8,845)
	サンクトペテルブルク 国立ロシア美術館展	63	99,034 (1,572)
	ロシア絵画の神髄		
	トプカプ宮殿の至宝展	48	197,874 (4,122)
	オスマン帝国と時代を彩った女性たち		
	フィラデルフィア美術館展	66	318,273 (4,822)
	印象派と20世紀の美術		
	ルーヴル美術館展 フランス宮廷の美	58	307,849 (5,308)
	平成20 ルーヴル美術館展 フランス宮廷の美	6	41,675 (6,946)

年度	展覧会名	開催	入場者数
		日数	()は1日あたりの人数
平成20	芸術都市バリの100年展　ルノワール、セザンヌ、ユトリロの生きた街　1830-1930年	64	100,273　(1,567)
	フェルメール展	118	934,222　(7,917)
	光の天才画家とデルフトの巨匠たち		
	生活と芸術－アーツ&クラフツ展	57	122,582　(2,151)
平成21	ウィリアム・モリスから民芸まで		
	生活と芸術－アーツ&クラフツ展	5	18,113　(3,623)
	ウィリアム・モリスから民芸まで		
	美連協25周年記念　日本の美術館名品展	64	182,199　(2,847)
	トリノ・エジプト展　イタリアが愛した美の遺産	57	355,176　(6,231)
	冷泉家　王朝の和歌守展	50	110,068　(2,201)
2010 (平成22)	ボルゲーゼ美術館展	64	165,469　(2,585)
	ラファエロ《一角獣を抱く貴婦人》		
	ボルゲーゼ美術館展	4	15,890　(3,973)

注)
・2011(平成23)年度は大規模改修工事のため全面休館

年度	展覧会名	開催	入場者数
		日数	()は1日あたりの人数
2012 (平成24)	公募団体ベストセクション 美術 2012 *	22	9,634　(438)
	マウリッツハイス美術館展	71	758,266 (10,679)
	オランダ・フランドル絵画の至宝		
	「Arts & Life：生きるための家」展 *	68	30,461　(448)
	東京都美術館ものがたり *	68	82,360　(1,211)
	都美セクション グループ展公募 第1回 *	73	22,941　(314)
	メトロポリタン美術館展		
	大地、海、空―4000年の美への旅	78	328,770　(4,215)
	TOKYO 書 2013　公募団体の今 *	12	8,330　(694)
	現代の書のあゆみ *	12	6,227　(519)
	エル・グレコ展	62	253,395　(4,087)
	都美セクション 新鋭美術家 2013 *	16	3,046　(190)
2013 (平成25)	エル・グレコ展	6	32,370　(5,395)
	ミラノ アンブロジーナー図書館・絵画館所蔵		
	レオナルド・ダ・ヴィンチ展―天才の肖像	61	261,819　(4,292)
	ベストセクション 美術 2013 *	22	9,737　(443)
	ルーヴル美術館展―地中海 四千年のものがたり―	57	291,531　(5,115)
	福田美蘭展 *	60	21,211　(354)
	ターナー展	63	290,780　(4,616)
	第2回 都美セクション グループ展 *	68	17,834　(262)
	TOKYO 書 2014　公募団体の今 *	12	7,057　(588)
	富士をみつめて *	12	4,219　(352)
	日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』	55	163,615　(2,975)
	都美セクション 新鋭美術家 2014 *	16	7,061　(441)
2014 (平成26)	日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』	1	4,340　(4,340)
	バルテュス展	57	204,014　(3,579)
	公募団体ベストセクション 美術 2014 *	22	16,721　(760)
	メトロポリタン美術館 古代エジプト展　女王と女神	58	195,594　(3,372)
	「楽園としての芸術」展 *	65	24,837　(382)
	ウフィツィ美術館展 黄金のルネサンス ボッティチェリからブロンズイーノまで	58	210,671　(3,632)
	第3回 都美セクション グループ展 *	65	16,203　(249)
	TOKYO 書 2015　公募団体の今 *	12	8,522　(710)
	彩られた紙と現代の書		
	―東京都美術館コレクションを中心に *	18	6,640　(369)
	新印象派―光と色のドラマ	56	148,293　(2,648)
	都美セクション 新鋭美術家 2015 *	24	12,370　(515)
2015 (平成27)	大英博物館展―100のモノが語る世界の歴史	62	300,436　(4,846)
	公募団体ベストセクション 美術 2015 *	23	14,888　(647)
	伝説の洋画家たち 二科100年展	44	52,675　(1,197)

年度	展覧会名	開催	入場者数
		日数	()は1日あたりの人数
	ノルウェーから東京・上野へ！　キュッパのびじゅつかん―みつめて、あつめて、しらべて、ならべて *	69	36,089　(523)
	マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展	76	763,512 (10,046)
	第4回 都美セクション グループ展 *	61	19,040　(312)
	TOKYO 書 2016　公募団体の今 *	13	9,497　(731)
	感じる漢字		
	―西川寧・青山杉雨・手島右卿を中心に *	19	11,923　(628)
	ボッティチェリ展	66	283,649　(4,298)
	都美セクション 新鋭美術家 2016 *	25	9,810　(392)
2016 (平成28)	ボッティチェリ展	3	21,037　(7,012)
	生涯300年記念 若冲展	31	446,242(14,395)
	公募団体ベストセクション 美術 2016 *	23	21,661　(942)
	ボンビドゥー・センター傑作展		
	―ピカソ、マティス、デュシャンからクリストまで―	90	206,462　(2,294)
	開館90周年記念展		
	木々との対話―再生をめぐる5つの風景 *	61	41,949　(688)
	ゴッホとゴーギャン展	62	391,721　(6,318)
	第5回 都美セクション グループ展 *	53	28,417　(536)
	TOKYO 書 2017　公募団体の今 *	12	9,832　(819)
	東京都現代美術館所蔵		
	「新東京百景―90年前の東京」 *	19	10,149　(534)
	ティツィアーノとヴェネツィア派展	61	156,284　(2,562)
	都美セクション 新鋭美術家 2017 *	23	10,129　(440)
2017 (平成29)	ティツィアーノとヴェネツィア派展	2	8,048　(4,024)
	ボイマンズ美術館所蔵 プリュールゲル『バベルの塔』展	67	379,527　(5,665)
	第6回都美セクション グループ展 *	63	25,976　(412)
	ボストン美術館の至宝展	72	313,131　(4,349)
	企画展「杉戸洋　とんぼ と のりしろ」	68	28,938　(426)
	ゴッホ展　巡りゆく日本の夢	66	370,031　(5,607)
	上野アーティストプロジェクト「現代の写実」 *	45	49,355　(1,097)
	コレクション展「近代の写実」 *	45	41,137　(914)
	プリューゲル展　画家一族150年の系譜	59	168,656　(2,859)
2018 (平成30)	プリューゲル展　画家一族150年の系譜	1	4,279　(4,279)
	ブーシキン美術館展―旅するフランス風景画	75	283,485　(3,778)
	都美セクション グループ展 2018 *	22	22,701　(1,032)
	企画展「BENTO おべんとう展―食べる・集う・つながるデザイン」 *	71	66,146　(918)
	没後50年　藤田嗣治展	63	301,638　(4,788)
	ムンク展―共鳴する魂の叫び	75	669,846　(8,931)
	上野アーティストプロジェクト 2018		
	「見る、知る、感じる―現代の書」 *	44	38,272　(870)
	コレクション展「喜怒哀楽の書」 *	32	25,162　(786)
	奇想の系譜展　江戸絵画ミラクルワールド	44	251,657　(5,719)
2019 (平成31)	奇想の系譜展　江戸絵画ミラクルワールド	7	42,881　(6,126)
	クリムト展　ウィーンと日本 1900	73	577,828　(7,915)
	都美セクション グループ展 2019 *	21	37,323　(1,777)
	企画展「伊庭靖子展　まなざしのあわい」 *	71	33,038　(465)
	コートールド美術館展　魅惑の印象派	82	345,940　(4,219)
	上野アーティストプロジェクト 2019		
	「子どもへのまなざし」 *	39	18,768　(481)
	松本力「記しを憶う」		
	―東京都写真美術館コレクションを中心に *	39	17,444　(447)
	ハマスホイとデンマーク絵画	34	72,271　(2,126)
2020 (令和2)	The UKIYO-E 2020 ―日本三大浮世絵コレクション	58	68,068　(1,174)
	都美セクション グループ展 2020 *	20	11,258　(563)
	上野アーティストプロジェクト 2020	43	4,535　(105)
	「読み、味わう現代の書」 *		
	東京都美術館コレクション展「読み、味わう昭和の書」 *	39	4,468　(115)
	没後70年　吉田博展	54	68,845　(1,275)
2021 (令和3)	イサム・ノグチ　発見の道	82	113,312　(1,382)
	都美セクション グループ展 2021 *	20	24,035　(1,202)

年度	展覧会名	開催	入場者数
		日数	()は1日あたりの人数
	企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」 *	73	20,904　(286)
	ゴッホ展―響きあう魂　ヘレーネとフィンセント	78	307,750　(3,946)
	上野アーティストプロジェクト 2021		
	「Everyday Life：わたしは生まれなおしている」 *	35	13,382　(382)
	東京都美術館コレクション展		
	「東京都コレクションでたどる〈上野〉の記録と記憶」 *	35	17,417　(498)
	ドレスデン国立古典絵画館所蔵		
	フェルメールと17世紀オランダ絵画展	44	152,669　(3,470)
2022 (令和4)	ドレスデン国立古典絵画館所蔵		
	フェルメールと17世紀オランダ絵画展	3	12,501　(4,167)
	スコットランド国立美術館		
	THE GREATS　美の巨匠たち	65	124,712　(1,919)
	都美セクション グループ展 2022 *	20	20,869　(1,043)
	ボストン美術館展　芸術×力	66	120,095　(1,820)
	企画展「フィン・ユールとデンマークの椅子」 *	72	65,425　(909)
	展覧会 岡本太郎	62	183,143　(2,954)
	上野アーティストプロジェクト 2022		
	「美をつむぐ源氏物語―めぐり逢ひける　えには深しな―」 *	40	23,336　(583)
	コレクション展「源氏物語と江戸文化」 *	40	25,371　(634)
	レオポルド美術館　エゴン・シーレ展	56	203,232　(3,629)
2023 (令和5)	ウィーンが生んだ若き天才		
	レオポルド美術館　エゴン・シーレ展	8	39,061　(4,883)
	ウィーンが生んだ若き天才		
	マティス展	102	447,900　(4,391)
	都美セクション グループ展 2023 *	22	37,709　(1,714)
	企画展「うえののそから」ははじまり、ははじまり」	70	38,562　(551)
	荒木珠奈展」 *		
	永遠の都ローマ展	74	153,554　(2,075)
	コレクション展		
	「動物園にて―東京都コレクションを中心に」 *	37	24,488　(662)
	上野アーティストプロジェクト 2023		
	いのちをうつす―菌類、植物、動物、人間　 *	37	21,816　(590)
2024 (令和6)	印象派　モネからアメリカへ　ウスター美術館所蔵	58	280,864　(4,842)
	印象派　モネからアメリカへ　ウスター美術館所蔵	6	32,644　(5,441)
	デ・キリコ展	103	234,391　(2,276)
	都美セクション グループ展 2024 *	20	31,382　(1,569)
	大地に耳をすます　気配と手ざわり *	71	33,880　(477)
	田中一村展　奄美の光　魂の絵画	64	288,364　(4,506)
	コレクション展		
	懐かしさの系譜―大正から現代まで　東京都コレ	36	30,184　(838)
	クションより *		
	上野アーティストプロジェクト 2024		
	ノスタルジア―記憶のなかの景色 *	36	26,084　(725)
	ミロ展	26	60,238　(2,317)

注)
・2019(平成31)年度の「ハマスホイとデンマーク絵画」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会期途中で閉幕。2月29日から会期最終日(3月26日)まで臨時休室
・2024(令和6)年度に記載の「ミロ展」(会期：2025年3月1日～7月6日)は、3月31日までを取録

公募団体等の使用団体数の推移

1926(大正15)年度～2010(平成22)年度			
年度	団体数	団体数の内訳	
		継続使用団体	抽選使用団体
大正 15 (1926)	10	10	-
昭和 10 (1935)	56	56	-
昭和 20 (1945)	2	2	-
昭和 25 (1950)	60	60	-
昭和 30 (1955)	80	80	-
昭和 35 (1960)	93	93	-
昭和 40 (1965)	108	108	-
昭和 45 (1970)	109	109	-
昭和 50 (1975)	165	165	-
昭和 51	174	174	-
昭和 52	174	174	-
昭和 53	188	188	-
昭和 54	194	194	-
昭和 55 (1980)	194	194	-
昭和 56	201	201	-
昭和 57	203	203	-
昭和 58	206	206	-
昭和 59	215	215	-
昭和 60 (1985)	217	217	-
昭和 61	229	224	5
昭和 62	229	223	6
昭和 63	230	223(1)	7
平成元	231	222	9
平成 2 (1990)	231	223(1)	8
平成 3	232	222	10
平成 4	232	223(1)	9
平成 5	233	221	12
平成 6	235	222(1)	13
平成 7 (1995)	238	220	18
平成 8	236	220(1)	16
平成 9	237	218	19
平成 10	238	220(1)	18
平成 11	236	218	18
平成 12 (2000)	236	216(1)	20
平成 13	235	214	21
平成 14	237	215(1)	22
平成 15	237	214	23
平成 16	243	215(1)	28
平成 17 (2005)	244	214	30
平成 18	241	210(1)	31
平成 19	254	219(1)	35
平成 20	258	217(1)	41
平成 21	262	217(1)	45
平成 22 (2010)	9	7	2

注)
・継続使用団体の()は、隔年度使用団体で内数
・2011(平成 23)年度は大規模改修工事のため全面休館

2012(平成24)年度～								
年度	団体数	団体数の内訳						
		学校教育	公募団体	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	
2012 (平成 24)	273	14	259	20	85	98	56	
2013 (平成 25)	269	14	255	20	94	114	27	
2014 (平成 26)	270	15	255	21	97	114	23	
2015 (平成 27)	267	14	253	22	97	115	19	
2016 (平成 28)	269	15	254	22	100	114	18	
2017 (平成 29)	264	17	247	26	72	111	38	
2018 (平成 30)	265	17	248	26	72	121	29	
2019 (平成 31)	267	17	250	26	71	125	28	
2020 (令和 2)	265	19	246	27	71	131	17	
2021 (令和 3)	270	19	251	27	70	131	23	
2022 (令和 4)	259	17	242	29	72	108	33	
2023 (令和 5)	257	18	239	30	71	115	23	
2024 (令和 6)	259	20	239	31	72	114	22	

年間観覧者数の推移

＊昭和 49 年度までは公募展のみ開催。昭和 50 年からは企画展も開催されている

1926(大正15)年度～1974(昭和49)年度			
年度	公募展	年間観覧者数	
	展覧	開館	(人)
	会数	日数	
1926 (大正 15)	10	-	473,434
昭和 2	30	-	702,174
昭和 3	29	-	535,333
昭和 4	45	-	729,301
1930 (昭和 5)	35	-	733,154
昭和 6	35	-	571,497
昭和 7	35	-	573,427
昭和 8	36	-	470,918
昭和 9	49	-	414,535
1935 (昭和 10)	56	-	572,362
昭和 11	60	-	389,556
昭和 12	58	-	461,767
昭和 13	59	-	1,252,187
昭和 14	73	-	769,456
1940 (昭和 15)	78	-	735,586
昭和 16	81	-	702,408
昭和 17	82	-	975,938
昭和 18	78	-	898,774
昭和 19	40	-	118,905
1945 (昭和 20)	2	-	79,052
昭和 21	33	-	582,210
昭和 22	66	-	791,417
昭和 23	63	-	492,609
昭和 24	60	-	343,719
1950 (昭和 25)	60	-	403,875
昭和 26	71	-	462,808
昭和 27	70	-	483,825
昭和 28	75	-	543,409
昭和 29	75	-	538,358
1955 (昭和 30)	80	-	572,672
昭和 31	80	-	585,557
昭和 32	80	-	522,265
昭和 33	92	-	594,739
昭和 34	92	-	635,296
1960 (昭和 35)	93	-	585,047
昭和 36	102	-	598,165
昭和 37	107	-	727,627
昭和 38	108	-	675,370
昭和 39	108	-	742,432
1965 (昭和 40)	108	-	916,069
昭和 41	108	-	919,772
昭和 42	107	-	982,515
昭和 43	107	-	1,035,920
昭和 44	107	-	1,089,709
1970 (昭和 45)	109	-	1,169,186
昭和 46	109	-	1,281,860
昭和 47	108	-	1,239,672
昭和 48	109	-	1,320,545
昭和 49	107	-	1,419,540

注)
・1938(昭和 13)年度は、入場無料で開催した全国子供美術展に
768,000 人余りの観覧者があったため多くなっている

1975(昭和50)年度～2010(平成22)年度							
年度	公募展	企画展等				年間観覧者数	
	展覧	開館	観覧者数(人)		観覧者数(人)	合計(人)	
	会数	日数	会数	日数			
1975 (昭和 50)	164	293	1,799,346	3	115	59,673	1,859,019
昭和 51	187	295	1,714,723	7	204	115,227	1,829,950
昭和 52	185	293	1,919,216	6	236	506,176	2,425,392
昭和 53	203	286	1,929,474	5	185	165,405	2,094,879
昭和 54	205	289	2,062,725	4	204	207,389	2,270,114
1980 (昭和 55)	205	284	2,025,237	4	188	59,443	2,084,680
昭和 56	201	289	1,870,176	5	234	148,874	2,019,050
昭和 57	203	290	1,986,760	5	203	190,246	2,177,006
昭和 58	206	288	2,081,905	5	216	69,129	2,151,034
昭和 59	215	291	2,111,644	5	250	213,162	2,324,806
1985 (昭和 60)	217	319	2,065,752	5	240	103,775	2,169,527
昭和 61	229	330	2,059,822	5	253	181,066	2,240,888
昭和 62	229	331	2,104,942	5	250	170,050	2,274,992
昭和 63	230	330	2,108,587	5	250	153,041	2,261,628
平成元	233	329	2,125,668	5	248	233,492	2,359,160
1990 (平成 2)	231	329	2,208,726	5	241	247,743	2,456,469
平成 3	232	330	2,251,755	4	200	92,376	2,344,131
平成 4	232	330	2,181,647	5	245	369,765	2,551,412
平成 5	233	330	2,141,031	5	242	234,246	2,375,277
平成 6	235	330	2,067,026	2	96	111,102	2,178,128
1995 (平成 7)	238	330	2,077,541	2	121	792,170	2,869,711
平成 8	236	329	2,013,048	4	222	761,417	2,774,465
平成 9	237	331	1,978,690	5	226	1,476,857	3,455,547
平成 10	238	330	1,913,340	4	205	475,080	2,388,420
平成 11	236	331	1,867,686	4	224	1,105,072	2,972,758
2000 (平成 12)	236	329	1,856,995	3	222	1,007,985	2,864,980
平成 13	235	330	1,842,067	4	214	658,056	2,500,123
平成 14	237	330	1,868,516	4	213	971,735	2,840,251
平成 15	237	332	1,859,252	4	221	1,252,032	3,111,284
平成 16	243	330	1,764,786	4	215	762,200	2,526,986
2005 (平成 17)	244	330	1,793,242	4(5)	212	898,341	2,691,583
平成 18	241	330	1,813,631	4	248	1,318,387	3,132,018
平成 19	255	334	1,384,833	4(5)	242	984,943	2,369,776
平成 20	258	334	1,433,817	3(4)	245	1,198,752	2,632,569
平成 21	261	334	1,410,013	4(5)	240	831,025	2,241,038
2010 (平成 22)	9	4	26,083	1	4	15,890	42,036

注)
・1975 年 9 月に新館が開館。1975(昭和 50)年度の数字には、4 ～ 8 月の旧館での観覧者数も含まれている
・1975(昭和 50)年度から 1994(平成 6)年度の企画展等の数には、共催展・特別展のほか、1994(平成 6)年度まで実施されていた収蔵作品展の観覧者数も含まれる
・2010(平成 22)年度は大規模工事のため、4 日間のみ開館。2011(平成 23)年度は全面休館した

2012(平成24)年度～											
年度	特別展			企画展等			公募団体展・学校教育展			年間観覧者数 合計(人)	アート・コミュ ニケーション 事業
	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)	展覧会数	開催日数	観覧者数(人)		
2012(平成24)	3	211	1,340,431	17	271	162,999	273	318	1,329,208	2,832,638	15,320
2013(平成25)	5	242	1,040,115	15	190	86,163	269	316	1,274,161	2,400,439	20,790
2014(平成26)	5	230	762,912	16	249	103,809	270	317	1,283,318	2,150,039	32,011
2015(平成27)	4	248	1,400,272	15	255	123,108	267	320	1,371,143	2,894,523	39,042
2016(平成28)	5	249	1,221,746	15	237	138,467	269	318	1,333,136	2,693,349	40,685
2017(平成29)	5	266	1,239,393	9	221	145,406	247	314	1,263,756	2,648,555	36,097
2018(平成30)	5	258	1,510,905	6	169	152,281	265	311	1,295,016	2,958,202	38,749
2019(平成31)	4	196	1,038,920	6	170	106,573	267	295	1,101,318	2,246,811	27,889
2020(令和2)	2	112	136,913	5	102	20,261	87	231	193,817	350,991	15,365
2021(令和3)	3	204	573,731	6	163	75,738	206	279	497,346	1,146,815	21,300
2022(令和4)	5	252	643,683	6	172	135,001	259	314	861,889	1,640,573	21,000
2023(令和5)	4	242	921,379	6	166	122,575	257	315	960,821	2,004,772	28,703
2024(令和6)	4	199	616,349	6	163	121,530	259	312	919,805	1,657,684	26,801

- 注)
- ・企画展等は、企画展、コレクション展、上野アーティストプロジェクト、グループ展を含む
(2012(平成24)年度～2016(平成28)年度の企画展等は、企画展、コレクション展、連携展、同人展を含む)
 - ・企画展等の開催日数は、展覧会ごとの開催日数を計上したのべ日数
 - ・公募団体展、学校教育展の開催日数は、工事整備休室などを除いた会期日数
 - ・2022(令和4)年度の公募団体展・学校教育展の観覧者数は、東京都歴史文化財団連携事業797人を含む
 - ・2023(令和5)年度の公募団体展・学校教育展の観覧者数は、東京都歴史文化財団連携事業2,491人、江戸東京博物館20,374人、アート・コミュニケーション事業6,773人を含む
 - ・2024(令和6)年度の公募団体展・学校教育展の観覧者数は、東京都江戸東京博物館15,071人、アート・コミュニケーション事業6,662人を含む

資料 1

出品リスト

* 特別展、企画展、コレクション展、公募展活性化事業（グループ展除く）の順に記載

特別展

デ・キリコ展

＊作品番号、名称、制作年、技法／素材、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊所蔵先の記載がない作品は、 ジョルジョ・エ・イーザ・デ・キリコ財団（ローマ）所蔵

SECTION 1 自画像・肖像画 1 自画像 1922頃 油彩／カンヴァス トレド美術館(アメリカ) 2 自画像 1929頃 油彩／カンヴァス ヨーゼフ・ダッレ・ノガーレ・コレクシオン 3 闘牛士の衣装をまとった自画像 1941 油彩／カンヴァス カーサ・ロドルフォ・シヴィエーロ美術館(フィレンツェ) 4 鎧をまとった自画像 1948 油彩／カンヴァス 5 自画像のある静物 1950年代半ば 油彩／板 6 17世紀の衣装をまとった公園での自画像 1959 油彩／カンヴァス 7 弟の肖像 1910 油彩／カンヴァス ベルリン国立美術館 8 女性の肖像(エリデの肖像) 1921頃 テンペラ／カンヴァス カーサ・ロドルフォ・シヴィエーロ美術館(フィレンツェ) 9 秋 1935 油彩／カンヴァスに貼られた厚紙 ノヴェチェント美術館(ミラノ) SECTION 2 形而上絵画 形而上絵画以前 10 山上への行列 1910 油彩／カンヴァス プレシア市立美術館 2-1 イタリア広場 11 沈黙の像(アリアドネ) 1913 油彩／カンヴァス ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館(デュッセルドルフ) 12 大きな塔 1915(?) 油彩／カンヴァス 個人蔵 13 バラ色の塔のあるイタリア広場 1934頃 油彩／カンヴァス トレント・エ・ロヴェレート近現代美術館(L.F.コレクションより長期貸与) 14 イタリア広場(詩人の記念碑) 1969 油彩／カンヴァス 15 塔 1974 油彩／カンヴァス 2-2 形而上的室内 16 運命の神殿 1914 油彩／カンヴァス フィラデルフィア美術館 17 福音書的な静物I 1916 油彩／カンヴァス 大阪中之島美術館 18 形而上のコンボジション 1916 油彩／カンヴァス ジャン・エンツォ・スベローネ・コレクション 19＊ サラミのある静物 1919 油彩／カンヴァス トリノ市立近現代美術館 20 哲学者の頭部がある形而上的室内 1926 油彩／カンヴァス ナーマド・コレクション 21 横向きの彫像のある形而上的室内 1962 油彩／カンヴァス 22 「ダヴィデ」の手がある形而上的室内 1968 油彩／カンヴァス 23 球体とビスケットのある形而上的室内 1971 油彩／カンヴァス 24 孤独のハーモニー 1976 油彩／カンヴァス 2-3 マスカン 25 予言者 1914-15 油彩／カンヴァス ニューヨーク近代美術館 26＊ 哲学者と詩人 1916 鉛筆／紙 ローマ国立近現代美術館 27＊ 貞淑な花嫁 1917 鉛筆／紙 ローマ国立近現代美術館 28 形而上的なミューズたち 1918 油彩／カンヴァス カステッロ・ディ・リヴォリ現代美術館(フランチェスコ・フェデリコ・チェッルーティ美術財団より長期貸与)（トリノ） 29 ヘクトルとアンドロマケ 1924 テンペラ、油彩／カンヴァス ローマ国立近現代美術館 30 機械人形 1924-25 油彩／カンヴァス ボレグリ・コレクション 31 南の歌 1930頃 油彩／カンヴァス ウフィツィ美術館群ピッティ宮近代美術館(フィレンツェ) 32 不安を与えるミューズたち 1950頃 油彩／カンヴァス マチュエラータ県銀行財団 パラッツォ・リッチ美術館 33 トロイアの前のヘクトルとアンドロマケ 1968 油彩／カンヴァス 34 ヘクトルとアンドロマケ 1970 油彩／カンヴァス 35 ダンサー 1971 鉛筆、水彩／厚紙 36 詩人と画家 1975 油彩／カンヴァス 37 オレステスとエレクトラ 1975 水彩／厚紙 SECTION 3 1920年代の展開 38 ギリシャの哲学者たち 1925 油彩／カンヴァス ナーマド・コレクション 39 ホワイエのミューズたち 1926 油彩／カンヴァス ナーマド・コレクション
--

40

神秘的な考古学者たち(マスカンあるいは昼と夜)

1926

油彩／カンヴァス

カルロ・ピロッティ美術館（ローマ）

41

考古学者

1926

木炭、パステル／紙

個人蔵

42

考古学者たち

1927頃

油彩／カンヴァス

カルロ・ピロッティ美術館（ローマ）

43

谷間の家具

1927

油彩／カンヴァス

トレント・エ・ロヴェレート近現代美術館(L.F.コレクションより長期貸与)

44

谷間の家具

1928

油彩／カンヴァス

ナーマド・コレクション

45

緑の雨戸のある家

1925-26

油彩／カンヴァス

個人蔵

46

運命の春

1927

油彩／カンヴァス

ナーマド・コレクション

47

室内の家具

1927

油彩／カンヴァス

カルロ・ピロッティ美術館（ローマ）

48

剣闘士

1928

油彩／カンヴァス

ジャン・エンツォ・スベローネ・コレクション

49

剣闘士

1928

油彩／カンヴァス

ノヴェチェント美術館(ミラノ)

SECTION 4

伝統的な絵画への回帰

50

戦闘(剣闘士)

1928-29

油彩／カンヴァス

ノヴェチェント美術館(ミラノ)

SECTION 4

伝統的な絵画への回帰

51

菊の花瓶

1912

油彩／カンヴァス

ウニクレディト・アート・コレクション

52

オルヴィエートの岩壁の形而上的記憶

1922

油彩／カンヴァス

オーヴィディオ・ヤコロッシ・コレクション

53

ローマのヴィッラ(騎士のいる風景)

1923

テンペラ／カンヴァス

個人蔵

54

鎧とスイカ

1924

油彩／カンヴァス

ウニクレディト・アート・コレクション

55

横たわって水浴する女(アルクメネの休息)

1932

油彩／カンヴァス

ローマ国立近現代美術館

56

岩場の風景の中の静物

1942

油彩／カンヴァス

57

風景の中で水浴する女たちと赤い布

1945

油彩／カンヴァス

58

男性の頭部

(ティツィアーノの原画に基づく)

1945

油彩／厚紙

59

眠れる少女

(ヴァトーの原画に基づく)

油彩／カンヴァス

60

騎士

1939-40頃

油彩／カンヴァス

カーサ・ロドルフォ・シヴィエーロ美術館(フィレンツェ)

61

パリスと馬

1952

油彩／カンヴァス

62

アキレウスの馬

1965

油彩／カンヴァス

63

アレクサンドロス大王の上陸

1962

油彩／カンヴァス

SECTION 5

新形而上絵画

64

オデュッセウスの帰還

1968

油彩／カンヴァス

65

オイディプスとスフィンクス

1968

油彩／カンヴァス

66

橋の上での戦闘

1969

油彩／カンヴァス

67

オレステスの悔恨

1969

油彩／カンヴァス

68

城への帰還

1969

油彩／カンヴァス

69

燃えつきた太陽のある形而上的室内

1971

油彩／カンヴァス

70

瞑想する人

1971

油彩／カンヴァス

71

イーゼルの上の太陽

1972

油彩／カンヴァス

72

放蕩息子

1973

油彩／カンヴァス

73

幕と伝説

1973

鉛筆／厚紙に糊付けされた紙

74

オレステスを引き留めるピュラデス

1973

鉛筆、淡色木炭、水彩／厚紙

75

ヴェネツィアのホテルの一室における神秘

1974

油彩／カンヴァス

76

闘技場の剣闘士

1975

油彩／カンヴァス

TOPIC 1 挿絵

〈神秘的な水浴〉

77-86

ジャン・コクトー『神話』のための版画連作〈神秘的な水浴〉

(出版：カトル・シュマン、刷り：エドモン・デジョーベール、パリ、1934年)

1934

リトグラフ／紙

扉

77

神秘的な客

78

白鳥の出現

79

不可解な逃亡

80

孤独な水浴

81

神秘的なケンタウロス

82

神秘の水浴の偶像

83

神秘的な脱衣室の下で

84

不安を与えるブルーで

85

神秘的な会話

86

不可解な集会

87

神秘的な水浴

1936

油彩／カンヴァス

ジャン・エンツォ・スベローネ・コレクション

88

白鳥のいる神秘的な水浴

1958

油彩／カンヴァス

89

神秘的な水浴

1965頃

油彩／カンヴァス

TOPIC 2 彫刻

90

ヘクトルとアンドロマケ

(ヘクトルとアンドロマケの抱擁)

1966

ブロンズに金メッキ

91

後悔するミノタウロス

1969

ブロンズに銀メッキ

92

吟遊詩人

1970

ブロンズに銀メッキ

93

ガニメデと愛馬

1970

ブロンズに銀メッキ

94

ベネロベとテレマコス

1970

ブロンズに銀メッキ

95

アイアス

1970

ブロンズに金メッキ

96

考古学者

1971

ブロンズに金メッキ

97

アリアドネ

1986(没後鑄造)／1912-13(石膏原型)

古色加工を施したブロンズ

TOPIC 3 舞台美術

98

『アムビオン』の衣装スケッチ：下半分が建築になっている女性の衣装

1942

鉛筆、テンペラ／紙

99

『アムビオン』の衣装スケッチ：女性の衣装

1942

鉛筆、テンペラ／紙

100

『ニオベの死』の衣装スケッチ

1962

鉛筆、木炭、テンペラ／紙

101

『ニオベの死』の衣装スケッチ

1963

鉛筆、木炭、テンペラ／紙

102

『オテロ』第2幕、中庭のスケッチ

1964

木炭、水彩、ボールペン／厚紙

103

『オルフェオとエウリディーチェ』の衣装スケッチ：プロセルピナ

1971

木炭、テンペラ／紙

104

『降誕祭のためのラウダ』の衣装スケッチ：聖母

1975

鉛筆、水彩／厚紙

105

『降誕祭のためのラウダ』の衣装スケッチ：羊飼いの(男)

1975

鉛筆、水彩／厚紙

106

『降誕祭のためのラウダ』の衣装スケッチ：羊飼いの(女)

1975

鉛筆、水彩／紙

107

『降誕祭のためのラウダ』の舞台のスケッチ

1975

木炭、水彩／厚紙

108-110

バレエ『ブルチネッラ』の衣装

108

ビショップスリーブと肩章が付いた背中綴じスモック

1931

手彩色されたウール、コットン

109

パフスリーブが付いた背中綴じドレス

1931

手彩色されたウール、コットン

110

男性用の背中綴じつなぎ

1931

手彩色されたウール

特別展

田中一村展　奄美の光　魂の絵画

＊作品番号、作品名、材質技法／形状／頁数、制作時期、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊所蔵先の記載がない作品は、田中一村記念美術館の所蔵

＊特に記した作品以外すべて、作者は田中一村(米邨)。作品名について、作者によると確認されるものについては「」を付した

第1章 若き南画家「田中米邨」東京時代	015 「鉄網珊瑚」（紅梅図） 紙本墨画淡彩／色紙額装／1面 大正15年(1926)元旦 千葉市美術館蔵	029 紅白梅図扇 紙本墨画着色／扇／1柄 昭和5年(1930)1月 個人蔵	041 立雄図 絹本着色／額装／1面 昭和6年(1931)3月 個人蔵	054 「浅間温泉」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931)夏 個人蔵	067 雁来紅 紙本着色／掛軸／1幅 昭和7年(1932) 個人蔵	081 「麦秋図」 紙本着色／团扇／1本 昭和10年代 千葉市美術館蔵	096 白衣観音図 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和20年(1945)頃
001 紅葉にるりかけす／雀 紙本墨画淡彩／短冊／1枚 大正4年(1915) 栃木県立美術館蔵	016 蘇鐵と躑躅 絹本墨画着色／掛軸／1幅 大正15年(1926)4月	030 葉菖蒲とヨモギ 紙本着色／扇面額装／1面 昭和5年(1930)5月 千葉市美術館蔵	042 （田中一村造品資料より）（一村の蔵書） 西澤笛畝『雛百種』上中下 硯箱、硯、印矩他、合切袋、得應軒領 収書、年金証書、印、書簡類 木版多色刷／和綴本／3冊 大正4年(1915)芸艸堂刊 千葉市美術館蔵	055 富貴楼にて(アルプス連峰の雲海) 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931) 個人蔵	068 「水辺にめだかと枯蓮と露の臺」 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和6～7年(1931～32)頃	082 「春林茆屋 仿謝燕村」 紙本着色／团扇／1本 昭和10年代 千葉市美術館蔵	097 蓮上観音図 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和20年(1945)頃 個人蔵
002 柳にかわせみ 紙本墨画淡彩／短冊／1枚 大正4年(1915) 栃木県立美術館蔵	017 「蘭竹争清図」 紙本墨画／掛軸／1幅 大正15年(1926)夏 千葉市美術館蔵	031 南天とろうばい 紙本着色／扇面額装／1面 昭和5年(1930)12月 千葉市美術館蔵	043 山水図 略擬雲林筆意 紙本墨画／色紙額装／1面 昭和5年(1930)春 千葉市美術館蔵	057 鶏頭図 中山豊賛 紙本着色／掛軸／1幅 昭和7年(1932)7月 個人蔵	069 鶏頭図 紙本着色／1面 昭和7年(1932)夏	083 夕日 紙本墨画淡彩／色紙額装／1面 昭和16、17年(1941、42)頃 千葉市美術館蔵	098 蓮上観音像 絹本着色／掛軸／1幅 昭和23、24年(1948、49)頃 株式会社ジャパンヘルスサミット蔵
003 菊図 紙本墨画淡彩／小色紙額装／1面 大正4年(1915) 個人蔵	018 白菜図 紙本墨画／掛軸／1幅 大正15年(1926)5月 個人蔵	032 茶托(田中稲郎/米邨作) 木製／10枚大小5枚2組 大正14年(1925)1月 千葉市美術館蔵	044 浅き春 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和6年(1931)2月 千葉市美術館蔵	058 鶏頭図 紙本朱墨／掛軸／1幅 昭和8年(1933)夏頃 個人蔵	071 田中一村 大樹銀杏図／大塚小一郎 渺々 双兔詩書 紙本墨画金泥・紙本墨書／掛軸／双幅 昭和7～10年(1932～35)頃 個人蔵	084 「黄昏野梅」 絹本墨画淡彩／色紙額装／1面 昭和22年(1947)春頃 千葉市美術館蔵	099 十六羅漢像 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和21年(1946)頃 千葉市美術館蔵
004 白梅図 紙本墨画着色／色紙／1面 大正5年(1916)	019 「仿八大山人筆山水」 絹本着色／掛軸／1幅 大正15年(1926)7月 個人蔵	033 香筒 彫竹／香筒／1個 昭和前期 千葉市美術館蔵	045 桜之図 絹本着色／掛軸／1幅 昭和6年(1931)3月 個人蔵	059 印譜「中山豊・豊山人」諸家篆刻 紙本墨書／便箋／2枚 制作年未詳 個人蔵	072 秋色 絹本着色／1面 1930年代半ば	085 千葉寺の秋 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和23年(1948)頃	100 十六羅漢図(第一尊者 賓度羅跋囉憍闍) 紙本墨画淡彩／まくり(仮巻)／1幅 昭和23年(1948)頃か 個人蔵
005 蟬時雨 紙本淡彩／小色紙／1面 大正6年(1917)夏 個人蔵	020 藤花図 紙本墨画着色／掛軸／1幅 大正15年(1926)9月 個人蔵	034 梅花園盆 木製／木製盆／1枚 昭和8年(1933)12月 千葉市美術館蔵	046 「雁来紅」 絹本着色／掛軸／1幅 昭和6年(1931)頃 個人蔵	060 飛泉図 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和6年(1931)夏 個人蔵	073 彼岸花 紙本墨画淡彩／まくり(仮巻)／1幅 昭和10年代 個人蔵	086 「春林」 紙本墨画淡彩／色紙額装／1面 昭和27年(1952)1月 千葉市美術館蔵	101 十六羅漢図(第二尊者 迦諾迦伐睺) 紙本墨画淡彩／マット装／1面 昭和23年(1948)頃か 個人蔵
006 蛤図 紙本墨画着色／色紙／1面 大正7年(1918)4月	021 『全国美術家名鑑 大正15年度』 書籍／1冊 大正14年(1925)正礼同出版部刊 個人蔵	035 木魚 木製／木魚／1個 昭和32年(1957)2月 千葉市美術館蔵	047 芍薬図 絹本着色／掛軸／1幅 昭和6年(1931)7月 個人蔵	062 「清風高節」 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和8年(1933)春 個人蔵	074 秋色 紙本着色／1面 昭和10年代	087 千葉寺 浅春譜 紙本墨画着色／額装／1面 昭和20年代末	102 十六羅漢図(第十一尊者 囉怛羅) 紙本墨画淡彩／マット装／1面 昭和23年(1948)頃か 個人蔵
007 桔梗に蜻蛉図 絹本着色／色紙／1面 大正8年(1919)夏 個人蔵	022 「田中米邨画伯賛獎会趣旨書」印刷物／1枚 大正15年(1926) 個人蔵	036 木魚 木製／木魚／1個 制作年未詳	048 椿図屏風 絹本金地着色／屏風／2曲1双 昭和6年(1931) 千葉市美術館蔵	063 松図 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和7～10年(1932～35)頃 千葉市美術館蔵	075 山の田 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和21年(1946)頃	088 千葉寺 春 絹本着色／額装／1面 昭和20年代末	103 十六羅漢図(第十六尊者 注荼半託迦) 紙本墨画淡彩／マット装／1面 昭和23年(1948)頃か 個人蔵
008 つゆ草にコオロギ 紙本墨画淡彩／額装／1面 大正10年(1921)夏 千葉市美術館蔵	023 「明月前身図」 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和4年(1929)春 個人蔵	037 根付(蟬の脱殻・瓢箪・木魚他) 桃の種など／根付／1式 制作年未詳	049 鶏頭図 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和6年(1931)10月 千葉市美術館蔵	064 連図 擬八大山人筆意 紙本墨画／まくり(仮巻)／1幅 1930年代 個人蔵	076 田植え 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和20年(1945)頃	089 千葉寺 杉並木 紙本墨画着色／額装／1面 昭和20年代末	104 楼閣山水図 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和10年代
009 「池亭閑蛙」 紙本墨画淡彩／掛軸(仮巻)／1幅 大正11年(1922)7月 個人蔵	024 日廻草 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和2年(1927)8月	038 帶留(木菟) 木製彩色／帶留／1個 昭和前期 個人蔵	050 葛温泉にて(堂舎) 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931)夏 個人蔵	065 雁来紅図 紙本着色／掛軸／1幅 昭和6年(1931)夏 個人蔵	077 千葉寺はさ場 紙本墨画淡彩／額装／1面 昭和20年(1945)頃 千葉市美術館蔵	090 千葉寺 麦秋 絹本墨画着色／額装／1面 昭和20年代末	105 「幽溪掃樵」 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和10年代 個人蔵
010 「松林閑居」 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 大正13年(1924)秋 個人蔵	025 「艶鞠図」 絹本着色／掛軸／1幅 昭和3年(1928)2月	038 帶留(糸瓜) 木製彩色／帶留／1個 昭和前期 個人蔵	051 「信州葛温泉」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931)夏 個人蔵	066 「棕櫚」 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和10年代 個人蔵	078 牛車と農民 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和20年(1945)頃	091 千葉寺 雪 紙本墨画着色／額装／1面 昭和20年代末	106 山水図 撫八大山人 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和20年代
011 武陵桃源図 絹本着色／掛軸／1幅 大正15年(1926)春 栃木市立美術館蔵	026 石榴の花 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和3年(1928)3月 公益財団法人平野美術館蔵	039 帶留(りんどう) 木製(種)彩色／帶留／1個 昭和前期 個人蔵	052 「葛温泉」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931) 個人蔵	067 秋日村路 絹本墨画着色／額装／1面 昭和10年代 個人蔵	079 「棕櫚」 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和10年代 個人蔵	092 野の馬 紙本墨画着色／額装／1面 昭和20年代末 栃木市立美術館蔵	107 山水図 仿石濤 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和20年代
012 白梅図 紙本墨画／掛軸／1幅 大正13年(1924)元旦 栃木市立美術館蔵	027 蘭竹図／「富貴図」衛立 絹本金地墨画／絹本金地着色／衛立(両面)／1基(表裏) 昭和4年(1929)2月／昭和4年(1929)3月 個人蔵	040 帶留(椿) 木製(種)彩色／帶留／1個 昭和10年(1935) 個人蔵	053 「富貴之湯楼上にて」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931) 個人蔵	068 「水辺にめだかと枯蓮と露の臺」 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和6～7年(1931～32)頃	080 四季山水図 仿燕村 絹本墨画着色／掛軸／4幅 昭和20年代	093 あばさけ観音 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和15年(1940) 千葉市美術館蔵	108 四季山水図 仿燕村 絹本墨画着色／掛軸／4幅 昭和20年代
013 藤図 紙本淡彩／掛軸／1幅 大正13年(1924)春 栃木市立美術館蔵	028 花卉図押絵貼屏風(柘榴、枇杷、牡丹、竹石) 紙本着色／屏風／2曲1隻(4図) 昭和4年(1929)9月 足利龍泉寺美術館蔵	041 「富貴之湯楼上にて」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931) 個人蔵	054 「浅間温泉」 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931)夏 個人蔵	069 菜花図 平沼淑郎賛 紙本着色／掛軸／1幅 昭和7年(1932)夏以前 足利龍泉寺美術館蔵	081 十六羅漢像 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和21年(1946)頃 千葉市美術館蔵	094 「親世音菩薩」 紙本着色／掛軸／1幅 昭和15～20年(1940～45)頃 個人蔵	109 山水図 木米翁用筆 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和20年代
014 墨梅図 紙本墨画／掛軸／1幅 大正14年(1925)夏		042 山水図 略擬雲林筆意 紙本墨画／色紙額装／1面 昭和5年(1930)春 千葉市美術館蔵	043 山水図 略擬雲林筆意 紙本墨画／色紙額装／1面 昭和5年(1930)春 千葉市美術館蔵	055 富貴楼にて(アルプス連峰の雲海) 紙本墨画／色紙／1面 昭和6年(1931) 個人蔵	068 「水辺にめだかと枯蓮と露の臺」 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和6～7年(1931～32)頃	082 「春林茆屋 仿謝燕村」 紙本着色／团扇／1本 昭和10年代 千葉市美術館蔵	096 白衣観音図 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和20年(1945)頃

111 蓬萊日月長 紙本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和20年代 足利龍泉寺美術館蔵	127 アルバム3冊(一村撮影写真等貼込) 3冊	142 菊花図 紙本着色／4曲1双(旧襖8面) 昭和23年(1948)頃 個人蔵	156 牡丹菊図帯(一村絵付) 絹地に着彩／名古屋帯／1点 1950年代 個人蔵	170 忍冬に尾長 絹本着色／額装／1面 1950年代(昭和31年頃か) 個人蔵	184 「山村六月」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	199 写真(室戸岬) (一村撮影) 紙焼写真／1枚 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	213 写真(喜界島の鉄砲百合) 紙焼写真／1枚
112 鳥類写生図綴込帖残欠47枚のうち(鳥3羽) 紙、鉛筆／47枚のうち／1枚	128 秋元光氏像(写真共) 紙、鉛筆、彩色／1枚 昭和33年(1958)晩秋 個人蔵	143 草花図天井画 襖板着色／40面 昭和25年(1950)頃	157 白梅に菊図帯(一村絵付) 絹地に墨画着彩／名古屋帯／1点 1950年代 個人蔵	171 竹雀図 絹本着色／掛軸／1幅 昭和30年(1955)頃 個人蔵	185 新緑 北日向 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	200 写真(足摺岬) (一村撮影) 紙焼写真／1枚 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	214 与論島初冬 紙本墨画着色／色紙／1面 昭和33～34年頃(1958～59)頃
113 写生図(高麗鷺) 紙、鉛筆／額装／1面	129 「入日の浮島」 絹本墨画着色／1面 昭和21～22年(1946～47)頃 個人蔵	144 花と軍鶏 紙本着色／襖8面 昭和28年(1953)	158 花草文日傘(一村絵付) 布に墨画着彩／日傘／1帳 昭和22年(1947)頃 個人蔵	172 春の七草図 絹本淡彩／掛軸／1幅 昭和30年(1955)3月 個人蔵	186 「由布嶽朝霧」 紙本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	201 写真(鳴門) (一村撮影) 紙焼写真／1枚 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	215 日暮れて道遠し 紙本墨画淡彩／色紙額装／1面 昭和33～34年頃(1958～59)頃 千葉市美術館蔵
114 写生図(鶴) 紙、鉛筆／額装／1面	130 「四ッ手綱」 絹本着色／掛軸／1幅 昭和22年(1947)頃 栃木県立美術館蔵	145 軍鶏図 紙本墨画着色／額装／1面 昭和28年(1953)頃 個人蔵	159 「朱實紫實」 絹本銀地着色／色紙額装／1面 1950年代 株式会社ジャパンヘルスサミット蔵	173 春の七草図 絹本墨画淡彩／掛軸／1幅 昭和30年(1955) 個人蔵	187 「雲仙雨霽」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	202 山村六月～北日向にて～ 絹本着色／1面 昭和30年(1955) 個人蔵	216 「漁樵對問」 紙本墨画着色／額装／1面 昭和34～35年頃(1959～60)頃
115 写生帖残欠13枚のうち(鳥3羽 羽貼付) 紙、鉛筆、彩色／13枚のうち／1枚	131 「白い花」 紙本砂子地着色／屏風／2曲1隻 昭和22年(1947)9月	146 軍鶏図 紙本墨画着色／掛軸／1幅 昭和20年代 千葉市美術館蔵	160 「花菖蒲」 絹本銀地着色／色紙額装／1面 1950年代 株式会社ジャパンヘルスサミット蔵	174 薬草図天井画 シナベニア地、彩色／49面のうち11枚 昭和30年(1955) やわらぎの郷聖徳太子殿蔵	188 「雨霽」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955) 個人蔵	203 写真(「岩戸村」か) 紙焼写真／1枚 昭和33年(1958)か 千葉市美術館蔵	218 葉書(岡田藤助先生宛) 葉書／1枚 昭和36年(1961)5月31日消印 個人蔵
116 写生図(かけすの羽) 紙、鉛筆／額装／1面	132 「秋晴」 紙本金地着色／屏風／2曲1隻 昭和23年(1948)9月	147 松図(裏面：四季花譜図)襖 紙本墨画／襖4面 昭和35年(1960) 個人蔵	161 「梨花春禽」 絹本銀地着色／色紙額装／1面 1950年代 株式会社ジャパンヘルスサミット蔵	175 連図地袋 杉板、彩色／地袋／2面 昭和30年(1955) やわらぎの郷武徳館蔵	190 「僻村暮色」 紙本墨画淡彩／色紙額装／1面 昭和30年(1955) 個人蔵	204 葉書(岡田藤助先生宛) 葉書／4枚 昭和33年(1958)1月25日、7月2日、8月15日、9月3日 個人蔵	219 『和光』1963年春季号 機関誌／小冊子／1冊 昭和38年(1963)春刊
117 写生図(尾長) 紙、鉛筆／1枚 昭和30年代	133 「梨花」 絹本著色／額装／1面 昭和23年(1948)4月 個人蔵	148 四季花譜図(裏面：松図)襖 紙本着色／襖4面 昭和33年(1958) 個人蔵	162 「草によしきり」 絹本着色／額装／1面 昭和20年代 個人蔵	176 北橋茂男著『暁烏先生と私』 (一村による表紙絵) 書籍／1冊 昭和35年(1960)7月刊 個人蔵	191 「室戸岬」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	205 和光園芳名録 紙本墨画／額装／1面 昭和33年(1958)12月17日 国立療養所奄美和光園蔵	220 釈尊大悟御像 紙本、鉛筆、墨、胡粉／額装／1面 昭和35年(1960)1月5日
118 翡翠図 紙本着色／小色紙／1面 1940年代半ば 個人蔵	134 「黄昏」 紙本着色／額装／1面 昭和23年(1948)頃 株式会社ジャパンヘルスサミット蔵	149 四季花譜図(裏面：白梅図)襖 紙本墨画／襖4面 昭和33年(1958) 個人蔵	163 「柿にかけす」 絹本着色／額装／1面 昭和20年代 個人蔵	177 亀寿老人図 紙本墨画／掛軸／1幅 昭和30年(1955)10月 個人蔵	192 「室戸奇巖」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	207 スケッチブック(2) 紙、鉛筆／スケッチブック／1冊 昭和33年(1958)	221 肖像画(女性) 紙、鉛筆／1枚 昭和35年(1960)
119 粟 紙本着色／色紙額装／1面 昭和10年代 千葉市美術館蔵	135 桜下軍鶏図 絹本着色／掛軸／1幅 昭和20年代半ば 個人蔵	150 白梅図(裏面：四季花譜図)襖 紙本墨画着色／襖4面 昭和33年(1958) 個人蔵	164 「枯木にきつゝき」 絹本着色／額装／1面 昭和20年代 個人蔵	178 徳利と猪口(一村絵付) 陶器／1組 昭和30年(1955)	193 「足摺狂濤」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	208 スケッチブック残欠8枚のうち (闘牛、八月踊り) 紙、鉛筆／8枚のうち／1枚	222 漢那氏肖像 紙、鉛筆／1枚 昭和35年(1960)4月 個人蔵
120 桐葉に尾長 絹本着色／額装／1面 昭和10年代 個人蔵	136 柿に懸果 紙本墨画着色／額装／1面 昭和20年代半ば 個人蔵	151 紅梅図 襖 紙本墨画着色／襖4面 昭和35年(1960) 個人蔵	165 (下絵残欠) 草によしきり 紙、鉛筆、墨、彩色／1枚 昭和20年代	179 草花文角皿(一村絵付) 陶器／5枚 昭和30年(1955) 個人蔵	194 「平潮」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	209 宝島 紙本着色／色紙額装／1面 昭和34年(1959)頃 千葉市美術館蔵	223 漢那氏妻肖像 紙、鉛筆／1枚 昭和35年(1960)4月 個人蔵
121 岡本東洋撮著『花鳥写真図鑑』(一村所用) 書籍6冊 昭和5年(1930)平凡社刊	137 芥子図 絹本着色／掛軸／1幅 昭和20年代半ば 個人蔵	152 おひなさま 絹本着色／色紙額装／1面 昭和18年(1943) 個人蔵	166 (下絵残欠) 枯木にきつつき 紙、鉛筆、墨、彩色／1枚 昭和20年代	180 仁戸名蒼天 紙本着色／額装(原装)／1面 昭和35年(1960)頃か 個人蔵	195 「九里峽」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	210 「麗日」 紙本着色／色紙額装／1面 昭和34年(1959)頃 個人蔵	224 中村氏妻肖像 紙、鉛筆／1枚 昭和48年(1973)初春 個人蔵
122 果ごもり(鶴) 絹本着色／色紙額装／1面 1950年代 千葉市美術館蔵	138 桐花に尾長 絹本着色／掛軸／1幅 昭和20年代	153 「巢立ち」 紙本銀砂子地着色／色紙額装／1面 昭和22年(1947)春 個人蔵	167 秋色虎鶴 絹本着色／掛軸／1幅 1950年代 個人蔵	181 筑波山 紙本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	196 「鬼ヶ城黎明」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	211 「寶島の奇巖」 紙本墨画着色／色紙額装／1面 昭和34年(1959)頃 個人蔵	225 中村氏肖像 紙、鉛筆／1枚 昭和48年(1973)初春 個人蔵
123 帯留(おしどり) 木製彩色／帯留／1個 昭和前期 個人蔵	139 梨花に高麗鷺 絹本着色／掛軸／1幅 昭和20年代	154 流水に楓図 絹本著色／額装／1面 1950年代 個人蔵	168 秋色虎鶴 絹本着色／額装／1面 1950年代 個人蔵	182 「ずしの花」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	197 (色紙たとう) 11枚	212 (喜界島の地図) (一村所用) 印刷物／1枚 昭和28年(1953)	226 窪田氏妻肖像 紙、鉛筆／1枚 昭和48年(1973)初春 個人蔵
124 立葵に蜘蛛 紙本銀地着色／色紙／1面 1940年代半ば 個人蔵	140 千山競秀図 紙本墨画着色／4曲1隻(旧襖4面) 昭和20年代半ば	155 竹に蘭図帯(米邸絵付) 絹地に着彩／名古屋帯／1点 昭和10年代 個人蔵	169 白い花 絹本着色／額装／1面 昭和30年(1955)春 栃木県立美術館蔵	183 「青島の朝」 絹本着色／色紙額装／1面 昭和30年(1955)	198 写真(高千穂峽) (一村撮影) 紙焼写真／1枚 昭和30年(1955) 千葉市美術館蔵	213 窪田氏肖像 紙、鉛筆、彩色／1枚 昭和48年(1973)初春 個人蔵	227 窪田氏肖像 紙、鉛筆、彩色／1枚 昭和48年(1973)初春 個人蔵
125 写真(姉) 紙焼写真／4枚 千葉市美術館蔵	141 乾坤一艸亭図 紙本墨画／4曲1隻(旧襖4面) 昭和20年代半ば						
126 写真(甥の入学式) 紙焼写真／3枚 昭和27年(1952)5月撮影 千葉市美術館蔵							

228	243	259	276	292	297	302	307
倚杖柴門聞寂 仿夏珪	「蘇鐵残照図」	スケッチブック(4)	写生図(島伊勢海老)	奄美の海	枇榔と浜木綿	「不喰芋と蘇鐵」	印(一村所用)
紙本墨画／色紙額装／1面	絹本墨画淡彩金泥／額装／1面	紙、鉛筆、彩色／スケッチブック／1冊	紙、鉛筆彩色／額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	7 類
昭和35年(1960)頃	昭和45年(1970)頃	昭和35年(1960)頃	昭和30年代	昭和50年(1975)	昭和40年代	昭和48年(1973)以前	
大島寺蔵				個人蔵		個人蔵	
229	244	260	277	293	298	303	308
農村風景 仿燕村	岩上の磯鴨	スケッチブック(5)	クロトン	奄美の郷に棲紅蝶	枇榔樹の森に浅葱斑蝶	枇榔樹の森に赤翡翠(未完)	筆、硯(一村所用)
紙本墨画淡彩／色紙額装／1面	絹本着色／掛軸／1幅	紙、鉛筆／スケッチブック／1冊	絹本着色／額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	15 本
昭和35年(1960)頃	昭和34、35年(1959、60)	昭和43年(1968)頃	昭和36年(1961)頃	昭和43年(1968)頃	昭和40年代後半		
大島寺蔵			個人蔵				
230	245	261	278	294	299	304	309
「仿米海嶽雲山図」	海に磯鴨	スケッチブック(6)	ポインセチアとツマベニチョウ	桜躑躅に赤髭	「榕樹に虎みゝづく」	白花と瑠璃懸巢(未完)	葉書(高橋伊悦様宛)
紙本墨画淡彩／色紙額装／1面	絹本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆、彩色／スケッチブック／1冊	絹本着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	葉書／4枚
昭和35年(1960)頃	昭和30年代		昭和51年(1976)頃	昭和40年代	昭和48年(1973)以前		昭和47～50年(1972～75)
大島寺蔵							千葉市美術館蔵
231	246	262	279	295	300	305	310
高倉遠望	赤髭	スケッチブック(9)	クロトンと熱帯魚	草花に蝶と蛾	枇榔樹の森	海老と熱帯魚	書「粗画御禮」
紙本墨画／色紙額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	紙、鉛筆、彩色／スケッチブック／1冊	絹本着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	紙本墨書／色紙貼付／1枚
昭和35年(1960)頃	昭和34年(1959)5月頃		昭和48年(1973)以前	昭和43年(1968)以降	昭和48年(1973)以前	昭和51年(1976)以前	昭和50年(1975)秋
大島寺蔵							個人蔵
232	248	264	280	296	301	306	311
湾とババイヤ	奄美の海に蘇鐵とアダン	スケッチブック残欠7枚のうち(ヒカゲヘゴ新芽)	海の幸	大赤啄木鳥と瑠璃懸巢	「アダンの海辺」	富貴昌図	「田中一村画伯遺作展」
紙本墨画淡彩／色紙額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	紙、鉛筆／7枚のうち／1枚	絹本着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	絹本着色／額装／1面	目録パンフレット／1冊
昭和30年代	昭和36年(1961)1月		昭和51年(1976)以前	昭和40年代	昭和44年(1969)	昭和52年(1977)	昭和54年(1979)
			株式会社ジャパンヘルスサミット蔵		個人蔵	株式会社ジャパンヘルスサミット蔵	個人蔵
							人蔵
233	249	265	281				
アダンの浜辺	初夏の海に赤翡翠	スケッチブック残欠7枚のうち(シダ類)	「孤套」				
紙本墨画着色／色紙額装／1面	絹本墨画着色／額装／1面	紙、鉛筆／7枚のうち／1枚	紙本墨画淡彩／色紙額装／1面				
昭和30年代	昭和37年(1962)頃		昭和40年(1965)12月5日				
			千葉市美術館蔵				
234	250	266	286				
海辺の道	クロトンとカヤツリグサ	スケッチブック残欠7枚のうち(ハナガサの木)	「花と蝶」				
紙本着色／色紙額装／1面	絹本着色／額装／1面	紙、鉛筆／7枚のうち／1枚	紙本着色／色紙額装／1面				
昭和30年代	昭和30年代		昭和40年(1965)12月5日				
235	251	267	283				
高倉のある春景	浜木綿と緋桐	写生図(ハタ)	写生図(姉デスマスク)				
紙本着色／色紙額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆、クレヨン／1枚	紙、鉛筆／額装／1面				
昭和35年(1960)頃	個人蔵		昭和40年(1965)5月				
236	254	268	284				
「高倉の並ぶ春景色」	紙本着色／色紙額装／1面	写生図(スジブタイ、写真貼付)	葉書(岡田藤助先生宛)				
紙本墨画着色／色紙額装／1面	昭和30年(1955)	紙、鉛筆彩色／額装／1面	葉書／1枚				
昭和35年(1960)頃		昭和30年代	昭和40年(1965)6月26日				
			個人蔵				
237	252	269	285				
「観音菩薩像」	「山路の花」	写生図(モンツキハギ、メガネクロハギ)	写生図(虎斑木菟)				
紙本墨画着色／色紙額装／1幅	紙本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆水彩／額装／1面	紙、鉛筆彩色／額装／1面				
昭和43年(1968)12月9日	昭和30年代半ば	昭和50年頃(1975)頃	昭和40年代				
個人蔵	個人蔵						
238	253	270	286				
「山中の雨(鬼へご)」	木登蜥蜴と蝶	写生図(ブチスズキペラ、ブダイペラ)	構想画(6図)				
(「しだのある風景二題」のうち)	紙本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆着色／額装／1面	紙、鉛筆／1枚(八折)				
紙本淡彩／色紙額装／1面	昭和30年代	昭和47年頃(1972)頃	昭和42年(1967)以前				
昭和34年(1959)							
個人蔵							
239	255	272	287				
「林間夕照」	アカショウビン	写生図(ミヤコテンガ、チョウチョウウオあるいはミゾレチョウチョウ)	構想画(草花に蝶と蛾)				
(「しだのある風景二題」のうち)	絹本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆彩色／額装／1面	紙、鉛筆／1枚				
紙本墨画淡彩／色紙額装／1面	昭和36年(1961)頃	昭和50年(1975)頃	昭和42年(1967)頃				
昭和34年(1959)	個人蔵						
個人蔵							
240	256	273	289				
奄美の鬼へゴ	マダラハタとスジブタイ	写生図(マダラハタ、金目鯛ほか)	夕空に浜木綿				
紙本墨画淡彩／色紙額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆ほか／額装／1面(2枚)	紙本着色／色紙額装／1面				
昭和30年代	昭和50年(1975)		昭和50年(1975)頃				
241	257	274	290				
アダンと小舟	シマタレクチペラと山丹花	写生図(五色海老)	海辺の花々				
絹本着色／額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面	紙、鉛筆彩色／額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面				
昭和35年(1960)	昭和50年(1975)	昭和30年代	昭和52年(1977)2月以前				
242	258	275	291				
ババイヤとゴムの木	スケッチブック(3)	写生図(島伊勢海老)	「朝の海」				
絹本墨画淡彩／額装／1面	紙、鉛筆、彩色／スケッチブック／1冊	紙、鉛筆彩色／額装／1面	紙本着色／色紙額装／1面				
昭和35年(1960)	昭和35年(1960)頃	昭和30年代	昭和50年(1975)頃				

企画展

大地に耳をすます　気配と手ざわり

＊作家名、作品番号、作品名、制作年、材質技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊所蔵先の記載がない作品は、すべて作家の所蔵

川村喜一	F8	F17-1	F25
KK1	〈ソマの舟〉夜管	〈ソマの舟〉漆の木―その樹液と	乾燥した藍の顔料
We were here.	2018	2024	
2024	木版　藍・土、紙	木版　漆、紙	F26
インスタレーション			乾燥した土の顔料
ふるさかはるか	F9	F17-2	F27
	〈ソマの舟〉夜管(版木)	〈ソマの舟〉漆の木―その樹液と	漆の版木
	2018	2024	
	版木　サクラ、藍	木版　漆、紙	F28
F1		F17-3	一本の漆の木から採れる樹液
〈トナカイ山のドウオッジ〉ヨイク	F10	〈ソマの舟〉漆の木―藍と土と	F29
2014	〈ソマの舟〉Leaving	2024	漆の木
木版　土・水彩、紙	2020	木版　藍・土、紙	
	木版　藍・土、紙		
F2	F11	F18	F30
〈トナカイ山のドウオッジ〉織り	〈ソマの舟〉笛	〈ソマの舟〉泉と傷(版木)	〈ソマの舟〉泉と傷(版木)
2014	2021	2024	版木　漆の木、漆・藍
木版　土、紙	木版　藍・土、紙	木版　藍・漆、紙	F31
			線を作る器
F3	F12	F19	2024
〈トナカイ山のドウオッジ〉織り(版木)	〈ソマの舟〉斜陽	〈ことづての声〉積層の器	土(泥)、ヒバ
2014	2021	2020	
版木　カヤ、土	木版　藍・土、紙	ドローイング　藍・土、紙	F32
			「ことづての声／ソマの舟」をめぐる制作の記録
F4	F13	F20	2023-24
〈トナカイ山のドウオッジ〉葉隠れ	〈ソマの舟〉漆掻き	〈ことづての声〉ことづての声	映像
2014	2022	2020	
木版　土・水彩、紙	木版　藍・土、紙	ドローイング　藍・土、紙	
F5	F14	F21	ミロコマチコ
〈トナカイ山のドウオッジ〉葉隠れ(版木)	〈ソマの舟〉薪と炭	〈ことづての声〉ヒバと漆	m1
2014	2022	ドローイング　藍・土、紙	光をはさんで見えるもの 2
版木　サクラ、土・水彩	木版　藍・土、紙		2018
			アクリル、木製パネル
F6	F15	F22	m2
〈トナカイ山のドウオッジ〉トナカイの毛皮	〈ソマの舟〉光の話	〈ことづての声〉ことづて	鳥の体の中の山
2014	2023	2022	2018
木版　土・墨・水彩、紙	木版　藍・土・漆、紙	シルクスクリーン　インク、藍染紙	アクリル、木製パネル
F7	F16	F23	m3
〈トナカイ山のドウオッジ〉ポート	〈ソマの舟〉山かけと機梅	藍の種	たくさんのいきものでできている体
2015	2023	F24	2018
木版　土、紙	木版　藍・土、紙	藍の葉から抽出した顔料	アクリル、木製パネル

森の影 2021 アクリル、藍泥染め、木製パネル	2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m36 海を混ぜるⅦ 2023 ミクストメディア、木製パネル	透明水彩、水彩紙 英王立園芸協会 リンドレー・ライブラリー蔵 展示は複製	E11 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル	E12 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル	E13 無題(エゾエンゴサク) 2024 ウレタン塗料、アルミニウム	E14 根室 制作のための資料 2017-24
m5 森の雨粒 2021 アクリル、木製パネル	m21 絵本「みえないりゅう」原画 7 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m37 うみわたり 2023 ミクストメディア、木製パネル	KM14 38°13′ 51″N140°59′ 42″E 2022- 透明水彩・鉛筆、水彩紙				
m6 木の記憶 2021 アクリル、テーチ木染め、木製パネル	m22 絵本「みえないりゅう」原画 8 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m38 島 2024 島：ミクストメディア、木製パネル たゆたういきもの：木、布、粘土、土、ワイヤー	KM15 38°12′ 55″N140°59′ 02″E 2022-23 透明水彩・鉛筆、水彩紙				
m7 竜のしぶき 2022 アクリル、木製パネル	m23 絵本「みえないりゅう」原画 9 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード		KM16 38°13′ 09″N140°59′ 03″E 2023- 透明水彩・鉛筆、水彩紙				
m9 満月のこども 2020 アクリル・メディウム・ビニール、泥染め木綿・木製パネル	m24 絵本「みえないりゅう」原画 10 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM1 35°36′ 38.1″N139°27′ 38.0″E 2010-15 透明水彩、水彩紙	KM17 「tsunami plants」のための習作 2015- 水性ペン、手漉き紙				
m10 夜を通るいきもの 1 2020 アクリル、泥染め木綿・木製パネル	m25 絵本「みえないりゅう」原画 11 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM2 Certain place in Gunma 2012 透明水彩、水彩紙	榎本裕一 E1 沼と木立 2022-24 油彩・シルクスクリーン、カンヴァス				
m11 月の光 2021 アクリル、木製パネル	m26 絵本「みえないりゅう」原画 12 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM3 40°12′ 15″N141°47′ 55″E 2013-14 透明水彩・アクリル・鉛筆、水彩紙	E2 氷上の雪 2024 油彩・シルクスクリーン、カンヴァス				
m12 夜の光 2021 アクリル・紙・ビニールコラージュ、木製パネル	m27 絵本「みえないりゅう」原画 13 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM4 Certain place in Iwate 2018-21 透明水彩、水彩紙 シャーリー・シャーウッド・コレクション蔵 展示は複製	E3 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m13 かきねうみ 4 2023 アクリル、木製パネル	m28 絵本「みえないりゅう」原画 14 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM5 39°42′ 03.0″N141°58′ 15.1″E 2015 透明水彩、水彩紙	E4 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m14 絵本「みえないりゅう」表紙 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m29 絵本「みえないりゅう」原画 15 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM6 39°42′ 03″N141°58′ 15″E 2015-21 透明水彩、水彩紙	E5 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m15 絵本「みえないりゅう」原画 1 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m30 絵本「みえないりゅう」原画 16 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM7 37°33′ 22″N141°01′ 31″E 2016-20 透明水彩、水彩紙	E6 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m16 絵本「みえないりゅう」原画 2 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m31 絵本「みえないりゅう」原画 17 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	KM8 Certain place in Fukushima 2018-20 透明水彩、水彩紙	E7 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m17 絵本「みえないりゅう」原画 3 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m32-1 光のざわめき 2022 アクリル・紙コラージュ、木製パネル	KM9 37°32′ 55″N141°01′ 32″E 2019-20 透明水彩、水彩紙	E8 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m18 絵本「みえないりゅう」原画 4 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m32-2 うみまとう 2022 映像	KM10 37°46′ 20″N140°59′ 19″E 2020-24 透明水彩・鉛筆、水彩紙	E9 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m19 絵本「みえないりゅう」原画 5 2023 アクリル・色鉛筆、イラストボード	m33 海を混ぜる 2020 アクリル・ビニール・綿・鉛筆、木製パネル	KM11 37°47′ 50″N140°58′ 59″E 2021 透明水彩・鉛筆、水彩紙	E10 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				
m20 絵本「みえないりゅう」原画 6	m34 海を混ぜるⅤ 2022 ミクストメディア、木製パネル	KM12 37°47′ 29″N140°58′ 54″E 2021 透明水彩・鉛筆、水彩紙	E11 結水 2024 ウレタン塗料・インクジェットプリント、アルミパネル				

コレクション展

懐かしさの系譜——大正から現代まで 東京都コレクションより

*作品番号、作家名、タイトル、制昨年、材質技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

出品作品の一部は前期、または後期のみの展示(作品番号の右上に「」は前期、「**」は後期)

第1章 大正と昭和前期の情景から	10 中原實 ノスタルジア 1924-25 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	19 山本貞 アメリカ記念日 1974 印刷、紙 国立映画アーカイブ	29 『イージーライダー』ポスター 1969 印刷、紙 国立映画アーカイブ
01** 川瀬巴水 東京十二題 こま形河岸 1919 木版、紙 東京都江戸東京博物館	11 松本竣介 鉄橋近く F 1943 墨、鉛筆、ハトロン紙 東京都現代美術館	20 鳴岡 団地 S 1974 アクリル、カンヴァス／写真パネル 東京都現代美術館	30 『M★A★S★H/ マッシュ』ポスター 1970 印刷、紙 国立映画アーカイブ
02** 川瀬巴水 しほ原あら湯の秋 1919 木版、紙 東京都江戸東京博物館	12 久保守 戦後の風景 1947 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	21 『アパートの鍵貸します』ポスター 1960 印刷、紙 国立映画アーカイブ	31 『ゴッドファーザー』ポスター 1972 印刷、紙 国立映画アーカイブ
03* 川瀬巴水 東京十二題 雪に暮るる寺島村 1920 木版、紙 東京都江戸東京博物館	13 牛島憲之 橋の風景 1954 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	22 『ウェストサイド物語』ポスター 1961 印刷、紙 国立映画アーカイブ	32 『アメリカン・グラフィティ』ポスター 1973 印刷、紙 国立映画アーカイブ
04* 川瀬巴水 日本風景選集八 別府の朝 1922 木版、紙 東京都江戸東京博物館	14 土門拳 近藤勇と鞍馬天狗(江東のこども) 1953-54 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	23 『史上最大の作戦』ポスター 1962 印刷、紙 国立映画アーカイブ	33 高梨豊 (「東京人」) 1964-65 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
05** 川瀬巴水 日本風景選集廿九 京都鴨川の夕暮 1923 木版、紙 東京都江戸東京博物館	15 土門拳 おしくらまんじゅう(江東のこども) ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	24 『マイ・フェア・レディ』ポスター 1964 印刷、紙 国立映画アーカイブ	34 高梨豊 新宿区 歌舞伎町(「東京人1978-1983」) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
06** 川瀬巴水 旅みやげ第三集 福岡西公園 試刷 1928 木版、紙 東京都江戸東京博物館	16 土門拳 紙芝居(江東のこども) 1953-54 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	25 『サウンド・オブ・ミュージック』ポスター 1965 印刷、紙 国立映画アーカイブ	35 高梨豊 新宿区 揚巻町(「東京人1978-1983」) 1982 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
07* 川瀬巴水 東京二十景 不忍池の雨 1929 木版、紙 東京都江戸東京博物館	17 平賀敬 H氏の優雅な生活 1969 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	26 『ミクロの決死圏』ポスター 1966 印刷、紙 国立映画アーカイブ	36 高梨豊 『ノスタルジア 高梨豊写真集』(平凡社) 2004 書籍 東京都美術館
08 牧野虎雄 庭の少女〈中庭〉 1921 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	18 松田政男 『風景の死滅』(田畑書店) 1971 書籍 国立映画アーカイブ	27 『俺たちに明日はない』ポスター 1967 印刷、紙 国立映画アーカイブ	37 ホンマタカシ 幕張ベイタウン、千葉(「東京郊外」) 1995 発色現像方式印画 東京都写真美術館

コレクション展

懐かしさの系譜——大正から現代まで 東京都コレクションより

＊作品番号、作家名、タイトル、制昨年、材質技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊出品作品の一部は前期、または後期のみの展示(作品番号の右上に「*」は前期、「*＊」は後期)

第1章 大正と昭和前期の情景から	10 中原實 ノスタルジア 1924-25 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	19 山本貞 アメリカ記念日 1974 印刷、紙 国立映画アーカイブ	29 『イージーライダー』ポスター 1969 印刷、紙 国立映画アーカイブ
01** 川瀬巴水 東京十二題 　こま形河岸 1919 木版、紙 東京都江戸東京博物館	11 松本竣介 鉄橋近く F 1943 墨、鉛筆、ハトロン紙 東京都現代美術館	20 鳴剛 団地 S 1974 アクリル、カンヴァス／写真パネル 東京都現代美術館	30 『M★A★S★H/マッシュ』ポスター 1970 印刷、紙 国立映画アーカイブ
02** 川瀬巴水 しほ原あら湯の秋 1919 木版、紙 東京都江戸東京博物館	12 久保守 戦後の風景 1947 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	21 『アパートの鍵貸します』ポスター 1960 印刷、紙 国立映画アーカイブ	31 『ゴッドファーザー』ポスター 1972 印刷、紙 国立映画アーカイブ
03* 川瀬巴水 東京十二題 　雪に暮るる寺島村 1920 木版、紙 東京都江戸東京博物館	13 牛島憲之 橋の風景 1954 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	22 『ウェストサイド物語』ポスター 1961 印刷、紙 国立映画アーカイブ	32 『アメリカン・グラフィティ』ポスター 1973 印刷、紙 国立映画アーカイブ
04* 川瀬巴水 日本風景選集Ⅷ 　別府の朝 1922 木版、紙 東京都江戸東京博物館	14 土門拳 近藤勇と鞍馬天狗(江東のこども) 1953-54 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	23 『史上最大の作戦』ポスター 1962 印刷、紙 国立映画アーカイブ	第3章 現代への郷愁
05** 川瀬巴水 日本風景選集ⅢⅨ 　京都鴨川の夕暮 1923 木版、紙 東京都江戸東京博物館	15 土門拳 おしくらまんじゅう(江東のこども) ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	24 『マイ・フェア・レディ』ポスター 1964 印刷、紙 国立映画アーカイブ	33 高梨豊 (「東京人」) 1964-65 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
06** 川瀬巴水 旅みやげ第三集 　福岡西公園 　試刷 1928 木版、紙 東京都江戸東京博物館	16 土門拳 紙芝居(江東のこども) 1953-54 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	25 『サウンド・オブ・ミュージック』ポスター 1965 印刷、紙 国立映画アーカイブ	34 高梨豊 新宿区 歌舞伎町(「東京人1978-1983」) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
07* 川瀬巴水 東京二十景 　不忍池の雨 1929 木版、紙 東京都江戸東京博物館	17 土門拳 紙芝居(江東のこども) 1953-54 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館	26 『ミクロの決死圏』ポスター 1966 印刷、紙 国立映画アーカイブ	35 高梨豊 新宿区 揚場町(「東京人1978-1983」) 1982 ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 東京都写真美術館
第2章 1960～1970年代の日本へ	17 平賀敬 H氏の優雅な生活 1969 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	27 『俺たちに明日はない』ポスター 1967 印刷、紙 国立映画アーカイブ	36 高梨豊 『ノスタルジア 高梨豊写真集』(平凡社) 2004 書籍 東京都美術館
08 牧野虎雄 庭の少女(中庭) 1921 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	18 松田政男 多々羅義雄 母堂 1922 油彩、カンヴァス 東京都現代美術館	28 『2001年宇宙の旅』ポスター 1968 印刷、紙 国立映画アーカイブ	37 ホンマタカシ 幕張ベイタウン、千葉(「東京郊外」) 1995 発色現像方式印画 東京都写真美術館

38 ホンマタカシ 新浦安、千葉(「東京郊外」) 1998 発色現像方式印画 東京都写真美術館	40 清野賀子 隅田川、東京 (Emotional Imprintings) 1996 発色現像方式印画 東京都写真美術館	42 清野賀子 ブロック塀、千葉 (The Sign of Life) 2001 発色現像方式印画 東京都写真美術館
39 ホンマタカシ 湘南国際村、神奈川(「東京郊外」) 1998 発色現像方式印画 東京都写真美術館	41 清野賀子 空き地、東京 (The Sign of Life) 2001 発色現像方式印画 東京都写真美術館	

公募展活性化事業

上野アーティストプロジェクト2024 ノスタルジア——記憶のなかの景色

＊作家名、作品番号、タイトル、制作年、材質技法、所蔵先の順に記載。同展覧会の作品リストに準じる

＊所蔵先の記載がない作品は、すべて作家の所蔵

第1章 街と風景	南澤愛美	第2章 子ども	
阿部達也		芝康弘	
01 Waterside(福島県いわき市折戸岸浦) 2012 油彩、カンヴァス	11 偽の前触れ 2021 リトグラフ、インク、紙	21 彼方 2005 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	29 双子座 1999 紙本彩色 文化庁(平塚市美術館寄託)
02 青森県夏泊半島 久慈の浜より夏泊崎を臨む 2013 油彩、カンヴァス	12 うらうら 2021 リトグラフ、インク、紙	22 慈光 2011 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	30 晩夏 2003 紙本彩色 個人蔵(茨城県近代美術館寄託)
03 Water Gate(東京都調布市染地) 2015 油彩、カンヴァス	13 薄曇りの頃 2022 リトグラフ、インク、紙	23 六月の詩 2011 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	31 語り手と聞き手 2010 紙本彩色
04 Twilight (千葉県館山市那古 127号バイパス) 2016 油彩、カンヴァス	14 波残り 2022 リトグラフ、インク、紙	24 この背中に 2013 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	32 聞き手と話し手 2011 紙本彩色
05 手賀沼 東端(千葉県柏市) 2016 油彩、カンヴァス	15 麓にて 2022 リトグラフ、インク、紙	25 誓いの森 2015 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	33 Beyond the Glass 2018 紙本彩色
06 Cloudy(千葉県立館山総合高等学校 水産校舎裏 汐入川河口) 2017 油彩、カンヴァス	16 くもり時々風 2022 リトグラフ、インク、紙	26 いつもの此の道 2017 紙本彩色 東京オペラシティ アートギャラリー	34 秋の推移 2022 紙本彩色
07 釘ヶ浦(静岡県牧之原市) 2019 油彩、カンヴァス	17 さざなみに集う 2023 リトグラフ、インク、紙	27 陽だまりの中で 2022 紙本彩色 作家蔵	第3章 道
08 多摩川(東京都昭島市) 2021 油彩、カンヴァス	18 波打つ床、スポットライト 2024 リトグラフ、インク、紙	入江一子	35 洗濯(韓国) 1940 油彩、カンヴァス 韭崎大村美術館
09 蓮田(茨城県かすみがうら市) 2021 油彩、カンヴァス	19 ひと廻り 2024 リトグラフ、インク、紙	36 シルクロードを行く(カプールのバザール) 1974 油彩、カンヴァス 入江一子シルクロード記念館	
10 2月 多摩川(東京都昭島市) 2024 油彩、カンヴァス	20 よき夜行 2024 リトグラフ、インク、紙	37 イスタンブールの朝焼け 1975 油彩、カンヴァス 入江一子シルクロード記念館	

38
トルファン祭りの日
1981
油彩、カンヴァス
入江一子シルクロード記念館

39
杏誕生
1992
油彩、カンヴァス
入江一子シルクロード記念館

40
緑蔭(雲南少数民族)
1999
油彩、カンヴァス
入江一子シルクロード記念館

玉虫良次

41
epoch
2019-23
油彩、カンヴァス

42
屋上
2022
油彩、テンペラ、パネル

43
水路の街
2023
油彩、テンペラ、パネル

近藤オリガ

44
孤独の天使
2009
油彩、カンヴァス

45
ひまわり
2012
油彩、カンヴァス

46
ザクロの樹と父の肖像
2014
油彩、カンヴァス

47
友
2018
油彩、カンヴァス

48
月下のレモン
2022
油彩、カンヴァス

49
一日の始まり
2023
油彩、カンヴァス

久野和洋

50
地の風景・刻刻
2004-05
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

51
地の風景・雨あがる
2005
油彩、カンヴァス
平塚市美術館

52
林檎と柚子
2008
油彩、カンヴァス
個人蔵

53
坂の道
2008
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

54
地の風景
2015-16
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

55
地の風景・坂の道
2017
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

56
地の風景
2018-19
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

57
窓辺に
不詳
油彩、カンヴァス
株式会社名古屋画廊

資料 2

東京都美術館条例

東京都美術館条例施行規則

東京都美術館運営要綱

東京都美術館利用料金要綱

東京都美術館ユニークベニュー事業実施要綱

東京都美術館映画等撮影取扱要綱

フロアマップ

施設概要

利用案内

東京都美術館条例

昭和39年3月31日

条例第117号

東京都美術館条例を公布する。

○東京都美術館条例

(設置)
第1条　都民のための美術の振興を図るため、東京都美術館(以下「館」という。)を東京都台東区上野公園8番36号に設置する。 (昭42条例8・昭49条例134・昭53条例65・一部改正)
(事業)
第2条　館は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 - 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)の収集、保管、展示及び利用に関すること。 - 美術に関する調査及び研究に関すること。 - 美術に関する図書の収集、保管及び利用に関すること。 - 美術に関する講演会、講習会等の主催及び援助に関すること。 - 館の使用に関すること。 - 前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業 (昭49条例134・一部改正)

(使用の承認)
第3条　文化の振興に資する展覧会、講演会、講習会、研究会及び美術の創作等のために、館の施設及び附帯設備(以下「施設等」という。)を使用しようとする者は、東京都規則(以下「規則」という。)に定めるところにより申請し、知事の承認を受けなければならない。 2　知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の使用の承認をしないことができる。 - 館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。 - 館の管理上支障があると認められるとき。 - 申請に係る施設等を知事が必要と認める事業に使用するとき。 - 前3号に掲げるもののほか、知事が不相当と認めるとき。 (平14条例51・全改)

(利用料金等)
第4条　前条第一項の承認を受けた者(以下「使用者」という。)は、指定管理者(第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下この条から第6条までにおいて同じ。)に、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を前納しなければならない。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、後納することができる。 - 利用料金の額は、別表に定める額の範囲内において、あらかじめ知事の承認を得て、指定管理者が定めるものとする。 - 利用料金は、指定管理者の収入とする。 - 指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ知事の承認を得て、利用に係る予納金(以下「利用予納金」という。)を収受することができる。 - 利用予納金は、利用料金に充当するものとする。 (平14条例51・全改、平16条例41・平17条例29・一部改正)

(利用料金の減額又は免除)
第5条　指定管理者は、規則で定めるときその他指定管理者が特別の理由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。 (平14条例51・全改、平17条例29・一部改正)

(利用料金の不還付)
第6条　指定管理者は、既納の利用料金又は利用予納金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、正当な理由があるときその他特に必要があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。 (平14条例51・追加、平17条例29・一部改正)

(使用権の譲渡禁止)
第7条　使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。 (平14条例51・旧第6条繰下・一部改正)

(施設等の変更禁止)
第8条　使用者は、施設等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ知事の承認を受けたときは、この限りでない。 (平14条例51・旧第7条繰下・一部改正)

(使用の取消し等)
第9条　次の各号のいずれかに該当するときは、知事は使用の承認を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することができる。 - 使用の目的に違反したとき。 - この条例又は知事の指示に違反したとき。 - 善良の風俗を害するおそれがあると認めたとき。 - 災害その他の事故により館の使用ができなくなったとき。 - 工事その他の都合により、知事が特に必要と認めたとき。 (平14条例51・一部改正)

(原状回復の義務)
第10条　使用者は、使用を終了したときは、使用した施設等を原状に回復しなければならない。前条の規定により使用の承認を取り消され、又は使用を停止されたときも、同様とする。 (平14条例51・一部改正)

(賠償)
第11条　館に損害を与えた者は、その損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、やむを得ない理由があると認めたときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。 (昭49条例134・全改、平14条例51・一部改正)

(入館の制限及び退館)
第12条　次の各号のいずれかに該当するときは、知事は、入館を禁じ、又は退館をさせることができる。 - 他人に迷惑をかけ、又は展示品若しくは施設設備等を損壊するおそれがあると認めたとき。 - 前号のほか、管理上支障があると認めたとき。 (昭49条例134・追加、平14条例51・一部改正)

(指定管理者による管理)
第13条　知事は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に、館の管理運営に関する業務のうち、次に掲げるものを行わせることができる。 - 第2条各号に掲げる事業に関する業務 - 館の施設、設備及び物品の維持管理に関する業務 - 前2号に掲げるもののほか、知事が特に必要と認める業務 2　知事は、次に掲げる業務を指定管理者に行わせることができる。 - 第3条第1項の規定により、施設等の使用の承認をすること又は同条第2項の規定により、同項第1号若しくは第2号に該当するとき、施設等を必要と認める事業に使用するとき、その他使用を不相当と認めるときに、使用の承認をしないこと。 - 第8条ただし書の規定により、施設等に特別の設備をし、又は変更を加えることについて承認をすること。 - 第9条の規定により、同条第1号若しくは第4号に該当するとき、同条第3号に該当すると認めたとき、使用者がこの条例若しくは指定管理者の指示に違反したとき、又は工事その他の都合により特に必要と認めたときに、使用の承認を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止すること。 - 第12条の規定により、同条各号に該当すると認めて、入館を禁じ、又は退館をさせること。

(指定管理者の指定)
第14条　指定管理者としての指定を受けようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請しなければならない。 2　知事は、前項の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により最も適切に館の管理運営を行うことができると認める者を指定管理者に指定するものとする。
前項第1号の業務を指定管理者が行う場合において、申請に係る施設等を知事が必要と認める事業に使用するときは、指定管理者は、使用の承認をしないことができる。 (平17条例29・全改)

(指定管理者の指定)
第14条　指定管理者としての指定を受けようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請しなければならない。 2　知事は、前項の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により最も適切に館の管理運営を行うことができると認める者を指定管理者に指定するものとする。

- 前条第1項各号に掲げる業務について相当の知識及び経験を有する者を当該業務に従事させることができること。 - 安定的な経営基盤を有していること。 - 館の効用を最大限に発揮するとともに、効率的な管理運営ができること。 - 利用者のサービス向上を図ることができること。 - 関係法令及び条例の規定を遵守し、適正な管理運営ができること。 - 前各号に掲げるもののほか、規則で定める基準	知事は、前項の規定による指定をするときは、効率的な管理運営を考慮し、指定の期間を定めるものとする。 (平17条例29・追加)
--	---

(知事の調査及び指示)
第15条　知事は、館の管理運営の適正を期するため、指定管理者に対して、当該管理運営の業務又は経理の状況に関し定期的に、若しくは必要に応じて臨時に報告を求め、実地について調査し、又は必要な指示をすることができる。 (平17条例29・追加)

(指定管理者の指定の取消し等)
第16条　知事は、指定管理者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第2項の規定による指定を取り消し、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。 - 管理運営の業務又は経理の状況に関する知事の指示に従わないとき。 - 第14条第2項各号に掲げる基準を満たさなくなったと認めるとき。 - 第18条第1項各号に掲げる管理運営の基準を遵守しないとき。 - 前3号に掲げるもののほか、当該指定管理者による管理運営を継続することが適当でないと認めるとき。 2　前項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部(利用料金の収受を含む場合に限る。)の停止を命じた場合等で、知事が臨時に館の管理運営を行うときに限り、新たに指定管理者を指定し、又は当該停止の期間が終了するまでの間、知事は、別表に定める額の範囲内において、知事が定める使用料を徴収する。 3　前項の場合にあつては、第4条第1項、第4項及び第5項、第5条並びに第6条の規定を準用する。この場合において、第4条第1項中「指定管理者(第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下この条から第6条までにおいて同じ。)」とあるのは「知事」と、「その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)」とあるのは「使用料」と、「指定管理者が」とあるのは「知事が」と、同条第4項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「あらかじめ知事の承認を得て、利用に係る予納金(以下「利用予納金」という。)」とあるのは「予納金」と、「収受する」とあるのは「徴収する」と、同条第5項中「利用予納金は、利用料金」とあるのは「予納金は、使用料」と、第5条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、第6条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金又は利用予納金」とあるのは「使用料又は予納金」と読み替えるものとする。 (平17条例29・追加)

(指定管理者の公表)
第17条　知事は、指定管理者を指定し、若しくは指定を取り消したとき、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、遅滞なくその旨を告示するものとする。 (平17条例29・追加)

(管理運営の基準等)
第18条　指定管理者は、次に掲げる基準により、館の管理運営に関する業務を行わなければならない。 - 関係法令及び条例の規定を遵守し、適正な管理運営を行うこと。 - 都民の平等な利用を確保すること。 - 利用者に対して適切なサービスの提供を行うこと。 - 館の施設、設備及び物品の維持管理を適切に行うこと。 - 業務に関連して取得した利用者の個人に関する情報を適切に取り扱うこと。 - 前各号に掲げるもののほか、別途知事が定める管理運営に関する基準を満たすこと。

(指定管理者の公表)
第17条　知事は、指定管理者を指定し、若しくは指定を取り消したとき、又は期間を定めて管理運営の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、遅滞なくその旨を告示するものとする。 (平17条例29・追加)
(管理運営の基準等)
第18条　指定管理者は、次に掲げる基準により、館の管理運営に関する業務を行わなければならない。 - 関係法令及び条例の規定を遵守し、適正な管理運営を行うこと。 - 都民の平等な利用を確保すること。 - 利用者に対して適切なサービスの提供を行うこと。 - 館の施設、設備及び物品の維持管理を適切に行うこと。 - 業務に関連して取得した利用者の個人に関する情報を適切に取り扱うこと。 - 前各号に掲げるもののほか、別途知事が定める管理運営に関する基準を満たすこと。 2　知事は、次に掲げる事項について、指定管理者と協定を締結するものとする。 - 前項各号に掲げる基準に関し必要な事項 - 業務の実施に関する事項

- 事業の実績報告に関する事項 - 前3号に掲げるもののほか、館の管理運営に関し必要な事項 (平17条例29・追加)
--

(委任)
第19条　この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。 (昭49条例134・旧第13条繰下、平8条例33・旧第16条繰下、平14条例51・旧第17条繰上・一部改正、平17条例29・旧第14条繰下)

附則
- この条例は、昭和39年4月1日から施行する。 - 東京都美術館使用条例(昭和21年10月東京都規則第42号)は、廃止する。 - この条例施行の際、現に使用の承認を受けている者については、この条例による承認を受けたものとみなす。 - 従前の東京都美術館は、この条例による東京都美術館となり、同一性をもつて存続するものとする。

附則(昭和42年条例第8号)
この条例は、公布の日から施行する。

附則(昭和49年条例第134号)
- この条例は、昭和50年4月1日から施行する。 - この条例による改正前の東京都美術館条例第1条に定める位置に所在する東京都美術館は、この条例による改正後の東京都美術館条例の規定にかかわらず、従前の例により、昭和50年9月10日まで利用に供するものとする。

附則(昭和53年条例第65号)
この条例は、公布の日から施行する。

附則(昭和53年条例第104号)
- この条例は、昭和54年2月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(昭和57年条例第32号)
- この条例は、昭和57年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(昭和60年条例第26号)
- この条例は、昭和60年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成元年条例第51号)
- この条例は、平成元年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成4年条例第56号)
- この条例は、平成4年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成8年条例第33号)
- この条例は、平成8年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既に使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成10年条例第125号)
- この条例は、平成11年4月1日から施行する。 - この条例の施行の際、この条例による改正前の東京都美術館条例の規定により、既

東京都美術館条例施行規則

に施設の使用の承認を受けている者の使用料については、なお従前の例による。

附則(平成14年条例第51号)
この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成16年条例第41号)
この条例は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年条例第29号)
1　この条例は、公布の日から施行する。
2　この条例による改正前の東京都美術館条例第4条、第5条及び第13条の規定は、平成18年9月1日(同日前にこの条例による改正後の東京都美術館条例第14条第2項の規定により指定管理者の指定をした場合にあっては、当該指定の日)までの間は、なおその効力を有する。
3　この条例の施行の日から前項に規定する日までの間、この条例による改正後の東京都美術館条例第6条の規定中「指定管理者」とあるのは「東京都美術館条例の一部を改正する条例(平成17年東京都条例第29号)附則第2項の規定により、なお効力を有することとされる同条例による改正前の東京都美術館条例第13条第1項の規定により委託を受けた管理受託者」とする。

附則(平成22年条例第33号)
この条例は、平成22年4月5日から施行する。

別表(第4条、第16条関係)
(平14条例51・追加、平16条例41・旧別表第1・一部改正、平17条例29・一部改正、平22条例33・一部改正)

区分		単位	金額
施設	公募展示室	全階全室1日	912,000円
		1室1日	76,000円
	企画展示室	1日	196,880円
		全室1日	118,450円
	ギャラリー	1室1日	41,220円
		全室1日	270,000円
	搬入出審査室	1室1日	67,500円
		全室1日	11,700円
	搬入出倉庫	1室1日	3,900円
		全室1日	49,990円
	展覧会事務室	1室1日	4,900円
		全室1日	40,500円
	作品収納室	1室1日	4,500円
		1日	35,200円
	講堂	全室1日	35,240円
		1室1日	15,260円
	ロビー、エントランスホール その他の施設(規則で定める施設又は部分を除く。)	1㎡1日	100円
		1台、1組、一式又は1KW1日	6,400円

平成14年3月29日
規則第109号
東京都美術館条例施行規則を公布する。
東京都美術館条例施行規則

○東京都美術館条例施行規則

(休館日)
第1条　館の休館日は、次のとおりとする。
1　毎月第1及び第3月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その翌日)
2　1月1日から同月3日まで
3　12月29日から同月31日まで
2　館の図書室は、前項各号に掲げるもののほか、整理期間(1年のうち15日以内)を休館日とする。
3　知事は、特に必要があると認めるときは、前2項に定める休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。
4　第1項の規定にかかわらず、指定管理者(東京都美術館条例(昭和39年東京都条例第117号。以下「条例」という。))第13条第1項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、利用者の利便の向上を図るため必要があり、かつ、前項の規定により知事が行う休館日の変更を待ついとまがないと認めるときは、第1項に定める休館日に館を臨時に開館することができる。
5　指定管理者は、前項の規定により館を臨時に開館したときは、速やかに知事に報告しなければならない。
(平16規則67・平17規則36・一部改正、平22規則39・一部改正)

(開館時間)
第2条　館の開館時間は、次のとおりとする。
1　金曜日以外は、午前9時30分から午後5時30分までとする。ただし、図書室は、午前10時から午後5時までとする。
2　金曜日は、午前9時30分から午後8時までとする。ただし、公募展示室、ギャラリー、搬入出審査室、搬入出倉庫、展覧会事務室、作品収納室、講堂及びスタジオは午前9時30分から午後5時30分までとし、図書室は午前10時から午後5時までとする。
2　知事は、特に必要があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
3　第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、利用者の利便の向上を図るため必要があり、かつ、前項の規定により知事が行う開館時間の変更を待ついとまがないと認めるときは、第1項に定める館の開館時間を臨時に延長することができる。
4　指定管理者は、前項の規定により館の開館時間を臨時に延長したときは、速やかに知事に報告しなければならない。
(平16規則67・平17規則36・一部改正、平22規則39・一部改正)

(使用の申請等)
第3条　条例第3条第1項の規定により施設等を使用しようとする者は、使用申請書を別表に定める期間内に知事に提出し、その承認を受けなければならない。
2　条例別表第1に規定する規則で定める施設又は部分とは、次に掲げるものをいう。
1　事務室
2　館長室
3　収蔵庫
4　機械室
5　電気室
6　前各号に掲げるもののほか、使用させることにより館の管理運営に支障が生じると知事が認めるもの
(平17規則36・一部改正)

(使用の承認)
第4条　前条第1項の規定により使用の承認をしたときは、知事は、使用承認書を交付するものとする。
2　前項に規定する使用承認書は、施設等を使用するときこれを係員に提示しなければならない。

(利用料金の承認の申請)
第5条　指定管理者は、条例第4条第2項に規定する利用料金の額を定めるときは、利用料金承認申請書(別記第1号様式)を知事に提出し、その承認を受けなければならない。
2　指定管理者は、前項の承認を受けたときは、当該承認に係る利用料金の額を周知しなければならない。
(平17規則36・一部改正)

(利用予納金)
第6条　指定管理者は、条例第4条第4項の規定により利用予納金を取受しようとするときは、利用予納金承認申請書(別記第2号様式)を知事に提出し、その承認を受けなければならない。
(平17規則36・一部改正)

(利用料金の減免)
第7条　条例第5条に規定する規則で定める利用料金を減額することができる場合及びその減額の割合又は免除することができる場合は、次に定めるとおりとする。
1　若手芸術家として知事が別に定める芸術家の創造活動又は伝統文化活動を支援する事業で知事が指定する事業を実施するために施設等を使用するとき。　免除
2　都内の小学校、中学校及び高等学校並びにこれらに準ずるものが、児童又は生徒のための事業を実施するために施設を使用するとき。　5割
3　官公署が施設を使用するとき。　2割5分
(平16規則67・一部改正)

(指定管理者の申請)
第8条　条例第14条第1項の規定による申請は、指定管理者指定申請書(別記第3号様式)に次に掲げる書類を添付して行うものとする。
1　事業計画書
2　文化施設又はこれに類する施設の管理運営に関する業務実績を記載した書類
3　定款、寄附行為、規約又はこれらに類するもの
4　法人の登記事項証明書(法人の場合に限る。)
5　貸借対照表及び損益計算書又はこれらに類するもの
6　団体の組織、沿革その他事業の概要を記載した書類
7　前各号に掲げるもののほか、知事が必要と認める書類
(平17規則36・全改)

(指定管理者の指定の基準)
第9条　条例第14条第2項第6号の規則で定める基準は、次に掲げるものとする。
1　都の文化施策及び文化施設運営の方針にのっとり、都と密接に連携して管理運営を行うことができること。
2　文化施設又はこれに類する施設における良好な管理運営の実績を有すること。
3　文化施設の管理運営に係る技術及び能力の指導育成体制が整備されていること。
4　前3号に掲げるもののほか、館の適正な管理運営を行うために知事が定める基準
(平17規則36・追加)

(指定管理者に関する読替え)
第10条　条例第13条の規定により指定管理者が館の管理運営に関する業務を行う場合についての第3条第1項及び第4条第1項の規定の適用については、これらの規定中「知事」とあるのは「指定管理者」とする。
(平17規則36・追加)

(臨時の館の管理運営に関する準用)
第11条　第7条の規定は、条例第16条第2項の規定により知事が使用料を徴取する場合について準用する。この場合において、第7条中「利用料金」とあるのは「使用料」と読み替えるものとする。
(平17規則36・追加)

(委任)
第12条　この規則の施行について必要な事項は、東京都生活文化局長が定める。
(平17規則36・旧第9条繰下、平19規則147・一部改正、平22規則163・一部改正)

附則
この規則は、平成14年4月1日から施行する。
附則(平成16年規則第67号)
この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年規則第36号)
1　この規則は、公布の日から施行する。
2　この規則による改正前の東京都美術館条例施行規則第1条第4項及び第5項、第2条第3項及び第4項、第3条第1項、第5条、第6条、第8条並びに別記第1号様式及び第2号様式の規定は、平成18年9月1日(同日前に東京都美術館条例の一部を改正する条例(平成17年東京都条例第29号)による改正後の東京都美術館条例(昭和39年東京都条例第117号)第14条第2項の規定により指定管理者の指定をした場合にあっては、当該指定の日)までの間は、なおその効力を有する。

附則(平成19年規則第147号)
この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成22年規則第39号)
この規則は、平成22年4月5日から施行する。

附則(平成22年規則第263号)
この規則は、平成22年7月16日から施行する。

別表(第3条関係)
(平22規則39・一部改正)

区分	提出期間
企画展示室	使用月の属する年度の前々年度の6月1日から使用日の前日まで
公募展示室	使用月の属する年度の前々年度の4月1日から使用日の前日まで
ギャラリー	
搬入出審査室	公募展示室又はギャラリーを使用する月の6月前の月の
搬入出倉庫	初日から使用日の前日まで
展覧会事務室	
作品収納室	
講堂	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
スタジオ	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って講堂を使用する場合に限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)
ロビー	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
エントランスホール	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って使用する場合に
その他の施設	限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)
附帯設備	使用月の3月前の月の初日から使用日の前日まで
	(公募展示室又はギャラリーの使用に伴って使用する場合に限り、使用月の6月前の月の初日から使用日の前日まで)

<別記様式　省略>

東京都美術館利用料金要綱

平成14年4月1日
理事長決定

(趣旨)
第1 この要綱は、東京都美術館(以下「館」という。))の利用に係る料金(以下「利用料金」という。))の額、後納、減額、免除及び還付の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)
第2 この要綱に規定する利用料金は、東京都美術館条例第4条別表に規定する館の施設及び附帯設備の利用料金をいう。

(料金の額)
第3 利用料金は、別表「東京都美術館利用料金表」のとおりとする。

(後納の事由)
第4 利用料金を後納できる場合は、次の場合をいう。
(1)官公署等が、その会計制度上前渡金で処理できないとき。
(2)その他、正当な理由により館長が特に必要と認めるとき。

(減免の事由)
第5 利用料金については、次の事由に該当する場合に減免することができる。
(1)若手芸術家として知事が別に定める芸術家の創造活動又は伝統文化活動を支援する事業で知事が指定する事業を実施するために施設等を使用するとき。
免除
(2)都内の小学校、中学校及び高等学校並びにこれらに準ずるものが、児童又は生徒のための事業を実施するために施設を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。
50%減額
(3)官公署が施設を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。
25%減額
(4)公益財団法人東京都歴史文化財団が主催又は共催する事業に施設を使用する場合で、館の振興のために特に必要があると認められるとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。
50%減額
(5)展示室又はギャラリー使用期間中、展示に関する事業のため、講堂を使用するとき。ただし、附帯設備については減額の対象としない。
25%減額
(6)上記のほか、次の事由に該当し、館長が特に必要と認めるとき。
①後援、協賛等の名義の使用を承認するなど館の振興に寄与することが明確であるとき。
減額
②その他、実施事業が館の運営方針と合致し、特段の配慮が必要であると認めるとき。
減額又は免除

(還付の事由)
第6 利用料金を還付できる場合は以下の場合をいう。
(1)条例第9条第3号から第5号の規定により、使用の承認を取り消されたとき。
(2)その他、正当な理由により館長が特に必要と認めるとき。

(申請)
第7 利用料金の後納、減免、還付の取扱いを受けようとする者から以下に定める申請書を徴する。
(1)第4の規定により施設等使用料の後納を申請する者
施設利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の1)
附帯設備利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の2)
(2)第5の規定により施設等使用料の減額及び免除を受けようとする者
施設利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の1)
附帯設備利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の2)
(3)第6の規定により施設等使用料の還付を受けようとする者
施設利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の1)
附帯設備利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の2)

(4)申請者は、(3)の場合を除き、原則として施設の使用申請書の提出のときに(1)と(2)に定める申請書を提出するものとする。

(承認)
第8 利用料金の後納、減免、還付を承認したときは、館長は以下に定める承認書を交付するものとする。
(1)第4の規定により施設等使用料の後納を承認したとき。
施設利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の1)
附帯設備利用料後納申請書兼承認書(別記第1号様式の2)
(2)第5の規定により施設等使用料の減額及び免除を承認したとき。
施設利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の1)
附帯設備利用料減免申請書兼承認書(別記第2号様式の2)
(3)第6の規定により施設等使用料の還付を承認したとき。
施設利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の1)
附帯設備利用料還付申請書兼承認書(別記第3号様式の2)

附則
この要綱は、平成14年4月1日から施行する。
附則
この要綱は、平成17年4月1日から施行する。
附則
この要綱は、平成18年4月1日から施行する。
附則
この要綱は、平成21年4月1日から施行する。
附則
この要綱は、平成22年4月1日から施行する。ただし、改正後の第5(5)及び別表の規定は、同年4月4日までは、なお従前の例による。
附則
この要綱は、平成29年4月1日から施行する。
附則
この要綱は、令和2年1月1日から施行する。ただし、改正前の東京都美術館利用料金要綱の別記様式による用紙(令和元年12月31日以前に提出されたものに限る。))については、承認書の交付に当たり、なお使用することができる。
附則
この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

別記
第1号様式の1(第4関係)施設利用料後納申請書兼承認書
第1号様式の2(第4関係)附帯設備利用料後納申請書兼承認書
第2号様式の1(第5関係)施設利用料減免申請書兼承認書
第2号様式の2(第5関係)附帯設備利用料減免申請書兼承認書
第3号様式の1(第6関係)施設利用料還付申請書兼承認書
第3号様式の2(第6関係)附帯設備利用料還付申請書兼承認書

<別記様式 省略>

東京都美術館利用料金表

展示室等			
区分	単位		金額
展示室	公募展示室		
	全展示室	全室1日	684,000円
	地階第一展示室	各室1室1日	57,000円
	地階第二展示室		
	地階第三展示室		
	地階第四展示室		
	一階第一展示室		
	一階第二展示室		
	一階第三展示室		
	一階第四展示室		
	二階第一展示室		
	二階第二展示室		
	二階第三展示室		
	二階第四展示室		
ギャラリー	企画展示室	全室1日	147,700円
	全ギャラリー	全室1日	64,000円
	ギャラリーA	各室1室1日	22,300円
	ギャラリーB		16,300円
	ギャラリーC		25,400円
搬入出作業室	全作業室	全室1日	90,700円
	第一作業室A	各室1室1日	10,000円
	第一作業室B		8,300円
	第二作業室A		14,300円
	第二作業室B		8,300円
	第三作業室A		12,300円
	第三作業室B		8,300円
	第四作業室A		12,300円
作品審査室	第四作業室B		16,900円
	全審査室	全室1日	49,700円
	第一審査室	各室1室1日	7,100円
	第二審査室A		
	第二審査室B		
	第三審査室A		
	第三審査室B		
	第四審査室A		
搬入出倉庫	第四審査室B		
	全倉庫	全室1日	7,300円
	第一倉庫	各室1室1日	2,900円
	第二倉庫		1,500円
作品収納室	第三倉庫		2,900円
	全収納室	全室1日	30,600円
	地階収納室A	各室1室1日	3,400円
	地階収納室C		
	一階収納室A		
	一階収納室C		
	二階収納室A		
	二階収納室C		
	地階収納室B1	各室1室1日	1,700円
	地階収納室B2		
	一階収納室B1		
	一階収納室B2		
	二階収納室B1		
	二階収納室B2		

展示室等			
区分	単位		金額
展覧会事務室	全事務室		
	全室1日		28,800円
	第一事務室	各室1室1日	2,400円
	第二事務室		
	第三事務室		
	第四事務室		
	第五事務室		
	第六事務室		
	第七事務室		
	第八事務室		
	第九事務室		
	第十事務室		
ギャラリー事務室	第十一事務室		
	第十二事務室		
	全事務室	全室1日	6,200円
	ギャラリーA	各室1室1日	2,000円
	ギャラリーB		2,600円
	ギャラリーC		1,600円

講堂・スタジオ等			
区分	単位		金額
講堂	1室	全日	24,300円
		午前	12,200円
		午後	12,200円
スタジオ	スタジオ1	各室1室	全日
			7,200円
			午前
			3,600円
	スタジオ2		午後
			3,600円
		全日	6,900円
		午前	3,500円
	スタジオ3	午後	3,500円
		全日	2,500円
		午前	1,300円
		午後	1,300円
	ロビー・エントランス	1㎡	75円

付帯設備			
区分	単位		(新)金額
展示設備	陳列ケース		
	各設備1台1日		800円
	審査台		
映写機	フォークリフト	1台1時間	1,600円
	プロジェクター	1台	全日
			1,600円
音響設備	マイクセット		午前
			800円
			午後
持ち込み機材使用電気料	1KW／h		800円
			40円

東京都美術館ユニークベニユース事業実施要綱

平成29年4月1日
館長決定

(目的)

第1 歴史的建造物や美術館、博物館等の文化施設等において、ユニークベニユ事業の推進を図るため、東京都美術館(以下、「当館」という。))におけるユニークベニユ事業の実施について、必要な事項を定めるものとする。

第2 この要綱における「ユニークベニユー事業」とは、民間企業等が当館施設の一部を利用して、企業系会議、報奨・研修旅行、国際会議、展示会、イベント(いわゆるMICE)等を実施し、参加者に特別感を演出することにより、当館の知名度向上、来館者の増加又は東京及び地域の魅力発信につながる事業をいう。特に、都民のための美術の振興を図る事業であることが望ましい。

ただし、当館の主催又は共催による事業は除く。

(実施の前提)

第3「東京都美術館条例」第一条の設置目的を達成するための業務を優先し、館の運営に支障を来さない範囲で対応する。

2 展示室内での飲食は禁止とする。飲食は当館が指定した場所のみで行う。

3 展覧会会期中は、展覧会場及び展示品に変更を加えない。

(実施場所)

第4 実施場所は、以下のとおりとする。

(1) エスプラナード

(2) 中庭

(3) エントランスロビー

(4) 展示室(観覧可能な展示室は企画展等を開催している展示室のみ、特別展及び公募展等を開催している展示室は除く)

(5) アートラウンジ	面積 391㎡
(6) 講堂	面積 284㎡
(7) スタジオ	面積 146㎡
(8) 1階レストラン	面積 249㎡
(9) 2階レストラン	面積 481㎡
(10) カフェ	面積 103㎡

(実施時間)

第5 原則として、年末年始を除く休館日の午前9時から午後9時、及び閉館日の午後2時30分から午後9時(特別展開催中の金曜日及び館運営に係るメンテナンスに要する時間を除く)の間に実施するものとする。ただし、館長が館の運営業務に支障が無いと認められると判断したときは、この限りでない。

(料金)

第6 料金は、別添「東京都美術館ユニークベニュー事業料金表」による。

2 料金は、前納とする。

(料金の不還付)

第7 館長は、既納の料金は還付しないものとする。ただし、館長は、正当な理由があるときその他特に必要があると認めるときには、その全部又は一部を還付することができる。

(料金の減免)

第8 館長は、特別の理由があると認めるときは、第6 に定めた料金を減額し、又は免除することができる。

(申込・承認手続き)

第9 事業の実施に当たっては、実施者から事前に企画書を提出させ、ヒアリングを行うこと。

2 申込は、「東京都美術館ユニークバニユー事業実施申請書」【様式1】によるものとし、原則として当該事業実施日の3箇月前までに、当館に提出するものとする。

3 実施を許可する場合は、「東京都美術館ユニークバニユー事業実施承認書」【様式2】を当館から実施者に発行する。

(不承認)

第10 次の事項のいずれかに該当するときは承認しないことができる。

- (1) 東京都暴力団排除条例(平成23年3月18日東京都条例第54号)に定める暴力団関係者による申込又は利用が認められたとき。
- (2) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行う恐れがある組織の利益になると認められるとき。
- (3) 公序良俗に反すると認められるとき。
- (4) 施設、設備、樹木及び展示品等を損傷する恐れがあると認められるとき。
- (5) 「東京都美術館条例」第一条の設置目的に反すると認められるとき。
- (6) 実施する事業が特定の政党・宗教を支持し、又はこれに反対する等、政治・宗教活動をするものと認められるとき。
- (7) 実施する事業が専ら物品販売や興行など、営利を主目的としたものであるとき。
- (8) 当館又は関連施設の管理・運営上支障があると認められるとき又は利用者に不都合が生じる恐れがあると認められるとき。
- (9) ユニークベニュー事業の趣旨に沿わないと認められるとき。
- (10) その他、施設管理・運営者としての責任を全うするために当館が不適当と認めるとき。

(実施の条件)

第11 実施に当たっては、善良なる管理者の注意義務を持って行うことに加え、以下の条件を付すものとする。

- (1)当館職員の指示に従うこと。
- (2)展覧会の観覧を含む場合は、写真撮影可否等の一般ルールに従うこと。
- (3)施設内に造作及び什物の設置等をする場合は、事前に図面等を提出し、あらかじめ当館の許可を得ておくこと。
- (4)危険又は不潔な物品、動物等を持ち込まないこと。
- (5)火気を使用しないこと。
- (6)運営に必要な車両の駐車はあらかじめ指定した場所とし、事前に申請すること。
- (7)及び飲食は、所定の場所以外は禁止とする。
- (8)音、怒声を発し、暴力を用いる等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (9)施設、設備、樹木及び展示品等を破損したときは損害を賠償すること。
- (10)ゴミ等は持ち帰ること。
- (11)事業終了後は、原状復旧を行い、当館職員の確認を受けること。
- (12)実施の時間及び人数等により、安全を確保する要員を配置すること。
- (13)火災及び大地震等の緊急事態発生時は、当館の管理者の指示に従うこと。

(防災管理上の注意事項)

第12 実施に当たっては、以下の防災管理上の注意事項を遵守すること。

- (1)消火栓及び消火器等の前に機材を置かないこと。
- (2)天井等に設置してある、熱感知器・スプリンクラー等の下に、高熱を発する照明機材等を置かないこと。
- (3)消防設備の作動障害となる物品設置を行わないこと。
- (4)常に、避難路を確保することとし、通路等を機材でふさがないこと。
- (5)万が一、火災や事故などが発生した場合は、直ちに防災センターに連絡をとり、防災活動や救護活動に協力すること。
- (6)実施者の責めによる火災や事故等により、施設や備品の破損又は人的な損傷等被害が発生した場合は、全て賠償責任を負うこと。

(実施の中止)

第13 館長は、実施者が第11及び第12に定めた事項を遵守しない場合又は実施内容が申請と異なる場合には、中止を命じ、以後もその者に対して実施を禁じることができる。

(その他)

第14 この要綱に定めない事項は別途定める。

附則この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

＜別記様式 省略＞
＜別表 省略＞

東京都美術館映画等撮影取扱要綱

平成15年12月1日
館長決定

東京におけるロケーション活動の円滑化を図り、東京のPRに資する映画、テレビドラマ等の撮影を通じ東京の文化の発信力を高めるという、東京ロケーションボックスの設立趣旨に対応するため、東京都美術館における映画等撮影については、以下により取り扱う。

(目的)

第1 この要綱は、東京都美術館における撮影が、適正かつ円滑に行われることを目的とし、必要な事項を定めるものとする。

(撮影承認等)

第2 撮影の承認は、東京都美術館のPRに資する映画、テレビドラマ及びこれに類するロケーション活動で申請があったもののうち、東京都美術館館長(以下「館長」という。)が適当と認めたものに対して行うものとする。

(撮影の制限等)

第3 次の事項に該当する場合、館長は撮影を制限し、または許可しないものとする。

(1)公の秩序または善良の風俗を害するおそれがあると認められるとき

(2)集团的または常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき

(3)東京都美術館の業務に支障を来すおそれがあると認められるとき

(4)東京都美術館の資料・展示品、関連施設に悪影響が生ずると認められるとき

(5)撮影申請者及びその関係者が、本要綱または東京都美術館職員の指示に反するおそれがあると認められるとき

(6)その他撮影を許可することが適当でないとき

第4 撮影を行おうとする者(以下「撮影申請者」という。)は、「東京都東京都美術館撮影申請書」(別記第1号様式)と撮影に係る企画書または台本等関係書類を、原則として撮影予定日の4週間前までに提出し、館長の許可を得なければならない。

2 前項の許可をする場合は、「東京都美術館撮影承認書」(別記第2号様式)により行う。

(撮影の条件)

第5 撮影の許可に当たって、次の条件を付すものとする。

- (1)使用料が必要な場所及び観覧料が必要な施設を撮影する場合は、別途使用料・観覧料を支払うこと
- (2)撮影に当たっては、定められた人数、時間の範囲内で行うとともに、館長及び担当職員 の指示に従うこと
- (3)撮影場所については、撮影による破損等を防ぐため、事前に養生するとともに、撮影後は原状回復を行うこと。また、万一破損等が発生した場合、担当職員の指示により、撮影申請者の責任で修理を行うこと
- (4)撮影に要する電源は、バッテリー等の機材を撮影申請者側で用意すること
- (5)閉館時に撮影を行う場合は、来館者の迷惑にならないよう注意すること
- (6)閉館時に展示室内で撮影を行う際に照明を使用する場合は、原則として紫外線・赤外線吸収装置を使用のうえ、展示品等に悪影響を及ぼさないようにすること
- (7)撮影に当たっては、定められた場所以外で喫煙・飲食を行わないこと
- (8)撮影に当たり、所有権・著作権等法令上の問題が生じた場合は、すべて撮影申請者が責任を負うこと

(10) 撮影に伴う成果物は東京都美術館に寄贈すること
(11) 緊急事態発生時及びその他撮影に関する事項については、館長及び担当職員の指示に従うこと

(撮影場所)

第6 撮影は、東京都美術館が認めた場所で行う。

(撮影料)

第7 別表「東京都美術館撮影等料金表」とおりとする。

2 撮影申請者は、撮影開始14日前までに規定の撮影料金を納付しなければならない。

3 2により納付された撮影料金は、撮影申請者の都合により使用を取りやめる場合は

返還する。

第8の規定により撮影承認が取り消された場合または撮影を中止する場合は返還しない。

4 振込に係る手数料は、撮影申請者が負担する。

(撮影の中止)

第8 館長は、撮影申請者が、第3に定められた制限事項及び第5に定められた条件に違反していると判断した場合は、撮影承認の取消または撮影の中止を命じることができる。

第9 館長は、撮影申請者が東京都美術館の施設等を損傷した場合は、これを修理し、またはその賠償をさせることができる。

第10 本要綱に定めのない事項は別途定める。

附則
この要綱は、平成15年12月1日より施行する。

附則
この要綱は、平成18年8月12日より施行する。

附則
この要綱は、平成19年6月1日より施行する。

撮影種別	撮影場所	撮影時間	料金
スチール撮影	エントランスロビー	9時～17時	4時間未満 25,000円
雑誌、商品カタログ、 商品広告、ファッション撮影等	ロビー エントランス前広場 正門広場、等	(荷物の搬入・ 搬出時間も撮影 時間に含める)	4時間以上8時間未満 50,000円
映像(ムービー)制作			4時間未満 50,000円
TV・CM、映画、 テレビドラマ、そ の他映像撮影			4時間以上8時間まで 100,000円

注) 上記撮影料金の他に、消費税を加算いたします。

フロアマップ

【M3 階（中3階）】

公募展第 9、10、11、12 事務室

【2 階】

公募展示室 2 階 第 1、2、3、4
レストラン「RESTAURANT MUSE」
プロジェクトルーム
スタジオ
アートスタディールム
企画展示室

公募展第 5、6、7、8 事務室
公募展示室 1 階 第 1、2、3、4
カフェ「cafe Art」
佐藤慶太郎記念 アートラウンジ
レストラン「RESTAURANT salon」
美術情報室
企画展示室

【MB 階（中1階）】

公募展第 1、2、3、4 事務室

【LB 階】

公募展示室 LB 階 第 1、2、3、4
事務室
救護室
授乳室
ミュージアムショップ
講堂
企画展示室

【地下2階】

ギャラリー C

【地下3階】

ギャラリー A
ギャラリー B



施設概要

住所 東京都台東区上野公園 8 番 36 号
地域・地区 第 1 種中高層住居専用地域
準防火地域／第 1 種文教地区／第 2 種風致地区／第 3 種高度地区
建ぺい率 40％
容積率 300％

敷地面積 16,638.84㎡
建築面積 7,999.47㎡
延床面積 37,748.81㎡
鉄筋コンクリート造／鉄骨鉄筋コンクリート造（一部）／鉄骨造（一部）

高さ 最高高さ 17.4m／軒高 15.6m
＊風致地区の高さ制限や公園法により、エントランスロビーを含むメインフロアは LB 階（地下 1 階）に設定されている。

【企画棟】

企画展示室
LB 階 709㎡（倉庫 55㎡、展示ケース 82㎡を含む）
1 階 713㎡（倉庫 55㎡、展示ケース 83㎡を含む）
2 階 714㎡（倉庫 57㎡を含む）
＊天井高 4.5m

【公募棟】

ギャラリー
A（地下 3 階） 412㎡、天井高 9.9m
B（地下 3 階） 303㎡、天井高 3m
C（地下 2 階） 470㎡、天井高 2.4m／5.8m

公募展示室

LB 階 第 1、第 2、第 3、第 4 3,040㎡
1 階 第 1、第 2、第 3、第 4 3,040㎡
2 階 第 1、第 2、第 3、第 4 3,040㎡
＊各 3 室、全 12 室、天井高 4.8m
＊ 1 室平均面積 760㎡、ロビー全面積 445㎡
＊ 1 室平均壁長 271m、全室壁長 3,256m

【中央棟】

ミュージアムショップ（LB 階） 127㎡
佐藤慶太郎記念 アートラウンジ（1 階） 391㎡（52 席）
カフェ「cafe Art（カフェ アート）」（1 階） 103㎡（50 席）
レストラン「RESTAURANT MUSE（レストラン ミューズ）」（2 階） 481㎡（200 席）

【交流棟】

講堂（LB 階） 284㎡
（客席 254㎡〔固定 225 席＋車椅子スペース 5 席〕、舞台 30㎡）
美術情報室（1 階） 88㎡（14 席）
レストラン「RESTAURANT salon（レストラン サロン）」（1 階） 249㎡（客席 50 席）
スタジオ（2 階） 146㎡
アートスタディールム（2 階） 153㎡

利用案内

【開館時間】

9:30 ～ 17:30（特別展開催中の金曜日は 9:30 ～ 20:00）
※いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで

【休室日】

特別展・企画展
毎週月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）
上記以外の展覧会
第 1・第 3 月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）

【全館休館日】

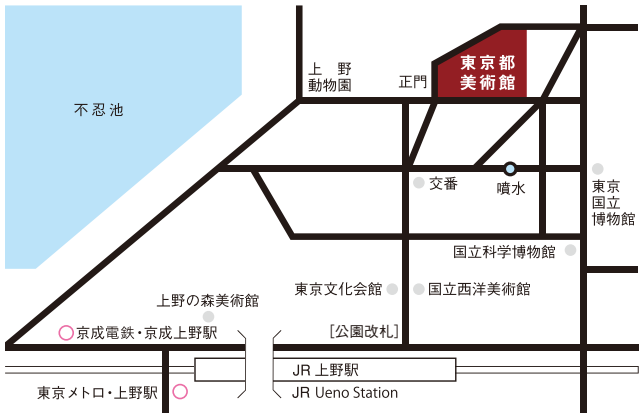
毎月第 1・第 3 月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）
整備休館
年末年始
12 月 29 日～ 1 月 3 日

【アメニティ施設】

○美術情報室（交流棟 1 階） 10:00 ～ 17:00 ※整備休室あり
○ミュージアムショップ（中央棟 LB 階） 9:30 ～ 17:30*
○レストラン「RESTAURANT MUSE」（中央棟 2 階） 11:00 ～ 17:30*
○レストラン「RESTAURANT salon」（交流棟 1 階） 11:00 ～ 17:30*
○カフェ「cafe Art」（中央棟 1 階） 9:30 ～ 17:30*
*特別展開催中の金曜日のみ 20:00 まで
※いずれも休みは美術館の全館休館日に準ずる

【アクセス】

・JR 上野駅 公園改札より徒歩 7 分
・東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅 7 番出口より徒歩 10 分
・京成電鉄 京成上野駅より徒歩 10 分
※駐車場はございませんので、車のご来館はご遠慮ください。



東京都美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
TEL 03-3823-6921（代表）
FAX 03-3823-6920

ホームページ <https://www.tobikan.jp>
X https://x.com/tobikan_jp
フェイスブック <https://www.facebook.com/TokyoMetropolitanArtMuseum>
インスタグラム <https://www.instagram.com/tokyometropolitanartmuseum>

令和6年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2024

発行日／令和7年10月
執筆・編集／東京都美術館
印刷／株式会社ルナテック
発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
TEL 03-3823-6921(代表)
FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum